

認定こども園 はなえみ保育園 令和 8 年度 教育及び保育の内容に関する全体的な計画

教育及び保育理念 ● 一人一人の子どもの最善の利益を守り、保護者の皆様と共に、心身を健やかに育む。 ● 子どもが様々な人と出会い、関わり、心を通わせながら成長していくために、乳幼児期にふさわしい生活の場を豊かにつくりあげていく。	
教育及び保育目標 ● 心も身体も健やかな子ども *子どもが生き生きと活動できるよう、発達に応じた遊具や用具を用意する *心と体の栄養になるよう、安全な食材でおいしい給食を提供する。 ● 自分らしさを発揮する子ども *生活の場面においても、遊びの場面においても、子どもが自分から考えたことを表現し、行動できるように環境を構成すると共に、子どもが自分らしく、のびのびと過ごせる時間と空間を大切にする。 ● 相手を思いやる子ども *常に子どもの気持ちを考えて接し、また、子どもが他人の気持ちを考えることができるよう援助する。 ● 認め合い、協力し合う子ども *子ども同士がお互いに生き生きと育ち合うための、仲間とのつながりを考えながら、様々な配慮や援助の方法を考えていく。 ● 豊かな感性と好奇心、探求心を持つ子ども *子どもを取り巻く自然や社会の中で、子ども達の感動や驚き、興味関心を引き出し、幅を広げ、質を高めていく。	
教育及び保育の基本方針	
〈家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの子どもを大切に育てるための教育及び保育〉 ● 保育教諭は常に温かく落ち着いた態度で子どもに接し、子どものあるがままを受け入れる。 ● 子どもが安全に安心して過ごせ、また、一人ひとりの発達や興味にあった遊びが豊かに展開できるよう教育及び保育環境を整え、子どもが自主的に遊ぶ姿を見守る。 ● 子ども自身が「愛されている」「認められている」「大切にされている」と感じられるように一人ひとりの子どもに愛情を持って寄り添う。 ● 伝承的な行事やわらべ歌遊びを取り入れ日本古来の文化を学ぶ。また、小動物や植物など自然との触れ合いを通して命の大切さや豊かな感性を育てる。 ● 3 歳未満児は担当制による丁寧な育児を通して、生活習慣の自立を図る。 ● 給食は、子どもの成長に即した内容で実施し、心身の健やかな発達を支える。 ● 楽しく食べる体験を通して、子どもの食への関心を育み、「食を営む力」の基礎を培う。 ● 十分な運動遊び、戸外遊びを通して全身の諸機能の調和的発達を促す。 ● 食事、排泄、睡眠、運動など毎日の生活リズムを整え、健康な身体の基礎をつくる。 ● 子どもの人格を尊重した教育及び保育を提供することで、自分も他者も大切にできる心を育てる。 色々な国や地域の文化に触れる経験を通して、違いに気付いたり相手を認めたりする心を育てる。	〈職員としての姿勢〉 ● 職員全員が子どもに関わり、よりよい人的環境になるよう心掛ける。 ● 一面的な見方ではなく、多方面から見つめ、子どもの理解に努める年齢ごとに発達を固定的にとらえることなく、個々に合わせた発達を長いスパン（時間の幅）の中でとらえる。 ● 職員間の連携を密にし、チームワークを組んで教育及び保育に取り組んでいく。 ● 教育及び保育について日々研鑽に努め、当園内外の研修を計画的に実施し、教育及び保育技能の向上に努める。 ● 専門機関や地域の関係機関と連携し、教育及び保育の質の向上を目指す。 ● 一人ひとりの保護者の方の状況を踏まえ、信頼関係を築き子育てをすすめる。 ● 職員は専門性を活かし、地域の子育て支援に貢献する。 ● 保護者の方や子どもの個人情報の取り扱いは適正に行い、在職中はもちろん離職後も、情報の保護、秘密の保持を行う。
	〈学校、地域との連携〉 ● アプローチカリキュラムの推進を図るとともに、小学校教育への円滑な接続に向けて園児と児童の交流、こども園職員と教師の意見交換や合同研究の機会を図る。 ● 地域との交流やボランティアの受け入れは、子どもや職員にとってより豊かな経験となるよう、また、本園が地域の施設として認められるよう、計画 性をもって積極的に行う。 ● 実習生の受け入れは、次代の保育教諭育成に欠かせないだけでなく、指導することによって自らの教育及び保育を客観視し自己を向上させる機会と なるため、計画性を持って積極的に行う。
ねらい及び内容並びに配慮事項 ※別紙 教育及び保育課程参照	
健康及び安全 ※別紙 保健計画参照 ※別紙 安全計画及び危険発生時対処要領（危機管理マニュアル）参照 ※別紙 食育計画参照	
子育ての支援 ※別紙 子育て支援事業計画参照	
職員の資質向上 ※別紙 研修計画参照	

認定こども園 はなえみ保育園 令和 7 年度 教育及び保育課程(保育時間 8 時間)						
養護	生命の保持		ねらい			
			①一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする。 ②一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする。 ③一人一人の子どもの生理的欲求が、十分に満たされるようにする。 ④一人一人の子どもの健康増進が、積極的に図られるようにする。			
養護	情緒の安定		①一人一人の子どもが、安定感をもって過ごせるようにする。 ②一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ③一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。 ④一人一人の子どもがくつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする。			
教育	幼保連携型認定こども園において育みたい資質・能力	「知識及び技能の基礎」	乳児期の園児の教育及び保育に関する三つの視点	満 1 歳以上満 3 歳未満の園児の教育及び保育に関する五つの領域	満 3 歳以上の園児の教育及び保育に関する五つの領域	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
			身体的発達に関する視点 「健やかに伸び伸びと育つ」 【健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を培う。】 ねらい (1) 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 (2) 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。 (3) 食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える。	心身の健康に関する領域「健康」 【健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。】 ねらい (1) 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。 (2) 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。 (3) 健康、安全な生活に必要な習慣に気づき、自分でしてみようとする気持ちが育つ。	心身の健康に関する領域「健康」 【健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。】 ねらい (1) 明るく伸び伸びと生活し、充実感を味わう。 (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につけ、見通しをもって行動する。	ア 健康な心と体 幼保連携型認定こども園における生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。 イ 自立心 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。 ウ 協同性 友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実 感をもってやり遂げるようになる。 エ 道徳性・規範意識の芽生え 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立つてするようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。 オ 社会生活との関わり 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼保連携型幼保連携型認定こども園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。 カ 思考力の芽生え 身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したり するなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。 キ 自然との関わり・生命尊重 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近 な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを味わうようになる。 ク 数量や図形、標識や文字などへの関心 感覚遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。 ケ 言葉による伝え合い 保育教諭等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。 コ 豊かな感性と表現 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自 分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。
			社会的発達に関する視点 「身近な人と気持ちが通じ合う」 【受容的・応答的な関わりの下で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。】 ねらい (1) 安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 (2) 体の動きや表情、発声等により、保育教諭等と気持ちを通わせようとする。 (3) 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。	人との関わりに関する領域「人間関係」 【他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。】 ねらい (1) 幼保連携型認定こども園での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。 (2) 周囲の園児等への興味・関心が高まり、関わりをもとうとする。 (3) 幼保連携型認定こども園の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く。	人との関わりに関する領域「人間関係」 【他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。】 ねらい (1) 幼保連携型認定こども園での生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 (2) 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感を持つ。 (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。	
			身近な環境との関わりに関する領域「環境」 【周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。】 ねらい (1) 身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。 (2) 様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。 (3) 見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。	身近な環境との関わりに関する領域「環境」 【周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。】 ねらい (1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で、様々な事象に興味や関心をもつ。 (2) 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 (3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。	身近な環境との関わりに関する領域「環境」 【周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。】 ねらい (1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で、様々な事象に興味や関心をもつ。 (2) 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 (3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。	
			精神的発達に関する視点 「身近なものと関わり感性が育つ」 【身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う。】 ねらい (1) 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。 (2) 見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。 (3) 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。	言葉の獲得に関する領域「言葉」 【経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。】 ねらい (1) 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。 (2) 人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。 (3) 絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。	言葉の獲得に関する領域「言葉」 【経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。】 ねらい (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを感じる。 (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育教諭等や友達と心を通わせる。	
			感性と表現に関する領域「表現」 【感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。】 ねらい (1) 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。 (2) 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。 (3) 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。	感性と表現に関する領域「表現」 【感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。】 ねらい (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。	感性と表現に関する領域「表現」 【感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。】 ねらい (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。	
		「学びに向かう力、人間性等」	「豊かな体験を通して、感じたり、気付いたり、できるよになったりする」	「心付いたことや、できるよになったことなどを思い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする」「思考力、判断力、表現力等の基礎」	「心付いたことや、できるよになったことなどを思い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする」「思考力、判断力、表現力等の基礎」	
			「心付いたことや、できるよになったことなどを思い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする」「思考力、判断力、表現力等の基礎」	「心付いたことや、できるよになったことなどを思い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする」「思考力、判断力、表現力等の基礎」	「心付いたことや、できるよになったことなどを思い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする」「思考力、判断力、表現力等の基礎」	
			「心付いたことや、できるよになったことなどを思い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする」「思考力、判断力、表現力等の基礎」	「心付いたことや、できるよになったことなどを思い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする」「思考力、判断力、表現力等の基礎」	「心付いたことや、できるよになったことなどを思い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする」「思考力、判断力、表現力等の基礎」	
			「心付いたことや、できるよになったことなどを思い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする」「思考力、判断力、表現力等の基礎」	「心付いたことや、できるよになったことなどを思い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする」「思考力、判断力、表現力等の基礎」	「心付いたことや、できるよになったことなどを思い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする」「思考力、判断力、表現力等の基礎」	

養護			ねらい	内容	配慮事項
			① 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする。 ② 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする。 ③ 一人一人の子どもの生理的欲求が、十分に満たされるようにする。 ④ 一人一人の子どもの健康増進が、積極的に図られるようにする。	① 一人一人の子どもの平常の健康状態や発育及び発達状態を的確に把握し、異常を感じる場合は、速やかに適切に対応する。 ② 家庭との連携を密にし、嘱託医等との連携を図りながら、子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める。 ③ 清潔で安全な環境を整え、適切な援助や応答的な関わりを通して子どもの生理的欲求を満たしていく。また、家庭と協力しながら、子どもの発達過程等に応じた適切な生活のリズムがつくられていくようにする。 ④ 子どもの発達過程等に応じて、適度な運動と休息を取ることができるようになる。また、食事、排泄せつ、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどについて、子どもが意欲的に生活できるよう適切に援助する。	乳児は疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いことから、一人一人の発育及び発達状態や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行うこと。また、一人一人の園児の生育歴の違いに留意しつつ、欲求を適切に満たし、特定の保育教諭等が応答的に関わるように努めること。更に、乳児期の園児の教育及び保育に関わる職員間の連携や学校医との連携を図り、第3章に示す事項を踏まえ、適切に対応すること。栄養士及び看護師等が配置されている場合は、その専門性を生かした対応を図ること。乳児期の園児の教育及び保育においては特に、保護者との信頼関係を築きながら教育及び保育を進めるとともに、保護者からの相談に応じ支援に努めていくこと。なお、担当の保育教諭等が替わる場合には、園児のそれまでの生育歴や発達の過程に留意し、職員間で協力して対応すること。
			① 一人一人の子どもが、安定感をもって過ごせるようにする。 ② 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ③ 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。 ④ 一人一人の子どもがくつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする。	① 一人一人の子どもの置かれている状態や発達過程などを的確に把握し、子どもの欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉がけを行う。 ② 一人一人の子どもの気持ちを受容し、共感しながら、子どもとの継続的な信頼関係を築いていく。 ③ 保育教諭等との信頼関係を基盤に、一人一人の子どもが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信をもつことができるよう成長の過程を見守り、適切に働きかける。 ④ 一人一人の子どもの生活のリズム、発達過程、教育及び保育時間などに応じて、活動内容のバランスや調和を図りながら、適切な食事や休息が取れるようにする。	
教育	幼保連携型認定こども園において育みたい資質・能力	「知識及び技能の基礎」	乳児期の園児の教育及び保育に関する三つの視点 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」 【健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の 基盤を培う。】 ねらい (1) 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 (2) 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。 (3) 食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える	内容 (1) 保育教諭等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする。 (2) 一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす。 (3) 個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ。 (4) 一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする。 (5) おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。	① 保健的な対応の実施 ② 保育教諭等の応答的な関わり ③ 専門性を生かした乳児期の園児の教育及び保育への対応 ④ 保護者支援 ⑤ 職員間の協力
		「思考力、判断力、表現力等の基礎」	社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」 【受容的・応答的な関わりの下で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。】 ねらい (1) 安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 (2) 体の動きや表情、発声等により、保育教諭等と気持ちを通わせようとする。 (3) 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。	(1) 園児からの働き掛けを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉掛けによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。 (2) 体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらい、保育教諭等とのやり取りを楽しむ。 (3) 生活や遊びの中で、自分の身近な人の存在に気づき、親しみの気持ちを表す。 (4) 保育教諭等による語り掛けや歌い掛け、発声や喃語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ。 (5) 温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える。	
		「心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活営もうとする学びに向かう力、人間性等」	精神的発達に関する視点「身近なものと関わり感性が育つ」 【身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う。】 ねらい (1) 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。 (2) 見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。 (3) 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。	(1) 身近な生活用具、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ。 (2) 生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気づき、感覚の働きを豊かにする。 (3) 保育教諭等と一緒に様々な色彩や形のものや絵本などを見る。 (4) 玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。 (5) 保育教諭等のあやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする。	

養護	生命の保持		ねらい	内容	配慮事項
			① 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする。 ② 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする。 ③ 一人一人の子どもの生理的欲求が、十分に満たされるようにする。 ④ 一人一人の子どもの健康増進が、積極的に図られるようにする。	① 一人一人の子どもの平常の健康状態や発育及び発達状態を的確に把握し、異常を感じる場合は、速やかに適切に対応する。 ② 家庭との連携を密にし、嘱託医等との連携を図りながら、子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める。 ③ 清潔で安全な環境を整え、適切な援助や応答的な関わりを通して子どもの生理的欲求を満たしていく。また、家庭と協力しながら、子どもの発達過程等に応じた適切な生活のリズムがつくられていくようにする。 ④ 子どもの発達過程等に応じて、適度な運動と休息を取ることができるようにする。また、食事、排泄せつ、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどについて、子どもが意欲的に生活できるよう適切に援助する。	
教育	情緒の安定		① 一人一人の子どもが、安定感をもって過ごせるようにする。 ② 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ③ 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。 ④ 一人一人の子どもがくつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする。	① 一人一人の子どもの置かれている状態や発達過程などを的確に把握し、子どもの欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉がけを行う。 ② 一人一人の子どもの気持ちを受容し、共感しながら、子どもとの継続的な信頼関係を築いていく。 ③ 保育教諭等との信頼関係を基盤に、一人一人の子どもが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信をもつことができるよう成長の過程を見守り、適切に働きかける。 ④ 一人一人の子どもの生活のリズム、発達過程、教育及び保育時間などに応じて、活動内容のバランスや調和を図りながら、適切な食事や休息が取れるようにする。	満1歳以上満3歳未満の園児は、特に感染症にかかりやすい時期であるので、体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行うとともに、適切な判断に基づく保健的な対応を心掛けること。また、探索活動が十分できるように、事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え、全身を使う遊びなど様々な遊びを取り入れること。更に、自我が形成され、園児が自分の感情や気持ちに気付くようになる重要な時期であることに鑑み、情緒の安定を図りながら、園児の自発的な活動を尊重するとともに促していくこと。なお、担当の保育教諭等が替わる場合には、園児のそれまでの経験や発達の過程に留意し、職員間で協力して対応すること。
			満1歳以上満3歳未満の園児の教育及び保育に関する五つの領域		
教育	幼保連携型認定こども園において育みたい資質・能力	豊かな体験を通して、感じたり、気付いたり分かったり、できるようになったり「知識及び技能の基礎」	心身の健康に関する領域「健康」 【健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。】 ねらい (1) 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。 (2) 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。 (3) 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。	(1) 保育教諭等の愛情豊かな受容の下で、安定感をもって生活をする。 (2) 食事や午睡、遊びと休息など、幼保連携型認定こども園における生活のリズムが形成される。 (3) 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ。 (4) 様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ (5) 身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く。 (6) 保育教諭等の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする。 (7) 便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる。	① 保健的な対応の実施 ② 活動しやすい環境の整備 ③ 自発的な活動の促進 ④ 職員間の協力
			人との関わりに関する領域「人間関係」 【他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。】 ねらい (1) 幼保連携型認定こども園での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。 (2) 周囲の園児等への興味・関心が高まり、関わりをもとうとする。 (3) 幼保連携型認定こども園の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く	(1) 保育教諭等や周囲の園児等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる。 (2) 保育教諭等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす。 (3) 身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の園児と関わりをもって遊ぶ。 (4) 保育教諭等の仲立ちにより、他の園児との関わり方を少しずつ身につける。 (5) 幼保連携型認定こども園の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く。 (6) 生活や遊びの中で、年長児や保育教諭等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。	
		「思考力、判断力、表現力等の基礎」 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする	身近な環境との関わりに関する領域「環境」 【周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。】 ねらい (1) 身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。 (2) 様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。 (3) 見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。	(1) 安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。 (2) 玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。 (3) 身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く。 (4) 自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ。 (5) 身近な生き物に気付き、親しみをもつ。 (6) 近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ。	
			言葉の獲得に関する領域「言葉」 【経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞くとうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。】 ねらい (1) 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。 (2) 人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。 (3) 絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。	(1) 保育教諭等の応答的な関わりや話し掛けにより、自ら言葉を使おうとする。 (2) 生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける。 (3) 親しみをもって日常の挨拶に応じる。 (4) 絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ。 (5) 保育教諭等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。 (6) 保育教諭等を仲立ちとして、生活や遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ。 (7) 保育教諭等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いた、話したりする。	
教育	幼保連携型認定こども園において育みたい資質・能力	「学びに向かう力、人間性等」 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする	感性と表現に関する領域「表現」 【感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。】 ねらい (1) 身体の手感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。 (2) 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。 (3) 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。	(1) 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。 (2) 音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。 (3) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。 (4) 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。 (5) 保育教諭等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする。 (6) 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。	

養護	生命の保持		ねらい	内容	配慮事項
			① 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする。 ② 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする。 ③ 一人一人の子どもの生理的欲求が、十分に満たされるようにする。 ④ 一人一人の子どもの健康増進が、積極的に図られるようにする。	① 一人一人の子どもの平常の健康状態や発育及び発達状態を的確に把握し、異常を感じる場合は、速やかに適切に対応する。 ② 家庭との連携を密にし、嘱託医等との連携を図りながら、子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な教育及び保育環境の維持及び向上に努める。 ③ 清潔で安全な環境を整え、適切な援助や応答的な関わりを通して子どもの生理的欲求を満たしていく。また、家庭と協力 ④ しながら、子どもの発達過程等に応じた適切な生活のリズムがつくられていくようにする。 ⑤ 子どもの発達過程等に応じて、適度な運動と休息を取ることができるようにする。また、食事、排泄せつ、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどについて、子どもが意欲的に生活できるよう適切に援助する。	(1)心身の発達や活動の実態等の個人差 園児の心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえるとともに、一人一人の園児の気持ちを受け止め、援助すること。 (2) 心と体の健康 園児の健康は、生理的・身体的な育ちとともに、自主性や社会性、豊かな感性の育ちとがあいまってもたらされることに留意すること。 (3) 環境への働き掛け 園児が自ら周囲に働き掛け、試行錯誤しつつ自分の力で行う活動を見守りながら、適切に援助すること。 (4) 途中入園時の個別対応 園児の入園時の教育及び保育に当たっては、できるだけ個別に対応し、園児が安定感を得て、次第に幼保連携型認定こども園の生活になじんでいくようにするとともに、既に入園している園児に不安や動揺を与えないようにすること。 (5) 国籍や文化の違い 園児の国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようにすること。 (6) 性差や個人差 園児の性差や個人差にも留意しつつ、性別などによる固定的な意識を植え付けることがないようにすること。
教育	情緒の安定		① 一人一人の子どもが、安定感をもって過ごせるようにする。 ② 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ③ 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。 ④ 一人一人の子どもがくつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする。	① 一人一人の子どもの置かれている状態や発達過程などを的確に把握し、子どもの欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉がけを行う。 ② 一人一人の子どもの気持ちを受容し、共感しながら、子どもとの継続的な信頼関係を築いていく。 ③ 保育教諭等との信頼関係を基盤に、一人一人の子どもが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信をもつことができるよう成長の過程を見守り、適切に働きかける。 ④ 一人一人の子どもの生活のリズム、発達過程、教育及び保育時間などに応じて、活動内容のバランスや調和を図りながら、適切な食事や休息が取れるようにする。	
	幼保連携型認定こども園において育みたい資質・能力	「知識及び技能の基礎」	満3歳以上の園児の教育及び保育に関する五つの領域	内容	
			心身の健康に関する領域「健康」 【健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。】 ねらい (1) 明るく伸び伸びと生活し、充実感を味わう。 (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	(1)保育教諭等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。 (2)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 (3)進んで戸外で遊ぶ。 (4)様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。 (5) 保育教諭等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。 (6)健康な生活のリズムを身に付ける。 (7)身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。 (8)幼保連携型認定こども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。 (9)自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 (10)危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。	
			人との関わりに関する領域「人間関係」 【他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。】 ねらい (1) 幼保連携型認定こども園での生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 (2) 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感を持つ。 (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。	(1)保育教諭等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 (2) 自分で考え、自分で行動する。 (3)自分でできることは自分でする。 (4)いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 (5) 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。 (6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 (7) 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。 (8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする。 (9) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 (10)友達との関わりを深め、思いやりをもつ。 (11) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。 (12) 共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う。 (13) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。	
		「思考力、判断力、表現力等の基礎」	身近な環境との関わりに関する領域「環境」 【周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。】 ねらい (1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で、様々な事象に興味や関心をもつ。 (2) 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 (3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。	(1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。 (2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。 (3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。 (4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。 (5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。 (6) 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。 (7) 身近な物を大切にする。 (8) 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。 (9) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。 (10) 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。 (11) 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。 (12) 幼保連携型認定こども園内外の行事において国旗に親しむ。	
			言葉の獲得に関する領域「言葉」 【経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞くこととする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。】 ねらい (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを感じる。 (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育教諭等や友達と心を通わせる。	(1) 保育教諭等や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。 (2) したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。 (3) したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。 (4) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。 (5) 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。 (6) 親しみをもって日常の挨拶をする。 (7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。 (8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。 (9) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。 (10) 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。	
		「学びに向かう力、人間性等」	感性と表現に関する領域「表現」 【感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。】 ねらい (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。	(1) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。 (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。 (3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。 (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。 (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。 (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。 (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。 (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。	

認定こども園 はなえみ保育園 令和 8 年度 教育及び保育課程 0 歳児(乳児期)					
養護	生命の保持		ねらい	内容	配慮事項
	情緒の安定		○保健的で安全な環境をつくり、体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適に生活できるようにする。 ○一人一人の子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 ○離乳を進め、様々な食品に慣れさせながら幼児食への移行を図る。 ○一人一人の子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。	●一人一人の子どもの健康状態を把握し、異常のある場合は適切に対応する。 ●一人一人の子どもの心身の発育や発達の状態を的確に把握する。 ●体、衣服、身の回りにあるものを、常に清潔な状態にしておく。 ●楽しい雰囲気の中で、喜んで食事ができるようにし、嘱託医などと相談して離乳を進めながら、次第に幼児食に移行させる。 ●一人一人の子どもの生活のリズムを大切にしながら、眠いときは安心して十分に眠ることができるようにする。 ●一人一人の子どもの排尿感覚を把握しながら、おむつが汚れたら、優しく言葉をかけながらこまめに取替え、きれいになった心地よさを感じることができるようにする。 ●一人一人の子どもの状態に応じて、嘱託医などと相談して、積極的に健康増進を図る。 ●室内外の温度、湿度に留意し、子どもの健康状態に合わせて衣服の調節をする。 ●一人一人の子どもの生理的欲求を十分に満たし、保育教諭等の愛情豊かな受容により、気持ちのよい生活ができるようにする。 ●食事の前後や汚れたときは、顔や手を拭いて、清潔になることの快さを喜ぶようにする。	◆感染症にかかりやすいので、発熱など体の状態、機嫌、元気など日常の状態の観察を十分に行い、変化が見られたときには適切に対応する。 ◆一人一人の子どもの発育・発達状態を適切に把握し、家庭と連携をとりながら、個人差に応じて教育及び保育を提供する。 ◆授乳、離乳は一人一人の子どもの健康状態や食欲に応じて行うとともに、発育・発達状態に応じて食品や調理形態に変化を持たせるなどして離乳を進め、適切な時期に離乳を完了し、幼児食に移行する。 ◆食事においては、咀嚼そしゃくや嚥下えんげの発達を適切に促せるように、食品や調理形態に配慮し、子どもが自分から食べようとする意欲や行動を大切にしながら適切な援助を行う。 ◆季節や一人一人の子どもの健康状態や活動状況に応じて睡眠できるように配慮し、また、睡眠中の状態の観察を怠ることなく、室温、衣服、寝具に配慮するとともに、起床後の健康状態や転落その他の事故がないように十分に注意する。 ◆健康増進を図るための活動は、一人一人の子どもの発育・発達状態、健康状態や気候などに配慮して行い、活動後は子どもの状態を十分に観察する。 ◆特定の保育教諭等との温かいふれあい、保育教諭等の優しい語りかけが、子どもの情緒を安定させ、順調な発育・発達を支えることを認識して子どもに接するように心掛ける。 ◆食事、排泄などへの対応は、一人一人の子どもの発育・発達状態に応じて、急がせることなく無理のないように行い、上手にできたときにはほめるなどの配慮をする。
教育	「知識及び技能の基礎」	「健やかに伸び伸びと育つ」 身体的発達に関する視点	○安全で活動しやすい環境のもとで、姿勢を変えたり、移動したり様々な身体活動を十分に行う。	●寝返り、はいはい、お座り、伝い歩き、立つ、歩くなどそれぞれの状態に合った活動を十分に行う。 ●つまむ、たたく、ひっぱるなど手や指を使って遊ぶ。	◆発達が進み、新しい行動が可能となると行動範囲が広がるので、身の回りのものなどについてはいつも十分な点検を行い、安全を確認した上で探索意欲を満たして自由に遊べるようにする。この時期には伝い歩きが始まるが、ほうことも十分に経験できるようにする。 ◆行動が活発になるので、十分な休息がとれるように配慮する。
		「身近な人と気持ち通じ合う」 社会的発達に関する視点	○優しく語りかけられたり、発声や喃語に応答されたりして、発語の意欲が育つ。	●喃語や片言を優しく受け止めてもらい、発語や保育教諭等とのやりとりを楽しむ。 ●生活や遊びの中での保育教諭等のすることに興味を持ったり、模倣したりすることを楽しむ。	◆楽しい雰囲気の中での保育教諭等との関わり合いを大切にし、ゆっくりと優しく話しかけるなど積極的に相手になって、言葉のやりとりを楽しむことができるように配慮する。
	「思考力、判断力、表現力等の基礎」	「身近なものと関わり感性が育つ」 精神的発達に関する視点	○絵本や玩具、身近な生活用具が用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心が芽生える。 ○聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手や指の機能を働かそうとする。	●保育教諭等の歌を楽しんで聞いたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しむ。 ●保育教諭等と一緒にきれいな色彩の物や身近なものの絵本を見る。 ●保育教諭等に見守られて、玩具や身の回りのもので一人遊びを十分に楽しむ。	◆遊びにおいては、個人差の大きい時期なので、一人一人の子どもの発育・発達状態をよく把握し、子どもが興味を持ち、自分からしてみようとする意欲を大切にし、温かく見守る。 ◆保育教諭等の優しい歌声や、快い音楽を聴く機会を豊富にし、また、好きな歌や音楽は繰り返すようにして、満足感を味わえるようにする。 さらに、大人の動作を見て模倣をする喜びを味わえるようにする。 ◆抱かれたり、一人歩きなどで、身近な自然の素材、生き物、乗り物などに接して楽しむ機会を持ち、子どもの外界への関心を広げるように配慮する。

認定こども園 はなえみ保育園 令和 8 年度 教育及び保育課程 0 歳児（満 1 歳以上）					
養護	生命の保持		ねらい	内容	配慮事項
	情緒の安定		○保健的で安全な環境をつくり、体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。 ○ 一人一人の子どもの生理的欲求や甘えなどの依存欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○様々な食品や調理形態に慣れ、楽しい雰囲気のもとで食べることができるようにする。 ○ 一人一人の子どもの状態に応じて、睡眠など適切な休息をとるようにし、快適に過ごせるようにする。	●一人一人の健康状態を把握し、異常のある場合は適切に対応する。 ●一人一人の子どもの心身の発育・発達の状態を的確に把握する。 ●体、衣服、身の回りにあるものを、常に清潔な状態にしておく。 ●室内外の温度、湿度に留意し、子どもの状態に合わせて衣服の調節をする。 ●一人一人の子どもの生活のリズムを大切にしながら、安心して午睡などをし、適切な休息ができるようにする。 ●おむつやパンツが汚れたら、優しく言葉をかけながら取り替え、きれいになった心地よさを感じることができるようにする。 ●食事の前後や汚れたときは顔や手を拭いて、きれいになった快さを感じることができるようにする。 ●楽しい雰囲気の中で、昼食や間食が食べられるようにする。	◆感染症にかかることが多いので、発熱など体の状態、機嫌、食欲、元気さなどの日常の状態の観察を十分に行之い、変化が見られたときは、適切に対応する。 ◆身体発育や精神や運動の機能の発達には、個人差が大きいことに配慮し、発育・発達の状態を正しく把握するとともに、その変化に気づいたときは的確な処置をとる。 ◆食欲や食事の好みに偏りが現れやすい時期なので、日常の心身の状態を把握しておき、無理なく個別に対応する。 ◆睡眠に当たっては、一人一人の子どもに適した接し方をして、十分に眠れるようにする。また、目覚めたときは、適切に応じるようにする。
教育	「知識及び技能の基礎」	心身の健康に関する領域「健康」	○安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ。 ○安心できる保育教諭等との関係の下で、食事、排泄などの活動を通して、自分でしようとする気持ちが芽生える。	●登る、降りる、跳ぶ、くぐる、押す、引っ張るなどの運動を取り入れた遊びや、いじる、たたく、つまむ、転がすなど手や指を使う遊びを楽しむ。 ●保育教諭等に見守られ、外遊び、一人遊びを十分に楽しむ。 ●保育教諭等の優しい言葉かけと援助で、衣服の着脱に興味を持つようにする。 ●スプーン、フォークを使って一人で食べようとする気持ちを持つようにする。 ●一人一人の子どもの排尿間隔を知り、おむつが汚れていないときに便器に座らせ、うまく排尿できたときはほめることなどを繰り返し、便器での排泄に慣れるようにする。	◆できるだけ外での活動を行うようにするが、外に出るときは、日照や気温などに注意して、帽子や服装に配慮し、子どもの体調に合わせて無理をしないようにする。また、活動などにより多量に汗をかいた後は水分の補給をする。 ◆歩行の発達に伴い行動範囲が広がり、探索行動が活発になるので、事故が発生しやすくなる。また、予測できない行動も多くなるので、環境や活動の状態、子ども相互の関わりなどに十分な注意を払う。 ◆衣類の着脱に当たっては、自分でしようとするのを励ましたり、うまくできたときはほめるなどして、自分でしようとする気持ちを大切ににする。 ◆食事は、一人一人の子どもの健康状態に応じ、無理に食べさせないようにし、自分でしようとする気持ちを大切ににする。また、食事のときには、一緒に噛むまねをして見せたりして、噛むことの大切さが身につくように配慮する。◆排泄は、ゆったりの気持ちで対応し、子どもが自分から便器に座ってみようと思うような話し方、接し方をする。
		人との関わりに関する領域「人間関係」	○安心できる保育教諭等の見守りの中で、身の回りの大人や子どもに関心を持ち関わろうとする。	●一人一人の子どもの気持ちを理解し、受容することにより、子どもとの信頼関係を深め、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。	◆子ども相互のけんかが多くなるが、不安感が強まらないように、保育教諭等の優しい語りかけなどによりお互いの存在に気づくように配慮する。
		身近な環境との関わりに関する領域「環境」	○身の回りの様々なものを自由にいじって遊び、外界に対する好奇心や関心を持つ。	●好きな玩具や遊具、自然物に自分から関わり、十分に遊ぶ。	◆個人差の大きい時期なので、一人一人の子どもの発育・発達状態をよく知り、楽しい雰囲気をつくるなどして、子どもが興味を持ち、自分から遊びを楽しめるように配慮する。 ◆自分でしようとしているときや何かに熱中しているときには温かく見守る。また、子どもの発見や驚きを見逃さず受け止め、好奇心や興味を満たすようにする。
	「学びに向かう力、人間性等」	言葉の獲得に関する領域「言葉」	○保育教諭等の話しかけや、発語が促されたりすることにより、言葉を使うことを楽しむ。	●保育教諭等の話しかけを喜んだり、自分から片言でしゃべることを楽しむ。 ●興味ある絵本を保育教諭等と一緒に見ながら、簡単な言葉の繰り返しや模倣をしたりして遊ぶ。	◆保育教諭等と一緒に絵本を見ながら、絵本の内容を動作や言葉で表したり、歌を歌ったりなどして、模倣活動を楽しめるようにする。
		感性と表現に関する領域「表現」	○身近な音楽に親しみ、それに合わせた体の動きを楽しむ。	●保育教諭等と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、また、体を動かしたりして遊ぶ	◆全身を使うような遊びや手や指を使う遊びでは、子どもの自発的な活動を大切にしながら、時には保育教諭等がやってみせるなど保育教諭等と一緒に楽しんで遊べるようにする。

認定こども園 はなえみ保育園 令和８年度 教育及び保育課程 １歳児						
養護	生命の保持		ねらい	内容	配慮事項	
	情緒の安定		○保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ○一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○楽しんで食事、間食をとることができるようにする。 ○午睡など適切に休息の機会をつくり、心身の疲れを癒して、集団生活による緊張を緩和する。	●一人一人の子どもの健康状態や発育・発達状態を把握し、異常のある場合は適切に対応する。 ●生活環境を常に清潔な状態に保つとともに、身の回りの清潔や安全の習慣が少しずつ身につくようにする。 ●一人一人の子どもの気持ちを理解し、受容することにより、子どもとの信頼関係を深め、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ●落ち着いた雰囲気の中で十分に眠る。	◆一人一人の子どもの発育・発達状態及び日常に見られる心身の状態を十分に把握し、その変化に気づいたときには適切な処置ができるように配慮する。	
教育	「知識及び技能の基礎」	領域「健康」	○保育教諭等と一緒に全身や手や指を使う遊びを楽しむ。 ○安心できる保育教諭等との関係の下で、食事、排泄などの身の回りの活動を自分でしようとする。	●走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う運動を取り入れた遊びや、つまむ、丸める、めくるなどの手や指を使う遊びを楽しむ。 ●自分の物、人の物の区別に気づくようになる。保育教諭等の適切な援助によって自分の物の置き場所が分かる ●楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようとする気持ちを持たせ、嫌いなものでもすこしずつ食べられるようにする。また、食事の後、保育教諭等の手助けによって、うがいなどを行うようにする。 ●自分から、あるいは言葉をかけてもらうなどして便所に行き、保育教諭が見守る中で自分で排泄する。 ●簡単な衣服は一人で脱ぐことができるようになり、手伝ってもらいながら一人で着るようになる。 ●顔を拭く、手を洗う、鼻を拭くなどを保育教諭等の手を借りながら少しずつ自分でする。	◆子どもが、楽しみながら全身や手を使う活動ができるような遊びを取り入れる。 ◆食事、排泄、睡眠、衣類の着脱など生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の子どもの発育・発達状態、健康状態に応じ、十分に落ち着いた雰囲気の中で行うことができるようにし、また、その習慣形成に当たっては、自分でしようとする気持ちを損なわないように配慮する。 ◆食事の前後、排泄の後などにおいては、自分で清潔にしようとする気持ちが持てるように配慮し、一人でできたときは十分にほめるようにする。 ◆外遊びや遊具で遊ぶ機会を多くし、遊具に慣れる経験を大切にしながら、子どもの自主性に応じて遊べるように工夫し、健康増進を図るように配慮する。 ◆衝動的な動作が多くなるので、子どもから目を離さないように注意する。 ◆活発な活動の後には、一人一人の子どもの状態によって適切な休息や水分を与えたり、汗を拭いたりして、体の状態を観察する。	
		領域「人間関係」	○身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう。	●保育教諭等の仲立ちによって、共同の遊具などを使って遊ぶ。	◆子ども同士のけんかが多くなるので、保育教諭等はお互いの気持ちを受容し、分かれやすく仲立ちをして、根気よく他の子どもとの関わり方を知らせていく。	
	「思考力、判断力、表現力等の基礎」	身近な環境との関わりに関する領域「環境」	○身の回りのものや親しみの持てる小動物や動物を見たり、触れたり、保育教諭等から話を聞いたりして興味や関心を広げる。	●身の回りの小動物、植物、事物などに触れ、それらに興味、好奇心を持ち、探索や模倣などをして遊ぶ。 ●保育教諭等と一緒に、水、砂、土、紙などの素材に触れて楽しむ。	◆自然や身近な事物などへの興味や関心を広げていくに当たっては、安全や衛生面に留意しながら、それらと触れ合う機会を十分に持つようにする。 また、保育教諭等がまず親しみや愛情を持って関わるようにして、子どもが自分からしてみようと思う気持ちを大切にする。	
		領域「言葉」	○保育教諭等を仲立ちとして、生活や遊びの中で言葉のやり取りを楽しむ。	●生活に必要な簡単な言葉を聞き分け、また、様々な出来事に関心を示し、言葉で表す。 ●保育教諭等と一緒に簡単なごっこ遊びをする中で言葉のやりとりを楽しむ。 ●絵本や紙芝居を楽しんで見たり聞いたりし、繰り返しのある言葉の模倣を楽しむ。	◆子どもの話はやさしく受け止め、自分から保育教諭等に話しかけたいという気持ちを大切にし、楽しんで言葉を使うことができるように配慮する。 ◆くり返しのある話や絵本を読んで聞かせたり、子どものしたことをお話にしたりして様々な興味を養うようにする。	
	「学びに向かう力、人間性等」	領域「表現」	○保育教諭等と一緒に人や動物の模倣をしたり、経験したことを思い浮かべたりして、ごっこ遊びを楽しむ。 ○興味のあることや経験したことなどを生活や遊びの中で、保育教諭等とともに好きなように表現する。	●保育教諭等と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、リズムに合わせて、体を動かしたりして遊ぶ。	◆生活や遊びの中で、子どものつぶやきやしぐさなどに保育教諭等が共感しながら、表現の喜びや芽生えを育てるように配慮する。 ◆歌うことや、音楽に合わせて体を動かすことを好むので、子どもの好む歌、簡単な歌詞、旋律の歌や曲を正しく、美しく表現するように配慮する。	

認定こども園 はなえみ保育園 令和 8 年度 教育及び保育課程 2 歳児 (満 3 歳未満及び満 3 歳以上)					
養護	生命の保持		ねらい	内容	配慮事項
	情緒の安定		○保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ○一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○楽しんで食事や間食をとることができるようにする。 ○午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	●一人一人の子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、異常を感じる場合は速やかに適切に対応する。また、子どもが自分から体の異常を訴えることができるようにする。 ●施設内の環境保健に十分に留意し、快適に生活できるようにする。 ●一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、保育教諭との信頼関係の中で、自分の気持ちや考えを安心して表すことができるなど情緒の安定した生活ができるようにする。 ●食事、排泄、睡眠、休息など生理的欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びができるようにする。	◆一人一人の子どもの平常の健康状態をよく観察し、異常を早く発見できるように注意する。異常を少しでも感じたら速やかに適切な対応をする。 ◆その時の気候や子どもの状態をよく把握し、気持ちよく活動できるように環境を整える。特に、施設内の採光、換気、保温、清潔など環境保健に配慮する。
教育	「知識及び技能の基礎」	領域「健康」	○外遊びを十分にするなど、遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。 ○食事、排泄、睡眠、衣服の着脱などの生活に必要な基本的な習慣が身につく。	●危ない場所に近づくことが少なくなり、危険な遊びに気づく。 ●外で十分に体を動かしたり、様々な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ。 ●楽しい雰囲気の中で、様々な食べ物を進んで食べようとする。 ●便所には適宜一人で行き、排尿、排便を自分でする。 ●保育教諭等に寄り添ってもらいながら、午睡などの休息を十分にとる。 ●保育教諭等の手助けを受けながら、衣服を自分で着脱する。 ●保育教諭等の手助けにより、自分で手洗いや鼻をかむなどして清潔を保つ。 ●体の異常を、少しは自分から訴える。	◆身の回りのことは一応自分でできるようになるが、自分でしようとする気持ちを大切にしながら、適切な援助をするように配慮する。 ◆食事は、摂取量に個人差が生じたり、偏食が出やすいので、一人一人の心身の状態を把握し、楽しい雰囲気の中でとれるように配慮する。 ◆用具、遊具などを扱う場合は、特に安全に配慮する。
		領域「人間関係」	○身近な人と関わり、友達と遊ぶことを楽しむ。	●保育教諭等に様々な欲求を受け止めてもらい、保育教諭等に親しみを持ち安心感を持って生活する。 ●友達とごっこ遊びなどを楽しむ。 ●遊具や用具などを貸したり借りたり、順番を待ったり交代したりする。 ●簡単なきまりを守る。 ●保育教諭等の手伝いをするのを喜ぶ。 ●遊んだ後の片づけをするようになる。 ●年上の友達と遊んでもらったり、模倣して遊んだりする。 ●地域の人と触れ合うことを喜ぶ。	◆友達との関係については、保育教諭等や遊具その他のものを仲立ちとして、その関係が持てるように配慮する。 ◆初めて集団生活する子どもには、特に心身の疲労を緩和するように配慮し、個別に対応しながら、次第に集団生活に適応できるように他の子どもとの触れ合いの機会を多くするなど配慮する。
	「思考力、判断力、表現力等の基礎」	領域「環境」	○身近な動植物や自然事象に親しみ、自然に触れ十分に遊ぶことを楽しむ。 ○身近な社会事象に親しみ、模倣したりして遊ぶことを楽しむ。 ○身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、生活を広げていく。 ○様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づく。	●身近な動植物をはじめ自然事象をよく見たり、触れたりなどして驚き、親しみを持つ。 ●身近な人々の生活を取り入れたごっこ遊びを楽しむ。 ●自分のものと人のもとの区別を知り、共同のもとの区別にも気づく。 ●身近な事物に関心を持ち、触れたり、集めたり、並べたりして遊ぶ。 ●様々な用具、材料に触れ、それを使って遊びを楽しむ。 ●生活や遊びの中で、身の回りの物の色、数、量、形などに興味を持ち、違いに気づく。 ●園の行事に参加して、喜んだり楽しんだりする。	◆身近の様々なものに興味を持つので、その興味、探索意欲などを十分に満足させるように環境を整え、保健、安全面に留意して意欲的に関われるようにする。 ◆身の回りの出来事や住んでいる地域の人々の生活が自分の生活と関わりがあることに気づくように配慮する。
		領域「言葉」	○生活に必要な言葉がある程度分かり、したいこと、して欲しいことを言葉で表す。 ○絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、その内容や面白さを楽しむ。	●あいさつや返事など生活や遊びに必要な言葉を使う。 ●自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、保育教諭等や友達と言葉のやりとりを楽しむ。 ●保育教諭等にして欲しいこと、困ったことを言葉で訴える。 ●保育教諭等に、いろいろな場面で、なぜ、どうして、などの質問をする。 ●興味を持った言葉を、面白がって聞いたり言ったりする。 ●絵本や童話などの内容が分かり、イメージを持って楽しんで聞く。 ●ごっこ遊びの中で、日常生活での言葉を楽しんで使う。	◆子どもが保育教諭等に話したいことの意味をくみ取るように努め、話したいという気持ちを十分に満たすことができるように配慮する。 ◆絵本や童話、紙芝居などの面白さが分かるように配慮するとともに、生活の中でできるだけ言葉と行動や出来事が結びつくように配慮する。 ◆言葉は、聞いて覚えるものであることに着目し、保育教諭等は自らの言葉遣いに配慮する。
	「学びに向かう力、人間性等」	領域「表現」	○感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり、体を動かしたりして、自由に表現しようとする。	●身の回りの様々なものの音、色、形、手ざわり、動きなどに気づく。 ●音楽に親しみ、聞いたり、歌ったり、体を動かしたり、簡単なリズム楽器を鳴らしたりして楽しむ。 ●様々な素材や用具を使って、好きなように描いたり、扱ったり、形を作ったりして遊ぶ。 ●動物や乗り物などの動きを模倣して、体で表現する。 ●絵本や童話などに親しみ、興味を持ったことを保育教諭等と一緒に言ったり、歌ったりなど様々な表現して遊ぶ。	◆身近なものに直接触れたり扱ったりして、新しいものに驚いたり不思議に思うなど感動する経験が広がるように配慮する。 ◆一人一人の子どもの興味や自発性を大切にし、自分から表現しようとする気持ちが育つように配慮する。

認定こども園 はなえみ保育園 令和８年度 教育及び保育課程 ３歳児					
養護	生命の保持		ねらい	内容	配慮事項
	情緒の安定		○保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ○一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○友達と一緒に食事をしたり、様々な食べ物を食べる楽しさを味わうようにする。 ○午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	●一人一人の子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、異常を感じる場合は速やかに適切な対応をする。また、子どもが自分から体の異常を訴えることができるようにする。 ●施設内の環境保健に十分に留意し、快適に生活できるようにする。 ●食事、排泄、睡眠、休息など生理的欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びができるようにする。 ●一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、保育教諭との信頼関係の中で、自分の気持ちや考えを安心して表すことができるなど、情緒の安定した生活ができるようにする。	◆一人一人の子どもの平常の健康状態を把握し、異常に気づいたら優しく問いかけをし、子どもがその状態を話すことができるように配慮するとともに、必要に応じ、速やかに適切な対処をする。 ◆施設内の採光、換気、保温、清潔など環境保健に配慮する。 ◆子どもの気持ちを温かく受容し、個人差を考慮して、子どもが安定して活動できるように配慮する。
教育	「知識及び技能の基礎」	領域「健康」 心身の健康に関する	○身近な遊具や用具を使い、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○自分でできることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣を次第に身につける。	●進んで外で体を十分に動かして遊ぶ。 ●遊具、用具や自然物を使い、様々な動きを組み合わせで積極的に遊ぶ。 ●食べ慣れないものや嫌いなものでも少しずつ食べようとする。 ●排泄やその後の始末などは、ほとんど自分でする。 ●嫌がるときもあるが、保育教諭が言葉をかけることなどにより午睡や休息をする。 ●衣服などの着脱を順序よくしたり、そのときの気候や活動に合わせて適宜調節をする。 ●自分で鼻をかんだり、顔や手を洗うなど、体を清潔にする。 ●体の異常について、自分から保育教諭に訴える。 ●危険なものや場所について分かり、遊具、用具などの使い方に気をつけて遊ぶ。	◆健康、安全など生活に必要な基本的な習慣は、一人一人の子どもと保育教諭等の親密な関係に基づいて、日常生活の直接的な体験の中で身につくように配慮する。 ◆子どもの冒険心を大切に、新しい運動や遊びに対する不安や恐れを取り除くなどして、いきいきとした活動が展開できるように配慮する。 ◆子どもの生活や経験と遊離した特定の運動や無理な技能の修得に偏らないように配慮する。
		領域「人間関係」 人との関わりに関する	○保育教諭や友達の言うことを理解しようとする。 ○友達とのつながりを広げ、集団で活動することを楽しむ。 ○異年齢の子どもに関心を持ち、関わりを広める。	●保育教諭や友達などとの安定した関係の中で、いきいきと遊ぶ。 ●自分のしたいと思うこと、してほしいことははっきり言うようになる。 ●友達と生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。 ●保育教諭の言うことや友達の考えていることを理解して行動する。 ●身の回りの人に、いたわりや思いやりの気持ちを持つ。 ●手伝ったり、人に親切にすることや、親切にされることを喜ぶ。 ●他人に迷惑をかけたら謝る。 ●共同のものを大切に、譲り合って使う。 ●年下の子どもに親しみを持ったり、年上の子どもとも積極的に遊ぶ。 ●地域のお年寄りなど身近な人の話を聞いたり、話しかけたりする。 ●外国の人など、自分とは異なる文化を持った人の存在に気づく。	◆集団の活動に参加するときは、一人一人の子どもが、それぞれの欲求を満たすことができるよう配慮する。 ◆友達とのけんかを経験しながら、次第に相手の立場の理解が進み、時には自分の主張を抑制することによって、楽しく遊べることに気づくように配慮する。その際、保育教諭等の優しいまなざしが向けられるようにすることが大切である。
	「思考力、判断力、表現力等の基礎」	領域「環境」 身近な環境との関わりに関する	○身近な動植物に親しみ、それらに関心や愛情を持つ。 ○身の回りの人々の生活に親しみ、身近な社会の事象に関心を持つ。 ○身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、身の回りの物事や数、量、形などに関心を持つ。 ○身近な事物などに関心を持ち、それらの面白さ、不思議さ、美しさなどに気づく。	●身近な動植物の世話を楽しんで行い、愛情を持つ。 ●自然や身近な事物・事象に触れ、興味や関心を深める。 ●身近にある公共施設に親しみ、関わることを喜ぶ。 ●身近にある乗り物に興味や関心を示し、それらを遊びに取り入れようとする。 ●自分のもの、人のものを知り、共同のものの区別に気づき、大切にしようとする。 ●身近な大人の仕事や生活に興味を持ったり、それらを取り入れたりして遊ぶ。 ●身近にある用具、器具などに関心を持ち、いじったり、試したりする。 ●具体的な物を通して、数や量などに関心を持ち、簡単な数の範囲で数えたり比べたりすることを楽しむ。 ●身の回りの物の色、形などに興味を持ち、分けたり、集めたりして遊ぶ。 ●園内外の行事に楽しんで参加する。	◆動植物の飼育や栽培の手伝いを通して、それらへの興味や関心を持つようにし、その成長・変化などに感動し、愛護する気持ちを育てるようにする。 ◆家庭や地域の実態に即して、様々な経験ができるようにし、子どもの発見や驚きを大切に、社会や自然の事象に関心を持つように配慮する。 ◆数、量、形などについては、直接それらを取り上げるのではなく、生活や遊びの中で子ども自身の必要に応じて、具体的に体験できるようにして数量的な感覚を育てるように配慮する。 ◆保育教諭等の言動は、子どもが美しいものを感じたり、よいものを選んだりすることに強い影響を及ぼすので、それに留意する。
		領域「言葉」 言葉の獲得に関する	○人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。 ○絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、イメージを広げ、言葉を豊かにする。	●日常生活に必要なあいさつをする。 ●話しかけられたり、問いかけられたりしたら、自分なりに言葉で返事をする。 ●身の回りの出来事に関する話に興味を持つ。 ●友達との会話を楽しむ。 ●見たことや聞いたことを話したり、疑問に思ったことを尋ねる。 ●保育教諭の話を親しみを持って聞いたり、保育教諭と話したりして、様々な言葉に興味を持つ。 ●絵本や童話などを読み聞かせてもらい、イメージを広げる。	◆保育教諭等との間や子ども同士で話す機会を多くし、その中で次第に聞くこと、話すことが楽しめるように配慮する。 ◆日常会話や絵本、童話、詩などを通して、様々な言葉のきまりや面白さなどに気づき、言葉の感覚が豊かになるように配慮する。
	「学びに向かう力、人間性等」		領域「表現」 感性と表現に関する ○感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で自由に表現する。	●様々なものの音、色、形、手ざわり、動きなどに気づき、驚いたり感動したりする。 ●友達と一緒に音楽を聴いたり、歌ったり、体を動かしたり、楽器を鳴らしたりして楽しむ。 ●感じたこと、思ったことや想像したことなどを様々な素材や用具を使って自由に描いたり、作ったりすることを楽しむ。 ●童話、絵本、視聴覚教材などを見たり、聞いたりしてイメージを広げ、描いたり、作ったり様々な表現で遊ぶ。 ●作ったものを用いて遊んだり、保育教諭等や友達と一緒に身の回りを美しく飾って楽しむ。 ●身近な生活経験をごっこ遊びに取り入れて遊ぶ楽しさを味わう。	◆子どものイメージが湧き出るような素材、玩具、用具、生活用品などを用意して、のびのびと表現して遊ぶことができるように配慮する。 ◆子ども同士の模倣や認め合いを大切にしながら、表現する意欲や創造性を育てるように配慮する。 ◆表現しようとする気持ちを大切に、生活や経験と遊離した特定の技能の修得に偏らないように配慮する。

認定こども園 はなえみ保育園 令和 8 年度 教育及び保育課程 4 歳児					
養護	生命の保持		ねらい	内容	配慮事項
	情緒の安定		○保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ○一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○食事をすることの意味が分かり、楽しんで食事や間食をとるようにする。 ○午睡など適切な休息をさせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	●一人一人の子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、異常を感じる場合は速やかに適切な対応をする。また、子どもが自分から体の異常を訴えることができるようにする。 ●施設内の環境保健に十分に留意し、快適に生活できるようにする。 ●一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、保育教諭との信頼関係の中で、自分の気持ちや考えを安心して表すことができるなど、情緒の安定した生活ができるようにする。 ●食事、排泄、睡眠、休息など生理的欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びができるようにする。	◆一人一人の子どもの平常の状態を把握し、異常に気づいたら優しく問いかけをし、子どもがその状態を話すことができるように配慮するとともに、必要に応じて速やかに適切な対処をする。 ◆施設内の採光、換気、保温、清潔など環境保健に配慮する。 ◆子どもの気持ちを温かく受容し、幼保連携型認定こども園生活の様々な場面で、子どもが安定し、かつ自己を十分に発揮して活動できるように配慮する。
教育	「知識及び技能の基礎」	領域「健康」 心身の健康に関する	○様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。 ○自分でできることの範囲を広げながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける。 ○安全や危険の意味やきまりが分かり、危険を避けて行動する。	●保育教諭や友達などとの安定した関係の中で、意欲的に遊ぶ。 ●簡単なきまりをつくり出したりして、友達と一緒に遊びを発展させる。 ●自分の意見を主張するが、相手の意見も受け入れる。 ●友達と一緒に食事をし、食事の仕方が身に付く。 ●友達への親しみを広げ、深め、自分たちでつくったきまりを守る。 ●友達への思いやりを深め、一緒に喜んだり悲しんだりする。 ●人に迷惑をかけないように人の立場を考えて行動しようとする。 ●共同の遊具や用具を譲り合って使う。 ●異年齢の子どもとの関わりを深め、思いやりやいたわりの気持ちを持つ。 ●地域のお年寄りなど身近な人に感謝の気持ちを持つ。 ●外国の人など自分とは異なる文化を持った様々な人に関心を持つようになる。	◆健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度が身につき、自分の体を大切にしようとする気持ちが育ち、自主的に行動することができるように配慮する。 ◆友達との遊びを通して、体を使って遊ぶことを楽しめるように配慮する。 ◆子どもの生活や経験と遊離した特定の運動や無理な技能の修得に偏らないように配慮する。
		領域「人間関係」 人との関わりに関する	○周りの人々に対する親しみを深め、集団の中で自己主張したり、また、人の立場を考えながら行動する。 ○異年齢の子どもたちと遊ぶ楽しさを味わう。	●保育教諭や友達などとの安定した関係の中で、意欲的に遊ぶ。 ●簡単なきまりをつくり出したりして、友達と一緒に遊びを発展させる。 ●自分の意見を主張するが、相手の意見も受け入れる。 ●友達と一緒に食事をし、食事の仕方が身に付く。 ●友達への親しみを広げ、深め、自分たちでつくったきまりを守る。 ●友達への思いやりを深め、一緒に喜んだり悲しんだりする。 ●人に迷惑をかけないように人の立場を考えて行動しようとする。 ●共同の遊具や用具を譲り合って使う。 ●異年齢の子どもとの関わりを深め、思いやりやいたわりの気持ちを持つ。 ●地域のお年寄りなど身近な人に感謝の気持ちを持つ。 ●外国の人など自分とは異なる文化を持った様々な人に関心を持つようになる。	◆一人一人の子どもが友達と関わる中で、個人や社会生活に必要な習慣や態度が身につくように配慮する。 ◆グループを作る場合は、様々な場面で自分を主張でき、相手の立場を認め、他人のよいところを見つける力を育つように配慮する。 ◆集団生活は、一人一人が生かされ認められるよう、また、子どもが相互に必要な存在であることを実感できるように進められることが必要である。
	「思考力、判断力、表現力等の基礎」	領域「環境」 身近な環境との関わりに関する	○身近な社会や自然事象への関心が高まり、様々なものの面白さ、不思議さ、美しさなどに感動する。 ○身近な社会や自然の環境と触れ合う中で、自分たちの生活との関係に気づき、それらを取り入れて遊ぶ。 ○日常生活に必要な事物を見たり、扱ったりなどして、その性質や存在に興味を持ったり、数、量、形などへの関心を深める。	●身近な動植物に関心を持ち、いたわり、世話をする。 ●自然事象が持つ、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気づく。 ●身近な公共施設や交通機関などに興味や関心を持つ。 ●近隣の生活に興味や関心を持ち、人々が様々な営みをしていることに気づく。 ●身近にいる大人が仕事をしている姿を見て、自らも進んで手伝いなどをしようとする。 ●自然や身近な事物・事象に関心を持ち、それを遊びに取り入れ、作ったり、工夫したりする。 ●身近な用具、器具などに興味を持ち、その仕組みや性質に関心を持つ。 ●身近な物を大切に扱い、自分の持ち物を整頓する。 ●生活の中で物を集めたり、分けたり、整理したりする。 ●簡単な数の範囲で、物を数えたり、比べたり、順番を言ったりする。 ●生活の中で、前後、左右、遠近などの位置の違いや時刻、時間などに興味や関心を持つ。 ●園内外の行事に喜んで参加する。 ●祝祭日などに関心を持ち生活に取り入れて遊ぶ。	◆飼育・栽培を通して、動植物がどのようにして生きているのか、育つのか興味を持ち、生命が持つ不思議さに気づくようにする。 ◆動植物と自分たちの生活との関わりに目を向け、それらに感謝やいたわりの気持ちを育てていくようにする。 ◆生活の様々な面を通して、自然や社会の事象に対して、好奇心や探索心を満たすことができるように配慮する。 ◆身近にいる大人の仕事をみて、自分の生活と大切な関わりのあることに気づくように配慮する。 ◆日常生活の中で子ども自身の具体的な活動を通して、数、量、形、位置、時間などに気づくように配慮する。
		「学びに向かう力、人間性等」	領域「言葉」 言葉の獲得に関する	○様々な機会や場で活発に話したり、聞いたりして、生活の中で適切に言葉を使う。 ○絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、その内容や面白さを楽しみ、イメージを豊かにげる。	●親しみを持って日常のあいさつをする。 ●話しかけや問いかけに対し適切に応答する。 ●身近な事物や事象などについて話したり、名前や日常生活に必要な言葉を使う。 ●人の話を注意して聞き、相手にも分かるように話す。 ●考えたこと経験したことを保育教諭や友達に話して会話を楽しむ。 ●童話や詩などを聞いたり、自ら表現したりして、言葉の面白さや美しさに興味を持つ。 ●絵本、童話などに親しみ、その面白さが分かって、想像して楽しむ。 ●生活に必要な簡単な文字や記号などに関心を持つ。
領域「表現」 感性と表現に関する	○感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して、表現する。		●様々な音、形、色、手ざわり、動きなどを周りのものの中で気づいたり見つけたりして楽しむ。 ●音楽に親しみ、みんなと一緒に聴いたり、歌ったり、踊ったり、楽器を弾いたりして、音色の美しさやリズムの楽しさを味わう。 ●様々な素材や用具を利用して描いたり、作ったりすることを工夫して楽しむ。 ●身近な生活に使う簡単なものや様々な遊びに使うものを工夫して作る。 ●友達と一緒に描いたり、作ったりすることや身の回りを美しく飾ることを楽しむ。 ●自分の想像したものを体の動きや言葉などで表現したり、興味を持った話や出来事を演じたりして楽しむ。	◆表現しようとする意欲を高め、結果にとらわれず、一人一人の子どもの創意工夫を認め、創造的な喜びが味わえるように配慮する。 ◆子どもの考えや子ども同士の認め合いを大切にし、みんなで一緒に表現することの喜びを味わうことができるように配慮する。 ◆表現しようとする気持ちを大切にし、生活や経験と遊離した特定の技能の修得に偏らないように配慮する。	

認定こども園 はなえみ保育園 令和8年度 教育及び保育課程 5歳児					
養護	生命の保持		ねらい	内容	配慮事項
	情緒の安定		○保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ○一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○できるだけ多くの種類の食べ物を取り、楽しんで食事や間食をとるようにする。 ○午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	●一人一人の子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、異常を感じる場合は速やかに適切な対応をする。また、子どもが自分から体の異常を保育教諭に訴えることができるようにする。 ●施設内の環境保健に十分に留意し、快適に生活できるようにする。 ●一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、保育教諭との信頼関係の中で自分の気持ちや考えを安心して表すことができるなど、情緒の安定した生活ができるようにする。 ●食事、排泄、睡眠、休息など生理的欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びができるようにする。	◆一人一人の子どもの平常の状態を把握し、異常に気づいたら優しく問いかけをして、子どもがその状態を話すことができるように配慮するとともに、必要に応じて、適切な対応をする。 ◆施設内の採光、換気、保温、清潔など環境保健に配慮する。 ◆子どもの気持ちを温かく受容し、幼保連携型認定こども園生活を十分に楽しめるよう、子どもが安定し、かつ自己を十分に発揮して活動できるように配慮する。
教育	「知識及び技能の基礎」	領域「健康」 心身の健康に関する	○様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団的な遊びを通して体を動かすことを楽しむ。 ○体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける。 ○安全に必要な基本的な習慣や態度を身につけ、そのわけを理解して行動する。	●保育教諭や友達などとの安定した関係の中で、意欲的に生活や遊びを楽しむ。 ●集団遊びの楽しさが分かり、きまりを作ったり、それを守ったりして遊ぶ。 ●進んで自分の希望や意見、立場を主張したり、一方で相手の意見を受け入れたりする。 ●友達との生活や遊びの中できまりがあることの大切さに気づく。 ●自分で目標を決め、それに向かって友達と協力してやり遂げようとする。 ●友達との関わりの中でよいことや悪いことがあることが分かり、判断して行動する。 ●共同の遊具や用具を大切にし、譲り合って使う。 ●自分より年齢の低い子どもに、自ら進んで声かけをして誘い、いたわって遊ぶ。 ●外国の人など自分とは異なる文化をもった様々な人に関心を持ち、知ろうとするようになる。	◆健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を身につけることの大切さを理解し、適切な行動を選択することができるように配慮する。 ◆様々な運動に取り組み、成就の喜びや自身を持つことができるように配慮する。 ◆子どもの生活や経験と遊離した特定の運動や無理な技能の修得に偏らないように配慮する。
		領域「人間関係」 人との関わりに関する	○進んで身近な人と関わり、信頼感や愛情を持って生活する。 ○身近な人との関わりの中で、人の立場を理解して行動し、進んで集団での活動に参加する。 ○進んで異年齢の子どもたちと関わり、生活や遊びなどで役割を分担する楽しさを味わう。	●保育教諭や友達などとの安定した関係の中で、意欲的に生活や遊びを楽しむ。 ●集団遊びの楽しさが分かり、きまりを作ったり、それを守ったりして遊ぶ。 ●進んで自分の希望や意見、立場を主張したり、一方で相手の意見を受け入れたりする。 ●友達との生活や遊びの中できまりがあることの大切さに気づく。 ●自分で目標を決め、それに向かって友達と協力してやり遂げようとする。 ●友達との関わりの中でよいことや悪いことがあることが分かり、判断して行動する。 ●共同の遊具や用具を大切にし、譲り合って使う。 ●自分より年齢の低い子どもに、自ら進んで声かけをして誘い、いたわって遊ぶ。 ●外国の人など自分とは異なる文化をもった様々な人に関心を持ち、知ろうとするようになる。	◆様々な人の存在に気づき、人に役立つことの喜びを感じることができるように配慮する。 ◆身近に住んでいる様々な人と交流し、共感し合う体験を通して人と関わることの楽しさや大切さを味わうことができるように配慮する。 ◆周りにいる人たちがすべてかけがえのない存在であり、一人一人を尊重しなければならないことに気づくように配慮する。
	「思考力、判断力、表現力等の基礎」	領域「環境」 身近な環境との関わりに関する	○身近な社会や自然事象への関心を深め、美しさ、やさしさ、尊さなどに対する感覚を豊かにする。 ○身近な社会や自然の環境に自ら関わり、それらと自分たちの生活との関係に気づき、生活や遊びに取り入れる。 ○身近な事物や事象に積極的に関わり、見たり扱ったりする中で、その性質や数、量、形への関心を深める。	●身近な動植物に親しみ、いたわったり、進んで世話をしたりする。 ●自然事象の性質や変化、大きさ、美しさ、不思議さなどに関心を深める。 ●身近な公共施設などの役割に興味や関心を持つ。 ●園や地域でみんなが使うものを大切にする。 ●大人が仕事をするの意味が分かり、工夫して手伝いなどをするようになる。 ●季節により人間の生活に変化のあることに気づく。季節により自然に変化があることが分かり、それについて理解する。 ●自然や身近な事物・事象に関心を持ち、それらを取り入れて遊ぶ。 ●日常生活に必要な用具、器具などに興味や関心を持ち、安全に扱う。 ●身近にある事物の働きや仕組み、性質に興味や関心を持ち、考えたり、試したり、工夫したりして使おうとする。 ●身近なものを整頓する。 ●日常生活の中で簡単な数を数えたり、順番を理解する。 ●日常生活の中で数や量の多少は、形に関わりがないことを理解する。 ●身近にある標識や文字、記号などに関心を示す。 ●身の回りの物には形や位置などがあることに関心を持つ。 ●生活や遊びの中で時刻、時間などに関心を持つ。 ●園内外の行事に進んで参加し、自分なりの役割を果たす。 ●祝祭日などに関心を持ち生活に取り入れて遊ぶ。	◆動植物との触れ合いや飼育・栽培などを通して、自分たちの生活との関わりに気づき、感謝の気持ちや生命を尊重する心が育つようにする。 ◆大人の仕事の意味が分かり、手伝いなどを積極的に教育及び保育に組み入れるように配慮する。 ◆社会や自然の事象を直接的に体験できるようにし、必要に応じて視聴覚教材などを活用して、身近な事象をより確かに理解できるように配慮する。 ◆飼育・栽培を通して、生命を育む自然の摂理の偉大さに畏敬の念を持つように配慮する。 ◆生活や遊びの中で、様々な事物と具体的な体験を通して、数、量、形、位置、時間などについての感覚が、無理なく養われるように配慮する。
		「学びに向かう力、人間性等」	領域「言葉」 言葉の獲得に関する	○自分の経験したこと、考えたことなどを適切な言葉で表現し、相手と伝え合う楽しさを味わう。 ○人と話し合うことや、身近な文字に関心を深め、読んだりすることの楽しさを味わう。 ○絵本や童話、視聴覚教材などを見たり、聞いたりして様々なイメージを広げるとともに、想像することの楽しさを味わう。	●日常のあいさつ、伝言、質問、応答、報告が上手になる。 ●身近な事物や事象について話したり、日常生活に必要な言葉を適切に使う。 ●みんなで共通の話題について話し合うことを楽しむ。 ●話し相手や場面の違いにより、使う言葉や話し方が違うことに気づく。 ●人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。 ●童話や詩などの中の言葉の面白さ、美しさに気づき、自ら使って楽しむ。 ●絵本や物語などに親しみ、内容に興味を持ち、様々に想像して楽しむ。 ●身近にある文字や記号などに興味や関心を持ち、それを使おうとする。
	領域「表現」 感性と表現に関する		○感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で工夫して自由に表現する。	●様々な音、形、色、手ざわり、動きなどに気づき、感動したこと、発見したことなどを創造的に表現する。 ●音楽に親しみ、みんなと一緒に聴いたり、歌ったり、踊ったり、楽器を弾いたりして、音色やリズムの楽しさを味わう。 ●様々な素材や用具を適切に使い、経験したり、想像したことを、創造的に描いたり、作ったりする。 ●身近な生活に使う簡単な物や、遊びに使う物を工夫して作って楽しむ。 ●協力し合って、友達と一緒に描いたり、作ったりすることを楽しむ。 ●感じたこと、想像したことを、言葉や体、音楽、造形などで自由な方法で、様々な表現を楽しむ。 ●自分や友達の表現したものを互いに聞かせ合ったり、見せ合ったりして楽しむ。 ●身近にある美しいものを見て、身の回りを美しくしようとする気持ちを持つ。	◆表現しようと思うもののイメージが豊かに湧くような雰囲気をつくり、様々な材料や用具を適切に使えるようにしながら、表現する喜びを味わえるように配慮する。 ◆子ども同士と一緒に活動する場合は、お互いに相手の立場を認め合いながら、協力し合って表現することの喜びを感じることができるように配慮する。 ◆表現しようとする気持ちを大切にし、生活や経験、能力と遊離した特定の技能の修得に偏らないように配慮する。

令和 8 年度 認定こども園 はなえみ保育園 教育及び保育課程 養護「生命の保持」「情緒の安定」				
(0 歳児 乳児期)		ねらい	内容	配慮事項
		○保健的で安全な環境をつくり、体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。 ○ 一人一人の子どもの生理的欲求や甘えなどの依存欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○様々な食品や調理形態に慣れ、楽しい雰囲気のもとで食べることができるようにする。 ○ 一人一人の子どもの状態に応じて、睡眠など適切な休息をとるようにし、快適に過ごせるようにする。	●一人一人の健康状態を把握し、異常のある場合は適切に対応する。 ●一人一人の子どもの心身の発育・発達の状態を的確に把握する。 ●体、衣服、身の回りにあるものを、常に清潔な状態にしておく。 ●室内外の温度、湿度に留意し、子どもの状態に合わせて衣服の調節をする。 ●一人一人の子どもの生活のリズムを大切にしながら、安心して午睡などをし、適切な休息ができるようにする。 ●おむつやパンツが汚れたら、優しく言葉をかけながら取り替え、きれいになった心地よさを感じることができるようにする。 ●食事の前後や汚れたときは顔や手を拭いて、きれいになった快さを感じることができるようにする。 ●楽しい雰囲気の中で、昼食や間食が食べられるようにする。	◆感染症にかかることが多いので、発熱など体の状態、機嫌、食欲、元気さなどの日常の状態の観察を十分に行い、変化が見られたときは、適切に対応する。 ◆身体発育や精神や運動の機能の発達には、個人差が大きいことに配慮し、発育・発達の状態を正しく把握するとともに、その変化に気づいたときは的確な処置をとる。 ◆食欲や食事の好みに偏りが現れやすい時期なので、日常の心身の状態を把握しておき、無理なく個別に対応する。 ◆睡眠に当たっては、一人一人の子どもに適した接し方をして、十分に眠れるようにする。また、目覚めたときは、適切に応じるようにする。
(0 歳児 満 1 歳以上)		○保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ○一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○楽しんで食事、間食をとることができるようにする。 ○午睡など適切に休息の機会をつくり、心身の疲れを癒して、集団生活による緊張を緩和する。	●一人一人の子どもの健康状態や発育・発達状態を把握し、異常のある場合は適切に対応する。 ●生活環境を常に清潔な状態に保つとともに、身の回りの清潔や安全の習慣が少しずつ身につくようにする。 ●一人一人の子どもの気持ちを理解し、受容することにより、子どもとの信頼関係を深め、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ●落ち着いた雰囲気の中で十分に眠る。	◆感染症にかかることが多いので、発熱など体の状態、機嫌、食欲、元気さなどの日常の状態の観察を十分に行い、変化が見られたときは、適切に対応する。 ◆身体発育や精神や運動の機能の発達には、個人差が大きいことに配慮し、発育・発達の状態を正しく把握するとともに、その変化に気づいたときは的確な処置をとる。 ◆食欲や食事の好みに偏りが現れやすい時期なので、日常の心身の状態を把握しておき、無理なく個別に対応する。 ◆睡眠に当たっては、一人一人の子どもに適した接し方をして、十分に眠れるようにする。また、目覚めたときは、適切に応じるようにする。
1 歳児		○保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ○一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○楽しんで食事や間食をとることができるようにする。 ○午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	●一人一人の子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、異常を感じる場合は速やかに適切に対応する。また、子どもが自分から体の異常を訴えることができるようにする。 ●施設内の環境保健に十分に留意し、快適に生活できるようにする。 ●一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、保育教諭等との信頼関係の中で、自分の気持ちや考えを安心して表すことができるなど情緒の安定した生活ができるようにする。 ●食事、排泄、睡眠、休息など生理的欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びができるようにする。	◆一人一人の子どもの平常の健康状態をよく観察し、異常を早く発見できるように注意する。異常を少しでも感じたら速やかに適切な対応をする。 ◆その時の気候や子どもの状態をよく把握し、気持ちよく活動できるように環境を整える。特に、施設内の採光、換気、保温、清潔など環境保健に配慮する。
(2 歳児 満 3 歳未満) (満 3 歳以上)		○保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ○一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○楽しんで食事や間食をとることができるようにする。 ○午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	●一人一人の子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、異常を感じる場合は速やかに適切に対応する。また、子どもが自分から体の異常を訴えることができるようにする。 ●施設内の環境保健に十分に留意し、快適に生活できるようにする。 ●一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、保育教諭等との信頼関係の中で、自分の気持ちや考えを安心して表すことができるなど情緒の安定した生活ができるようにする。 ●食事、排泄、睡眠、休息など生理的欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びができるようにする。	◆一人一人の子どもの平常の健康状態をよく観察し、異常を早く発見できるように注意する。異常を少しでも感じたら速やかに適切な対応をする。 ◆その時の気候や子どもの状態をよく把握し、気持ちよく活動できるように環境を整える。特に、施設内の採光、換気、保温、清潔など環境保健に配慮する。
3 歳児		○保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ○一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○友達と一緒に食事をしたり、様々な食べ物を食べる楽しさを味わうようにする。 ○午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	●一人一人の子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、異常を感じる場合は速やかに適切な対応をする。また、子どもが自分から体の異常を訴えることができるようにする。 ●施設内の環境保健に十分に留意し、快適に生活できるようにする。 ●食事、排泄、睡眠、休息など生理的欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びができるようにする。 ●一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、保育教諭等との信頼関係の中で、自分の気持ちや考えを安心して表すことができるなど、情緒の安定した生活ができるようにする。	◆一人一人の子どもの平常の健康状態を把握し、異常に気づいたら優しく問いかけをし、子どもがその状態を話すことができるように配慮するとともに、必要に応じて、速やかに適切な対応をする。 ◆施設内の採光、換気、保温、清潔など環境保健に配慮する。 ◆子どもの気持ちを温かく受容し、個人差を考慮して、子どもが安定して活動できるように配慮する。
4 歳児		○保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ○一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○食事をするこの意味が分かり、楽しんで食事や間食をとるようにする。 ○午睡など適切な休息をさせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	●一人一人の子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、異常を感じる場合は速やかに適切な対応をする。また、子どもが自分から体の異常を訴えることができるようにする。 ●施設内の環境保健に十分に留意し、快適に生活できるようにする。 ●一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、保育教諭等との信頼関係の中で、自分の気持ちや考えを安心して表すことができるなど、情緒の安定した生活ができるようにする。 ●食事、排泄、睡眠、休息など生理的欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びができるようにする。	◆一人一人の子どもの平常の状態を把握し、異常に気づいたら優しく問いかけをし、子どもがその状態を話すことができるように配慮するとともに、必要に応じて速やかに適切な対応をする。 ◆施設内の採光、換気、保温、清潔など環境保健に配慮する。 ◆子どもの気持ちを温かく受容し、幼保連携型認定こども園での生活の様々な場面で、子どもが安定し、かつ自己を十分に発揮して活動できるように配慮する。
5 歳児		○保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ○一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○できるだけ多くの種類の食べ物を取り、楽しんで食事や間食をとるようにする。 ○午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	●一人一人の子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、異常を感じる場合は速やかに適切な対応をする。また、子どもが自分から体の異常を保育教諭等に訴えることができるようにする。 ●施設内の環境保健に十分に留意し、快適に生活できるようにする。 ●一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、保育教諭等との信頼関係の中で自分の気持ちや考えを安心して表すことができるなど、情緒の安定した生活ができるようにする。 ●食事、排泄、睡眠、休息など生理的欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びができるようにする。	◆一人一人の子どもの平常の状態を把握し、異常に気づいたら優しく問いかけをして、子どもがその状態を話すことができるように配慮するとともに、必要に応じて、適切な対応をする。 ◆施設内の採光、換気、保温、清潔など環境保健に配慮する。 ◆子どもの気持ちを温かく受容し、幼保連携型認定こども園での生活を十分に楽しめるよう、子どもが安定し、かつ自己を十分に発揮して活動できるように配慮する。

令和 8 年度 認定こども園 はなえみ保育園 教育及び保育課程 領域別 「健康」			
資質能力	「知識及び技能の基礎」	「思考力、判断力、表現力等の基礎	「学びに向かう力、人間性等」
（乳児期） 0 歳児	身体的発達に関する視点 「健やかに伸び伸びと育つ」		
	ねらい ○安全で活動しやすい環境のもとで、姿勢を変えたり、移動したり様々な身体活動を十分に行う。	内容 ●寝返り、はいはい、お座り、伝い歩き、立つ、歩くなどそれぞれの状態に合った活動を十分に行う。 ●つまむ、たたく、ひっぱるなど手や指を使って遊ぶ。	配慮事項 ◆発達が進み、新しい行動が可能となると行動範囲が広がるので、身の回りのものなどについてはいつも十分な点検を行い、安全を確認した上で探索意欲を満たして自由に遊べるようにする。この時期には伝い歩きが始まるが、はうことも十分に経験できるようにする。 ◆行動が活発になるので、十分な休息がとれるように配慮する。
（満1歳以上） 0 歳児	心身の健康に関する領域「健康」 〔健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。〕		
	ねらい ○安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ。 ○安心できる保育教諭等との関係の下で、食事、排泄などの活動を通して、自分でしようとする気持ちが芽生える。	内容 ●登る、降りる、跳ぶ、くぐる、押す、引っ張るなどの運動を取り入れた遊びや、いじる、たたく、つまむ、転がすなど手や指を使う遊びを楽しむ。 ●保育教諭等に見守られ、外遊び、一人遊びを十分に楽しむ。 ●保育教諭等の優しい言葉かけと援助で、衣服の着脱に興味を持つようにする。 ●スプーン、フォークを使って一人で食べようとする気持ちを持つようにする。 ●一人一人の子どもの排尿間隔を知り、おむつが汚れていないときに便器に座らせ、うまく排尿できたときはほめることなどを繰り返し、便器での排泄に慣れるようにする。	配慮事項 ◆できるだけ外での活動を行うようにするが、外に出るときは、日照や気温などに注意して、帽子や服装に配慮し、子どもの体調に合わせて無理をしないようにする。また、活動などにより多量に汗をかいた後は水分の補給をする。 ◆歩行の発達に伴い行動範囲が広がり、探索行動が活発になるので、事故が発生しやすくなる。また、予測できない行動も多くなるので、環境や活動の状態、子ども相互の関わりなどに十分な注意を払う。 ◆衣類の着脱に当たっては、自分でしようとするのを励ましたり、うまくできたときはほめるなどして、自分でしようとする気持ちを大切にすること。 ◆食事は、一人一人の子どもの健康状態に応じ、無理に食べさせないようにし、自分でしようとする気持ちを大切にすること。また、食事のときには、一緒に噛むまねをして見せたりして、噛むことの大切さが身につくように配慮すること。 ◆排泄は、ゆったりした気持ちで対応し、子どもが自分から便器に座ってみようと思うような話し方、接し方をする。
1 歳児	○保育教諭等と一緒に全身や手や指を使う遊びを楽しむ。 ○安心できる保育教諭等との関係の下で、食事、排泄などの身の回りの活動を自分でしようとする。	●走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う運動を取り入れた遊びや、つまむ、丸める、めくるなどの手や指を使う遊びを楽しむ。 ●自分の物、人の物の区別に気づくようになる。保育教諭等の適切な援助によって自分の物の置き場所が分かる ●楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようとする気持ちを持たせ、嫌いなものでもすこしずつ食べられるようにする。また、食事の後、保育教諭等の手助けによって、うがいなどを行うようにする。 ●自分から、あるいは言葉をかけてもらうなどして便所に行き、保育教諭等が見守る中で自分で排泄する。 ●簡単な衣服は一人で脱ぐことができるようになり、手伝ってもらいながら一人で着るようになる。 ●顔を拭く、手を洗う、鼻を拭くなどを保育教諭等の手を借りながら少しずつ自分でする。	◆子どもが、楽しみながら全身や手を使う活動ができるような遊びを取り入れる。 ◆食事、排泄、睡眠、衣類の着脱など生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の子どもの発育・発達状態、健康状態に応じ、十分に落ち着いた雰囲気の中で行うことができるようにし、また、その習慣形成に当たっては、自分でしようとする気持ちを損なわないように配慮すること。 ◆食事の前後、排泄の後などにおいては、自分で清潔にしようとする気持ちが持てるように配慮し、一人でできたときは十分にほめるようにすること。 ◆外遊びや遊具で遊ぶ機会を多くし、遊具に慣れる経験を大切にしながら、子どもの自主性に応じて遊べるように工夫し、健康増進を図るように配慮すること。 ◆衝動的な動作が多くなるので、子どもから目を離さないように注意すること。 ◆活発な活動の後には、一人一人の子どもの状態によって適切な休息や水分を与えたり、汗を拭いたりして、体の状態を観察すること。
（満3歳未満） 2 歳児	○外遊びを十分にするなど、遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。 ○食事、排泄、睡眠、衣服の着脱などの生活に必要な基本的な習慣が身につく。	●危ない場所に近づくことが少なくなり、危険な遊びに気づく。 ●外で十分に体を動かしたり、様々な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ。 ●楽しい雰囲気の中で、様々な食べ物を進んで食べようとする。 ●便所には適宜一人で行き、排尿、排便を自分でする。 ●保育教諭等に寄り添ってもらいながら、午睡などの休息を十分にとる。 ●保育教諭等の手助けを受けながら、衣服を自分で着脱する。 ●保育教諭等の手助けにより、自分で手洗いや鼻をかむなどして清潔を保つ。 ●体の異常を、少しは自分から訴える。	◆身の回りのことは一応自分でできるようになるが、自分でしようとする気持ちを大切にしながら、適切な援助をするように配慮すること。 ◆食事は、摂取量に個人差が生じたり、偏食が出やすいので、一人一人の心身の状態を把握し、楽しい雰囲気の中でとれるように配慮すること。 ◆用具、遊具などを扱う場合は、特に安全に配慮すること。
3 歳児	○身近な遊具や用具を使い、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○自分でできることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣を次第に身につける。	●進んで外で体を十分に動かして遊ぶ。 ●遊具、用具や自然物を使い、様々な動きを組み合わせる積極的に遊ぶ。 ●食べ慣れないものや嫌いなものでも少しずつ食べようとする。 ●排泄やその後の始末などは、ほとんど自分でする。 ●嫌がるときもあるが、保育教諭等が言葉をかけることなどにより午睡や休息をする。 ●衣服などの着脱を順序よくしたり、そのときの気候や活動に合わせて適宜調節をする。 ●自分で鼻をかんだり、顔や手を洗うなど、体を清潔にする。 ●体の異常について、自分から保育教諭等に訴える。 ●危険なものや場所について分かり、遊具、用具などの使い方に気をつけて遊ぶ。	◆健康、安全など生活に必要な基本的な習慣は、一人一人の子どもと保育教諭等の親密な関係に基づいて、日常生活の直接的な体験の中で身につくように配慮すること。 ◆子どもの冒険心を大切に、新しい運動や遊びに対する不安や恐れを取り除くなどして、いきいきとした活動が展開できるように配慮すること。 ◆子どもの生活や経験と遊離した特定の運動や無理な技能の修得に偏らないように配慮すること。
4 歳児	○様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。 ○自分でできることの範囲を広げながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける。 ○安全や危険の意味やきまりが分かり、危険を避けて行動する。	●保育教諭等や友達などとの安定した関係の中で、意欲的に遊ぶ。 ●簡単なきまりをつくり出したりして、友達と一緒に遊びを発展させる。 ●自分の意見を主張するが、相手の意見も受け入れる。 ●友達と一緒に食事をし、食事の仕方が身に付く。 ●友達への親しみを広げ、深め、自分たちでつくったきまりを守る。 ●友達への思いやりを深め、一緒に喜んだり悲しんだりする。 ●人に迷惑をかけないように人の立場を考えて行動しようとする。 ●共同の遊具や用具を譲り合って使う。 ●異年齢の子どもとの関わりを深め、思いやりやいたわりの気持ちを持つ。 ●地域のお年寄りなど身近な人に感謝の気持ちを持つ。 ●外国の人など自分とは異なる文化を持った様々な人に関心を持つようになる。	◆健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくにつれ、自分の体を大切にしようとする気持ちが育ち、自主的に行動することができるように配慮すること。 ◆友達との遊びを通して、体を使って遊ぶことを楽しめるように配慮すること。 ◆子どもの生活や経験と遊離した特定の運動や無理な技能の修得に偏らないように配慮すること。
5 歳児	○様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団的な遊びを通して体を動かすことを楽しむ。 ○体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける。 ○安全に必要な基本的な習慣や態度を身につけ、そのわけを理解して行動する。	●保育教諭等や友達などとの安定した関係の中で、意欲的に生活や遊びを楽しむ。 ●集団遊びの楽しさが分かり、きまりを作ったり、それを守ったりして遊ぶ。 ●進んで自分の希望や意見、立場を主張したり、一方で相手の意見を受け入れたりする。 ●友達との生活や遊びの中できまりがあることの大切さに気づく。 ●自分で目標を決め、それに向かって友達と協力してやり遂げようとする。 ●友達との関わりの中でよいことや悪いことがあることが分かり、判断して行動する。 ●共同の遊具や用具を大切に、譲り合って使う。 ●自分より年齢の低い子どもに、自ら進んで声かけをして誘い、いたわって遊ぶ。 ●外国の人など自分とは異なる文化をもった様々な人に関心を持ち、知ろうとするようになる。	◆健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を身につけることの大切さを理解し、適切な行動を選択することができるように配慮すること。 ◆様々な運動に取り組み、成就の喜びや自身を持つことができるように配慮すること。 ◆子どもの生活や経験と遊離した特定の運動や無理な技能の修得に偏らないように配慮すること。

令和 8 年度 認定こども園 はなえみ保育園 教育及び保育課程 領域別「人間関係」			
資質能力	「知識及び技能の基礎」	「思考力、判断力、表現力等の基礎	「学びに向かう力、人間性等」
（乳児期） 0歳児	社会的発達に関する視点 「身近な人と気持ちが通じ合う」		
	ねらい ○優しく語りかけられたり、発声や喃語に 応答されたりして、発語の意欲が育つ。	内容 ●喃語や片言を優しく受け止めてもらい、発語や保育教諭等とのやりとりを 楽しむ。 ●生活や遊びの中での保育教諭等のすることに興味を持ったり、模倣した りすることを楽しむ。	配慮事項 ◆楽しい雰囲気の中での保育教諭等との関わり合いを大切にし、ゆっく りと優しく話しかけるなど積極的に相手になって、言葉のやりとりを楽し むことができるように配慮する。
（満1歳以上） 0歳児	人との関わりに関する領域「人間関係」 〔他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。〕		
	ねらい ○安心できる保育教諭等の見守りの中 で、身の回りの大人や子どもに関心を 持ち関わろうとする。	内容 ●一人一人の子どもの気持ちを理解し、受容することにより、子どもとの信 頼関係を深め、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。	配慮事項 ◆子ども相互のけんかが多くなるが、不安感が強まらないように、保育教 諭等の優しい語りかけなどによりお互いの存在に気づくように配慮す る。
1歳児	○身の回りに様々な人がいることを知り、 徐々に友達と関わって遊ぶ楽しさを味 わう。	●保育教諭等の仲立ちによって、共同の遊具などを使って遊ぶ。	◆子ども同士のけんかが多くなるので、保育教諭等はお互いの気持ちを 受容し、分かりやすく仲立ちをして、根気よく他の子どもとの関わり方 を知らせていく。
（満3歳未満） 2歳児 （満3歳以上）	○身近な人と関わり、友達と遊ぶことを楽 しむ。	●保育教諭等に様々な欲求を受け止めてもらい、保育教諭等に親しみを持 ち安心感を持って生活する。 ●友達とごっこ遊びなどを楽しむ。 ●遊具や用具などを貸したり借りたり、順番を待ったり交代したりする。 ●簡単なきまりを守る。 ●保育教諭等の手伝いをすることを喜ぶ。 ●遊んだ後の片づけをするようになる。 ●年上の友達と遊んでもらったり、模倣して遊んだりする。 ●地域の人と触れ合うことを喜ぶ。	◆友達との関係については、保育教諭等や遊具その他のものを仲立ち として、その関係が持てるように配慮する。 ◆初めて集団生活する子どもには、特に心身の疲労を緩和するように配 慮し、個別に対応しながら、次第に集団生活に適応できるように他の 子どもとの触れ合いの機会を多くするなど配慮する。
3歳児	○保育教諭等や友達の言うことを理解し ようとする。 ○友達とのつながりを広げ、集団で活動 することを楽しむ。 ○異年齢の子どもに関心をもち、関わり を広める。	●保育教諭等や友達などとの安定した関係の中で、いきいきと遊ぶ。 ●自分のしたいと思うこと、してほしいことははっきり言うようになる。 ●友達と生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。 ●保育教諭等の言うことや友達の考えていることを理解して行動する。 ●身の回りの人に、いたわりや思いやりの気持ちを持つ。 ●手伝ったり、人に親切にすることや、親切にされることを喜ぶ。 ●他人に迷惑をかけたら謝る。 ●共同のものを大切にし、譲り合って使う。 ●年下の子どもに親しみを持ったり、年上の子どもとも積極的に遊ぶ。 ●地域のお年寄りなど身近な人の話を聞いたり、話しかけたりする。 ●外国の人など、自分とは異なる文化を持った人の存在に気づく。	◆集団の活動に参加するときは、一人一人の子どもが、それぞれの欲求 を満たすことができるよう配慮する。 ◆友達とのけんかを経験しながら、次第に相手の立場の理解が進み、時 には自分の主張を抑制することによって、楽しく遊べることに気づくよう に配慮する。その際、保育教諭等の優しいまなざしが向けられるように することが大切である。
4歳児	○周りの人々に対する親しみを深め、集 団の中で自己主張したり、また、人の 立場を考えながら行動する。 ○異年齢の子どもたちと遊ぶ楽しさを味 わう。	●保育教諭等や友達などとの安定した関係の中で、意欲的に遊ぶ。 ●簡単なきまりをつくり出したりして、友達と一緒に遊びを発展させる。 ●自分の意見を主張するが、相手の意見も受け入れる。 ●友達と一緒に食事をし、食事の仕方が身に付く。 ●友達への親しみを広げ、深め、自分たちでつくったきまりを守る。 ●友達への思いやりを深め、一緒に喜んだり悲しんだりする。 ●人に迷惑をかけないように人の立場を考えて行動しようとする。 ●共同の遊具や用具を譲り合って使う。 ●異年齢の子どもとの関わりを深め、思いやりやいたわりの気持ちを持 つ。 ●地域のお年寄りなど身近な人に感謝の気持ちを持つ。 ●外国の人など自分とは異なる文化を持った様々な人に関心を持つよう になる。	◆一人一人の子どもが友達と関わる中で、個人や社会生活に必要な習 慣や態度が身につくように配慮する。 ◆グループを作る場合は、様々な場面で自分を主張でき、相手の立場を 認め、他人のよいところを見つける力を育つように配慮する。 ◆集団生活は、一人一人が生かされ認められるよう、また、子どもが相 互に必要な存在であることを実感できるように進められることが必要で ある。
5歳児	○進んで身近な人と関わり、信頼感や愛 情を持って生活する。 ○身近な人との関わりの中で、人の立場 を理解して行動し、進 んで集団での活動に参加する。 ○進んで異年齢の子どもたちと関わり、 生活や遊びなどで役割を分担する楽しさ を味わう。	●保育教諭等や友達などとの安定した関係の中で、意欲的に生活や遊び を楽しむ。 ●集団遊びの楽しさが分かり、きまりを作ったり、それを守ったりして遊ぶ。 ●進んで自分の希望や意見、立場を主張したり、一方で相手の意見を受け 入れたりする。 ●友達との生活や遊びの中できまりがあることの大切さに気づく。 ●自分で目標を決め、それに向かって友達と協力してやり遂げようとする。 ●友達との関わりの中でよいことや悪いことがあることが分かり、判断して 行動する。 ●共同の遊具や用具を大切にし、譲り合って使う。 ●自分より年齢の低い子どもに、自ら進んで声かけをして誘い、いたわって 遊ぶ。 ●外国の人など自分とは異なる文化をもった様々な人に関心を持ち、知ろ うとするようになる。	◆様々な人の存在に気づき、人に役立つことの喜びを感じることができ るように配慮する。 ◆身近に住んでいる様々な人と交流し、共感し合う体験を通して人と関 わることの楽しさや大切さを味わうことができるように配慮する。 ◆周りにいる人たちがすべてかけがえのない存在であり、一人一人を尊 重しなければならないことに気づくように配慮する。

令和 8 年度 認定こども園 はなえみ保育園 教育及び保育課程 領域別「環境」			
資質能力	「知識及び技能の基礎」	「思考力、判断力、表現力等の基礎	「学びに向かう力、人間性等」
（乳児期） 0歳児	精神的発達に関する視点 「身近なものと関わり感性が育つ」		
	ねらい	内容	配慮事項
	○絵本や玩具、身近な生活用具が用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心が芽生える。 ○聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手や指の機能を動かそうとする。	●保育教諭等の歌を楽しんで聞いたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しむ。 ●保育教諭等と一緒にきれいな色彩の物や身近なものの絵本を見る。 ●保育教諭等に見守られて、玩具や身の回りのもので一人遊びを十分に楽しむ。	◆遊びにおいては、個人差の大きい時期なので、一人一人の子どもの発達・発達状態をよく把握し、子どもが興味を持ち、自分からしてみようとする意欲を大切にし、温かく見守る。 ◆保育教諭等の優しい歌声や、快い音楽を聴く機会を豊富にし、また、好きな歌や音楽は繰り返すようにして、満足感を味わえるようにする。 さらに、大人の動作を見て模倣をする喜びを味わえるようにする。 ◆抱かれたり、一人歩きなどで、身近な自然の素材、生き物、乗り物などに接して楽しむ機会を持ち、子どもの外界への関心を広げるように配慮する。
（満1歳以上） 0歳児	身近な環境との関わりに関する領域「環境」 〔周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。〕		
	ねらい	内容	配慮事項
	○身の回りの様々なものを自由にいじって遊び、外界に対する好奇心や関心を持つ。	●好きな玩具や遊具、自然物に自分から関わり、十分に遊ぶ。	◆個人差の大きい時期なので、一人一人の子どもの発達・発達状態をよく知り、楽しい雰囲気をつくるなどして、子どもが興味を持ち、自分から遊びを楽しめるように配慮する。 ◆自分でしようとしているときや何かに熱中しているときには温かく見守る。また、子どもの発見や驚きを見逃さず受け止め、好奇心や興味を満たすようにする。
1歳児	○身の回りのものや親しみの持てる小動物や動物を見たり、触れたり、保育教諭等から話を聞いたりして興味や関心を広げる。	●身の回りの小動物、植物、事物などに触れ、それらに興味、好奇心を持ち、探索や模倣などをして遊ぶ。 ●保育教諭等と一緒に、水、砂、土、紙などの素材に触れて楽しむ。	◆自然や身近な事物などへの興味や関心を広げていくに当たっては、安全や衛生面に留意しながら、それらと触れ合う機会を十分に持つようにする。 また、保育教諭等がまず親しみや愛情を持って関わるようにして、子どもが自分からしてみようと思う気持ちを大切にする。
（満2歳以上） 2歳児	○身近な動植物や自然事象に親しみ、自然に触れ十分に遊ぶことを楽しむ。 ○身近な社会事象に親しみ、模倣したりして遊ぶことを楽しむ。 ○身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、生活を広げていく。 ○様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づく。	●身近な動植物をはじめ自然事象をよく見たり、触れたりなどして驚き、親しみを持つ。 ●身近な人々の生活を取り入れたごっこ遊びを楽しむ。 ●自分のものと人のもとの区別を知り、共同のものとの区別にも気づく。 ●身近な事物に関心を持ち、触れたり、集めたり、並べたりして遊ぶ。 ●様々な用具、材料に触れ、それを使って遊びを楽しむ。 ●生活や遊びの中で、身の回りの物の色、数、量、形などに興味を持ち、違いに気づく。 ●幼保連携型認定こども園の行事に参加して、喜んだり楽しんだりする。	◆身近の様々なものに興味を持つので、その興味、探索意欲などを十分に満足させるように環境を整え、保健、安全面に留意して意欲的に関われるようにする。 ◆身の回りの出来事や住んでいる地域の人々の生活が自分の生活と関わりがあることに気づくように配慮する。
3歳児	○身近な動植物に親しみ、それらに関心や愛情を持つ。 ○身の回りの人々の生活に親しみ、身近な社会の事象に関心を持つ。 ○身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、身の回りの物事や数、量、形などに関心を持つ。 ○身近な事物などに関心を持ち、それらの面白さ、不思議さ、美しさなどに気づく。	●身近な動植物の世話を楽しんで行い、愛情を持つ。 ●自然や身近な事物・事象に触れ、興味や関心を深める。 ●身近にある公共施設に親しみ、関わることを喜ぶ。 ●身近にある乗り物に興味や関心を示し、それらを遊びに取り入れようとする。 ●自分のもの、人のものを知り、共同のものとの区別に気づき、大切にしようとする。 ●身近な大人の仕事や生活に興味を持ったり、それらを取り入れたりして遊ぶ。 ●身近にある用具、器具などに関心を持ち、いじったり、試したりする。 ●具体的な物を通して、数や量などに関心を持ち、簡単な数の範囲で数えたり比べたりすることを楽しむ。 ●身の回りの物の色、形などに興味を持ち、分けたり、集めたりして遊ぶ。 ●幼保連携型認定こども園内外の行事に楽しんで参加する。	◆動植物の飼育や栽培の手伝いを通して、それらへの興味や関心を持つようにし、その成長・変化などに感動し、愛護する気持ちを育てるようにする。 ◆家庭や地域の実態に即して、様々な経験ができるようにし、子どもの発見や驚きを大切にして、社会や自然の事象に関心を持つように配慮する。 ◆数、量、形などについては、直接それらを取り上げるのではなく、生活や遊びの中で子ども自身の必要に応じて、具体的に体験できるようにして数量的な感覚を育てるように配慮する。 ◆保育教諭等の言動は、子どもが美しいものを感じたり、よいものを選んだりすることに強い影響を及ぼすので、それに留意する。
4歳児	○身近な社会や自然事象への関心が高まり、様々なものの面白さ、不思議さ、美しさなどに感動する。 ○身近な社会や自然の環境と触れ合う中で、自分たちの生活との関係に気づき、それらを取り入れて遊ぶ。 ○日常生活に必要な事物を見たり、扱ったりなどして、その性質や存在に興味を持ったり、数、量、形などへの関心を深める。	●身近な動植物に関心を持ち、いたわり、世話をする。 ●自然事象が持つ、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気づく。 ●身近な公共施設や交通機関などに興味や関心を持つ。 ●近隣の生活に興味や関心を持ち、人々が様々な営みをしていることに気づく。 ●身近にいる大人が仕事をしている姿を見て、自らも進んで手伝いなどをしようとする。 ●自然や身近な事物・事象に関心を持ち、それを遊びに取り入れ、作ったり、工夫したりする。 ●身近な用具、器具などに興味を持ち、その仕組みや性質に関心を持つ。 ●身近な物を大切に扱い、自分の持ち物を整頓する。 ●生活の中で物を集めたり、分けたり、整理したりする。 ●簡単な数の範囲で、物を数えたり、比べたり、順番を言ったりする。 ●生活の中で、前後、左右、遠近などの位置の違いや時刻、時間などに興味や関心を持つ。 ●幼保連携型認定こども園内外の行事に喜んで参加する。 ●祝祭日などに関心を持ち生活に取り入れて遊ぶ。	◆飼育・栽培を通して、動植物がどのようにして生きているのか、育つのか興味を持ち、生命が持つ不思議さに気づくようにする。 ◆動植物と自分たちの生活との関わりに目を向け、それらに感謝やいたわりの気持ちを育てていくようにする。 ◆生活の様々な面を通して、自然や社会の事象に対して、好奇心や探索心を満たすことができるように配慮する。 ◆身近にいる大人の仕事を見て、自分の生活と大切な関わりのあることに気づくように配慮する。 ◆日常生活の中で子ども自身の具体的な活動を通して、数、量、形、位置、時間などに気づくように配慮する。
5歳児	○身近な社会や自然事象への関心を深め、美しさ、やさしさ、尊さなどに対する感覚を豊かにする。 ○身近な社会や自然の環境に自ら関わり、それらと自分たちの生活との関係に気づき、生活や遊びに取り入れる。 ○身近な事物や事象に積極的に関わり、見たり扱ったりする中で、その性質や数、量、形への関心を深める。	●身近な動植物に親しみ、いたわったり、進んで世話をしたりする。 ●自然事象の性質や変化、大きさ、美しさ、不思議さなどに関心を深める。 ●身近な公共施設などの役割に興味や関心を持つ。 ●幼保連携型認定こども園や地域でみんなが使うものを大切にする。 ●大人が仕事をするものの意味が分かり、工夫して手伝いなどをするようにする。 ●季節により人間の生活に変化のあることに気づく。季節により自然に変化があることが分かり、それについて理解する。 ●自然や身近な事物・事象に関心を持ち、それらを取り入れて遊ぶ。 ●日常生活に必要な用具、器具などに興味や関心を持ち、安全に扱う。 ●身近にある事物の働きや仕組み、性質に興味や関心を持ち、考えたり、試したり、工夫したりして使おうとする。 ●身近なものを整頓する。 ●日常生活の中で簡単な数を数えたり、順番を理解する。 ●日常生活の中で数や量の多少は、形に関わりがないことを理解する。 ●身近にある標識や文字、記号などに関心を示す。 ●身の回りの物には形や位置などがあることに関心を持つ。 ●生活や遊びの中で時刻、時間などに関心を持つ。 ●幼保連携型認定こども園内外の行事に進んで参加し、自分なりの役割を果たす。 ●祝祭日などに関心を持ち生活に取り入れて遊ぶ。	◆動植物との触れ合いや飼育・栽培などを通して、自分たちの生活との関わりに気づき、感謝の気持ちや生命を尊重する心が育つようにする。 ◆大人の仕事の意味が分かり、手伝いなどを積極的に教育及び保育に組み入れるように配慮する。 ◆社会や自然の事象を直接的に体験できるようにし、必要に応じて視聴覚教材などを活用して、身近な事象をより確かに理解できるように配慮する。 ◆飼育・栽培を通して、生命を育む自然の摂理の偉大さに畏敬の念を持つように配慮する。 ◆生活や遊びの中で、様々な事物と具体的な体験を通して、数、量、形、位置、時間などについての感覚が、無理なく養われるように配慮する。

令和 8 年度 認定こども園 はなえみ保育園 教育及び保育課程 領域別 「言葉」			
資質能力	「知識及び技能の基礎」	「思考力、判断力、表現力等の基礎	「学びに向かう力、人間性等」
（ 乳児期 ） 0 歳児	社会的発達に関する視点 「身近な人と気持ちが通じ合う」		
	ねらい ○優しく語りかけられたり、発声や喃語に 応答されたりして、発語の意欲が育つ。	内容 ●喃語や片言を優しく受け止めてもらい、発語や保育教諭等とのやりとりを 楽しむ。 ●生活や遊びの中での保育教諭等のすることに興味を持ったり、模倣した りすることを楽しむ。	配慮事項 ◆楽しい雰囲気の中での保育教諭等との関わり合いを大切にし、ゆっ くりと優しく話しかけるなど積極的に相手になって、言葉のやりとりを 楽しむことができるように配慮する。
（ 満1 歳以上 ） 0 歳児	言葉の獲得に関する領域「言葉」 〔経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。〕		
	ねらい ○保育教諭等の話しかけや、発語が促さ れたりすることにより、言葉を使うことを楽 しむ。	内容 ●保育教諭等の話しかけを喜んだり、自分から片言でしゃべることを楽し む。 ●興味ある絵本を保育教諭等と一緒に見ながら、簡単な言葉の繰り返しや 模倣をしたりして遊ぶ。	配慮事項 ◆保育教諭等と一緒に絵本を見ながら、絵本の内容を動作や言葉で 表したり、歌を歌ったりなどして、模倣活動を楽しめるようにする。
1 歳児	○保育教諭等を仲立ちとして、生活や遊 びの中で言葉のやり取りを楽しむ。	●生活に必要な簡単な言葉を聞き分け、また、様々な出来事に関心を示 し、言葉で表す。 ●保育教諭等と一緒に簡単なごっこ遊びをする中で言葉のやりとりを楽し む。 ●絵本や紙芝居を楽しんで見たり聞いたりし、繰り返しのある言葉の模倣を 楽しむ。	◆子どもの話はやさしく受け止め、自分から保育教諭等に話しかけた いという気持ちを大切にし、楽しんで言葉を使うことができるように配 慮する。 ◆くり返しのある話や絵本を読んで聞かせたり、子どものしたことをお 話にしたりして様々な興味を養うようにする。
（ 満3 歳以上 ） 満2 歳児 3 歳未満	○生活に必要な言葉がある程度分かり、 したいこと、して欲しいことを言葉で表 す。 ○絵本、童話、視聴覚教材などを見たり 聞いたりして、その内容や面白さを楽し む。	●あいさつや返事など生活や遊びに必要な言葉を使う。 ●自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、保育教諭等や友達と言葉 のやりとりを楽しむ。 ●保育教諭等にして欲しいこと、困ったことを言葉で訴える。 ●保育教諭等に、いろいろな場面で、なぜ、どうして、などの質問をする。 ●興味を持った言葉を、面白がって聞いたり言ったりする。 ●絵本や童話などの内容が分かり、イメージを持って楽しんで聞く。 ●ごっこ遊びの中で、日常生活での言葉を楽しんで使う。	◆子どもが保育教諭等に話したいことの意味をくみ取るように努め、話 したいという気持ちを十分に満たすことができるように配慮する。 ◆絵本や童話、紙芝居などの面白さが分かるように配慮するとともに、 生活の中でできるだけ言葉と行動や出来事が結びつくように配慮す る。 ◆言葉は、聞いて覚えるものであることに着目し、保育教諭等は自らの 言葉遣いに配慮する。
3 歳児	○人の話を聞いたり、自分の経験したこと や思っていることを話したりして、言葉 で伝える楽しさを味わう。 ○絵本、童話、視聴覚教材などを見たり 聞いたりして、イメージを広げ、言葉を 豊かにする。	●日常生活に必要なあいさつをする。 ●話しかけられたり、問いかけられたりしたら、自分なりに言葉で返事をす る。 ●身の回りの出来事に関する話に興味を持つ。 ●友達との会話を楽しむ。 ●見たことや聞いたことを話したり、疑問に思ったことを尋ねる。 ●保育教諭等の話を親しみを持って聞いたり、保育教諭等と話したりして、 様々な言葉に興味を持つ。 ●絵本や童話などを読み聞かせてもらい、イメージを広げる。	◆保育教諭等との間や子ども同士で話す機会を多くし、その中で次第 に聞くこと、話すことが楽しめるように配慮する。 ◆日常会話や絵本、童話、詩などを通して、様々な言葉のきまりや面 白さなどに気づき、言葉の感覚が豊かになるように配慮する。
4 歳児	○様々な機会や場で活発に話したり、聞 いたりして、生活の中で適切に言葉を使 う。 ○絵本、童話、視聴覚教材などを見たり 聞いたりして、その内容や面白さを楽し み、イメージを豊かにげる。	●親しみを持って日常のあいさつをする。 ●話しかけや問いかけに対し適切に応答する。 ●身近な事物や事象などについて話したり、名前や日常生活に必要な言葉 を使う。 ●人の話を注意して聞き、相手にも分かるように話す。 ●考えたこと経験したことを保育教諭等や友達に話して会話を楽しむ。 ●童話や詩などを聞いたり、自ら表現したりして、言葉の面白さや美しさに 興味を持つ。 ●絵本、童話などに親しみ、その面白さが分かって、想像して楽しむ。 ●生活に必要な簡単な文字や記号などに関心を持つ。	◆個人差を考慮して、見たこと、聞いたこと、感じたこと、考えたことを言 葉で表現できる雰囲気をつくるように配慮する。 ◆文字や記号については、日常生活や遊びの中で興味を持つよう、用 具、遊具、視聴覚教材などの準備に配慮する。 ◆絵本や童話などの内容を子どもが自らの経験と結びつけたり、想像 をめぐらせたりしてイメージを豊かにできるよう、その選定や読み方 に十分な配慮をする。
5 歳児	○自分の経験したこと、考えたことなどを 適切な言葉で表現し、相手と伝え合う楽し さを味わう。 ○人と話し合うことや、身近な文字に関心 を深め、読んだりすることの楽しさを味わ う。 ○絵本や童話、視聴覚教材などを見たり 、聞いたりして様々なイメージを広げると ともに、想像することの楽しさ を味わう。	●日常のあいさつ、伝言、質問、応答、報告が上手になる。 ●身近な事物や事象について話したり、日常生活に必要な言葉を適切に使 う。 ●みんなで共通の話題について話し合うことを楽しむ。 ●話し相手や場面の違いにより、使う言葉や話し方が違うことに気づく。 ●人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。 ●童話や詩などの中の言葉の面白さ、美しさに気づき、自ら使って楽しむ。 ●絵本や物語などに親しみ、内容に興味を持ち、様々な想像して楽しむ。 ●身近にある文字や記号などに興味や関心を持ち、それを使おうとする。	◆生活や遊びの中で、言葉の充実を図り、言葉を使って思考すること や自分の考えを伝え合う喜びを味わえるようにし、言葉に対する関 心が高まるように配慮する。 ◆本を見ることや身近な様々な文字を読む喜びを大切にし、言葉の感 覚が豊かになるよう に配慮する。 ◆子どもが、自分の伝えたいことがしっかりと相手に伝わる喜びを味わう ため、人前で話す機会や場面をできるだけ多く用意する。

令和8年度 認定こども園 はなえみ保育園 教育及び保育課程 領域別「表現」			
資質能力	「知識及び技能の基礎」	「思考力、判断力、表現力等の基礎	「学びに向かう力、人間性等」
（乳児期） 0歳児	精神的発達に関する視点 「身近なものと関わり感性が育つ」		
	ねらい ○絵本や玩具、身近な生活用具が用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心が芽生える。 ○聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手や指の機能を動かそうとする。	内容 ●保育教諭等の歌を楽しんで聞いたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しむ。 ●保育教諭等と一緒にきれいな色彩の物や身近なものの絵本を見る。 ●保育教諭等に見守られて、玩具や身の回りのもので一人遊びを十分に楽しむ。	配慮事項 ◆遊びにおいては、個人差の大きい時期なので、一人一人の子どもの発育・発達状態をよく把握し、子どもが興味を持ち、自分からしてみようとする意欲を大切にし、温かく見守る。 ◆保育教諭等の優しい歌声や、快い音楽を聴く機会を豊富にし、また、好きな歌や音楽は繰り返すようにして、満足感を味わえるようにする。 さらに、大人の動作を見て模倣をする喜びを味わえるようにする。 ◆抱かれたり、一人歩きなどで、身近な自然の素材、生き物、乗り物などに接して楽しむ機会を持ち、子どもの外界への関心を広げるように配慮する。
（満1歳以上） 1歳児	感性と表現に関する領域「表現」 〔感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。〕		
	ねらい ○身近な音楽に親しみ、それに合わせた体の動きを楽しむ。	内容 ●保育教諭等と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、また、体を動かしたりして遊ぶ	◆全身を使うような遊びや手や指を使う遊びでは、子どもの自発的な活動を大切にしながら、時には保育教諭等がやってみせるなど保育教諭等と一緒に楽しんで遊べるようにする。
1歳児	○保育教諭等と一緒に人や動物の模倣をしたり、経験したことを思い浮かべたりして、ごっこ遊びを楽しむ。 ○興味のあることや経験したことなどを生活や遊びの中で、保育教諭等とともに好きなように表現する。	●保育教諭等と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、リズムに合わせて、体を動かしたりして遊ぶ。	◆生活や遊びの中で、子どものつぶやきやしぐさなどに保育教諭等が共感しながら、表現の喜びや芽生えを育てるように配慮する。 ◆歌うことや、音楽に合わせて体を動かすことを好むので、子どもの好む歌、簡単な歌詞、旋律の歌や曲を正しく、美しく表現するように配慮する。
（満3歳未満） 2歳児	○感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり、体を動かしたりして、自由に表現しようとする。	●身の回りの様々なものの音、色、形、手ざわり、動きなどに気づく。 ●音楽に親しみ、聞いたり、歌ったり、体を動かしたり、簡単なリズム楽器を鳴らしたりして楽しむ。 ●様々な素材や用具を使って、好きなように描いたり、扱ったり、形を作ったりして遊ぶ。 ●動物や乗り物などの動きを模倣して、体で表現する。 ●絵本や童話などに親しみ、興味を持ったことを保育教諭等と一緒に言ったり、歌ったりなど様々に表現して遊ぶ。	◆身近なものに直接触れたり扱ったりして、新しいものに驚いたり不思議に思うなど感動する経験が広がるように配慮する。 ◆一人一人の子どもの興味や自発性を大切にし、自分から表現しようとする気持ちが育つように配慮する。
3歳児	○感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で自由に表現する。	●様々なものの音、色、形、手ざわり、動きなどに気づき、驚いたり感動したりする。 ●友達と一緒に音楽を聴いたり、歌ったり、体を動かしたり、楽器を鳴らしたりして楽しむ。 ●感じたこと、思ったことや想像したことなどを様々な素材や用具を使って自由に描いたり、作ったりすることを楽しむ。 ●童話、絵本、視聴覚教材などを見たり、聞いたりしてイメージを広げ、描いたり、作ったり様々に表現して遊ぶ。 ●作ったものを用いて遊んだり、保育教諭等や友達と一緒に身の回りを美しく飾って楽しむ。 ●身近な生活経験をごっこ遊びに取り入れて遊ぶ楽しさを味わう。	◆子どものイメージが湧き出るような素材、玩具、用具、生活用品などを用意して、のびのびと表現して遊ぶことができるように配慮する。 ◆子ども同士の模倣や認め合いを大切にしながら、表現する意欲や創造性を育てるように配慮する。 ◆表現しようとする気持ちを大切にし、生活や経験と遊離した特定の技能の修得に偏らないように配慮する。
4歳児	○感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して、表現する。	●様々な音、形、色、手ざわり、動きなどを周りのものの中で気づいたり見つけたりして楽しむ。 ●音楽に親しみ、みんなと一緒に聴いたり、歌ったり、踊ったり、楽器を弾いたりして、音色の美しさやリズムの楽しさを味わう。 ●様々な素材や用具を利用して描いたり、作ったりすることを工夫して楽しむ。 ●身近な生活に使う簡単なものや様々な遊びに使うものを工夫して作る。 ●友達と一緒に描いたり、作ったりすることや身の回りを美しく飾ることを楽しむ。 ●自分の想像したものを体の動きや言葉などで表現したり、興味を持った話や出来事を演じたりして楽しむ。	◆表現しようとする意欲を高め、結果にとらわれず、一人一人の子どもの創意工夫を認め、創造的な喜びが味わえるように配慮する。 ◆子どもの考えや子ども同士の認め合いを大切にし、みんなで一緒に表現することの喜びを味わうことができるように配慮する。 ◆表現しようとする気持ちを大切にし、生活や経験と遊離した特定の技能の修得に偏らないように配慮する。
5歳児	○感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で工夫して自由に表現する。	●様々な音、形、色、手ざわり、動きなどに気づき、感動したこと、発見したことなどを創造的に表現する。 ●音楽に親しみ、みんなと一緒に聴いたり、歌ったり、踊ったり、楽器を弾いたりして、音色やリズムの楽しさを味わう。 ●様々な素材や用具を適切に使い、経験したり、想像したことを、創造的に描いたり、作ったりする。 ●身近な生活に使う簡単な物や、遊びに使う物を工夫して作って楽しむ。 ●協力し合って、友達と一緒に描いたり、作ったりすることを楽しむ。 ●感じたこと、想像したことを、言葉や体、音楽、造形などで自由な方法で、様々な表現を楽しむ。 ●自分や友達の表現したものを互いに聞かせ合ったり、見せ合ったりして楽しむ。 ●身近にある美しいものを見て、身の回りを美しくしようとする気持ちを持つ。	◆表現しようと思うもののイメージが豊かに湧くような雰囲気をつくり、様々な材料や用具を適切に使えるようにしながら、表現する喜びを味わえるように配慮する。 ◆子ども同士が一緒に活動する場合は、お互いに相手の立場を認め合いながら、協力し合って表現することの喜びを感じることができるように配慮する。 ◆表現しようとする気持ちを大切にし、生活や経験、能力と遊離した特定の技能の修得に偏らないように配慮する。

認定こども園 はなえみ保育園 令和 8 年度 学校保健計画

年間目標		・生活のリズムを整え、基本的な生活習慣を身につけることができる。 ・心も身体も健やかに生活することができる。 ・自ら衛生的な行動を行うことができる。		定期保健行事	内科健診 2 回／年 歯科健診 2 回／年 発育測定 1 回／月	
期	月	保健目標	保健行事	保健管理・衛生管理		家庭連絡（保健指導）
Ⅰ期	4 月	・新しい環境に慣れる ・生活のリズムを整える	・発育測定 ・検便（調理、配膳にかかわる者）	・スポーツ振興センター加入の手続き ・健康状態の把握（職員含む） ・アレルギー児、与薬必要児の対応確認 ・水分補給についての確認 ・害虫駆除 ・感染症の予防と早期発見（市内の流行感染症情報収集） ・手洗いうがいの励行（毎月） ・おもちゃ、こどもがよく触るところの消毒（以下消毒に略）		・スポーツ振興センターについて ・与薬について ・帽子の着用について ・動きやすい服、靴について ・健診等の結果について ・予防接種の接種歴について ・感染症罹患状況について ・アレルギー児の生活管理表を医師に記載してもらうよう説明
	5 月	・戸外で身体を動かし、のびのび遊ぶ ・衣服を調節し、気温の変化に順応する	・発育測定（身長・体重） ・内科健診 ・職員定期健康診断	・健康状態の確認（職員含む） ・衣服の調節 ・連休明けの体調管理 ・水分補給を促す ・手洗いうがいの励行 ・消毒 ・健診結果配布 ・歯磨き指導の準備		・連休中・明けの過ごし方について ・感染症罹患状況 ・歯磨き指導について ・梅雨の生活について ・着脱可能な服装での登園依頼
Ⅱ期	6 月	・歯を大切にする ・雨の日でも楽しく遊ぶ	・発育測定（身長・体重） ・歯科健診 ・歯磨き指導	・健康状態の確認（職員含む） ・衣服の調節 ・水分補給を促す ・手洗いうがいの励行 ・消毒 ・歯科健診準備		・健診結果配布 ・感染症罹患状況について ・プール、水遊びについて ・着脱可能な服装での登園依頼
	7・8 月	・健康に気をつけ、安全で、清潔な環境のもとで過ごす ・必要な休息や水分補給をしっかりとし、元気に過ごす	・発育測定（身長・体重）	・プール開始に伴う健康状態の把握 ・熱中症対策 ・皮膚疾患の予防と対策 ・虫刺され予防と対応、対策 ・光化学スモッグ注意報・警報発令時の対応 ・食中毒予防		・夏季の清潔について ・生活のリズムについて ・屋外での調理・食事について
Ⅲ期	9 月	・生活のリズムを整え元気に過ごす ・身体を十分に動かしてのびのびと遊ぶ ・身体の動きや仕組みを知る	・発育測定（身長・体重）	・室内の換気、湿度、の管理 ・手洗いうがいの励行		・生活リズムについて ・手洗いうがいの励行
	10 月		・発育測定（身長・体重） ・健診の準備	・室内の換気、湿度、の管理 ・手洗いうがいの励行 ・衣服の調節		・問診票配布（内科健診） ・手洗いうがいの励行 ・着脱可能な服装での登園依頼
	11 月		・発育測定（身長・体重） ・内科健診	・室内の換気、湿度、の管理 ・インフルエンザ感染予防 ・感染性胃腸炎予防啓発		・健診結果配布 ・手洗いうがいの励行 ・リーフレット配布（感染性胃腸炎）
	12 月		・発育測定（身長・体重） ・健診前保健調査 ・歯科健診	・室内の換気、湿度、の管理 ・健診の準備、事後報告		・健診結果配布 ・手洗いうがいの励行
Ⅳ期	1 月	・寒さに負けず元気に過ごす ・こまめに衣服の調整をし、丈夫な身体をつくる ・正しい姿勢を身につけ生活する ・成長の喜びを知る	・発育測定（身長・体重）	・室内の換気、湿度、の管理 ・感染性胃腸炎対応 ・インフルエンザ対応		・感染症罹患状況 ・感染症予防
	2 月		・発育測定（身長・体重）	・室内の換気、湿度、の管理 ・インフルエンザ対応 ・感染性胃腸炎対応		・感染症罹患状況 ・感染症予防
	3 月		・発育測定（身長・体重）	・室内の換気、湿度、の管理 ・発育測定表の整理 ・各種記録の整理と次年度の準備 ・乳幼児健診の受診周知と結果の記録 ・午睡時の安全確認と記録 ・室温、湿度の管理と記録		・感染症罹患状況 ・正しい姿勢について ・感染症予防
健康・清潔習慣（家庭との連携）						
・早寝早起きをする ・朝ごはんを食べる ・朝の排便を習慣づける ・朝、顔を洗う		・食後の歯磨き、仕上げ磨きの習慣 ・入浴、洗髪、衣服の清潔を心がける ・髪の毛の長い子はきちんと髪を束ねる ・爪切り習慣				

認定こども園 はなえみ保育園 令和8年度 学校安全計画

月		(4・5月)		6月	7・8月	9・10月	11・12月	1・2・3月
安全教育	生活安全	共通	<u>I 園内の安全な生活の仕方</u> ・登降園の仕方（交通ルールを守る） ・遊びの場や遊具（固定遊具を含む）、用具の使い方 ・小動物のかかわり方 ・困ったときの対応の仕方 ・休暇中（GW）の過ごし方 <u>II 園外保育での安全な歩き方</u> ・並ぶ、間隔を空けない ・保育教諭の見えるところにいる ・車道に飛び出さない　・交通ルールを守る <u>III 集団で行動するときの約束</u> ・一人で行動しない　・保育教諭の話を聞く <u>IV 誘拐の防止</u> ・「いかのおすし」の約束を知る	<u>I 生活のリズムを整え、楽しく安全な生活</u> ・登降園時の約束、遊具・用具、固定遊具の安全な使い方 <u>II 雨の日の安全な生活の仕方</u> ・雨具の扱い方、始末の仕方 ・廊下、室内は走らない <u>III 乗り物に関する約束</u> ・車中の過ごし方（必ず椅子に座る、大声を出さない） ・保育教諭のいるところにいる	<u>I 不審者対応</u> ・不審者が園に侵入したときの避難の仕方 ※不審者対応マニュアル参照 <u>II 水遊びのきまりや約束</u> ・準備体操 ・プールでの約束 ※乳幼児が安全に過ごすために・ガイドライン参照 <u>III 夏季休暇中の生活についての安全で楽しい過ごし方</u> ・花火の遊び方 ・外出時の約束	<u>I 生活のリズムを整え、楽しく安全な生活</u> ・水遊び終了後の園庭での遊び方 <u>II 戸外で体を十分に動かして遊ぶ</u> ・園庭の土の状態確認（平になっているか） <u>III 様々な道具の安全な使い方、遊び方</u> ・ボール（蹴る、投げる等）の遊び方 ・縄跳びの縄の扱い <u>IV 集団で行動するときの約束</u> ・集合の合図、友達との歩行 ・職員の指示を聞き、自分から気をつける	<u>I 戸外で体を十分動かして遊ぶ</u> ・日没が早くなるため見えづらくなる前に部屋に帰る <u>II 集団で行動するときの約束</u> ・集合の合図、友達との歩行 ・職員の指示を聞き、自分から気をつける	<u>I 体を動かして遊ぶ</u> ・室内にこもらず、戸外で遊ぶ <u>II 冬の健康な遊び方、安全な行動の仕方</u> ・朝露による地面の凍結のため遊び方を工夫する <u>III 暖房機の危険性、安全に関する約束</u>
		幼児	<u>I 園内の安全な生活の仕方</u> ・新しく使える道具や用具、場所の使い方 ・登降園時駐車場からの飛び出し防止及び柵に登らない等の注意喚起		<u>I 夏季休暇中の生活についての安全で楽しい過ごし方</u> ・夏季休暇中での過ごし方、旅行先での怪我防止	<u>I 生活のリズムを整え、楽しく安全な生活</u> ・3階園庭の草引き <u>III 様々な道具の安全な使い方、遊び方</u> ・後に使う人の安全を考えた片付け方	<u>II 集団で行動するときの約束</u> ・遠足でのバスの乗下車の方法 ・乗車中の安全な座り方	<u>II 冬の健康な遊び方、安全な行動の仕方</u> ・自分の身の回りの危機に自ら気づき、安全な行動への判断をする
	交通安全	共通	<u>I 安全な登降園の仕方</u> ・初歩的な交通安全の約束	<u>I 雨の日の安全な歩行の仕方</u> ・傘の持ち方	<u>I 園外保育での安全な歩き方</u> ・園外に出る前に園児と歩き方の約束を話し合う	<u>I 様々な状況、場面での交通ルールの理解</u> ・駐車中の自動車の前後の横断	<u>I 様々な状況、場面での交通ルールの理解</u> ・遠足先でバスに乗下車する際の注意点	<u>I 様々な状況、場面での交通ルールの理解</u> ・自分の耳と目で確かめる習慣 ・交通量の多い道路での歩行、横断
		幼児	<u>II 道路の安全な歩き方</u> ・標識、表示（とまれ登）の意味 ・安全確認（左右を見る）の仕方 <u>III 交通安全に関する約束の確認</u> ・飛び出し　・道路では遊ばない　・道路の横断 <u>IV 信号の正しい見方</u> ・点滅しているときの判断、適切な行動	<u>II 遠足での交通安全</u> ・バスの乗下車時の注意点	<u>II 遠足・園外保育での交通安全</u> ・歩道を歩く（ない場合は路肩を歩く） ・ふざけながら歩かない	<u>I 様々な状況、場面での交通ルールの理解</u> ・道路の横断 ・駐車中の自動車の前後の横断 ・信号が点滅している時の行動の仕方	<u>I 様々な状況、場面での交通ルールの理解</u> ・遠足・園外保育での交通安全	<u>I 様々な状況、場面での交通ルールの理解</u>
	災害安全	共通	<u>I 避難（防災）訓練の意味や必要性</u> <u>II 避難の仕方</u> ・避難訓練の合図（非常ベル、放送等） ・「おかしも」の約束 ・火災の怖さ、火事発見時の適切な行動 ・火災時は靴を履かない ・職員の指示を聞いての避難 <u>III 光化学スモッグに対する注意事項</u> ・屋外での活動を中止する	<u>I 放送・職員の指示を聞き、避難</u> ・手を口、鼻に当てる ・持っているものは置いて避難	<u>I 洪水の時の避難の仕方</u> ・精道小学校に避難する	<u>I 火災が起きたときの避難の仕方</u> ・周囲の状況、そばにいる職員の指示 ・職員による消火活動	<u>I 火災が起きたときの避難の仕方</u> ・周囲の状況、そばにいる職員の指示 ・職員による消火活動	<u>I 地震・火災避難訓練・予告なし</u> ・周囲の状況、放送やそばにいる職員の指示 ・消防署から指導
		幼児	<u>I 避難の仕方</u> ・火災時は靴を履き替えない ・姿勢を低く保ち、口許を手で覆う	<u>I 放送・職員の指示を聞き、避難</u> ・非常階段・滑り台で避難		<u>I 火災が起きたときの避難の仕方</u> ・手で口許を押さえ、煙を吸い込まないようにする		
行事		入園式・始業式・園外保育		園外保育	プール開き・交通安全教室・救急救命	運動会・園外保育・不審者対応訓練	遠足（バス）	遠足（バス）・終業式・卒園式
安全管理		<u>I 安全点検表の作成</u> ・危険な行動に対する職員同士の共通理解、指導の徹底 <u>II 園内外の環境の点検</u> ・園児の動線を考え、室内での安全な遊びの場づくりの工夫 <u>III 保育室の遊具、用具の点検、整備、清掃</u> ・安全点検表を用いて安全の確認 <u>IV 園外保育・遠足等の目的地の実地調査</u> ・遠足当日に向けた現地の安全点検		<u>I 使い慣れた遊具、場所の安全指導の徹底</u> ・園庭での遊び方を改めて園児と確認しあう ・安全点検表による安全の確認	<u>I プールの衛生管理、水遊びの遊具、用具の安全点検</u> プール日誌を用いての衛生管理、安全点検 <u>II 使い慣れた遊具、場所の安全指導の徹底</u> ・水遊びでの安全な遊具の使い方、遊び方	<u>I 戸外での遊び、遊びの場、園児の遊びの動線への配慮</u> ・園外保育等を利用し、信号機の見方、道路の歩き方等の体験的な指導	<u>I 戸外での遊び、遊びの場、園児の遊びの動線への配慮</u> ・園外保育等を利用し、信号機の見方、道路の歩き方等の体験的な指導	<u>I 室内での遊び、狭い遊び場での安全管理、職員同士の連携・調整</u> ・暖房の温度、室内の換気に留意 <u>II 職員の消火訓練（消防署の指導）</u> ・訓練後、消火訓練の手順を振り返る <u>III 積雪時の園庭、園舎の安全確認</u> ・園児が園庭で遊べるように整える
安全に関する組織活動（研修含む）		<u>I 保護者連絡</u> ・円生活を安全に過ごすための決まり、約束を連絡（登降園の仕方、園児の引き渡し方、出欠の連絡、けが・病気に関する連絡方法、火災時の対応） ・通園状況の把握 ・定期健康診断の結果連絡 <u>III 遊具の安全点検の仕方についての研修</u> <u>IV 光化学スモッグ警報発令時の対応</u> ・屋内に避難する ・外出を控えるように保護者へ周知 <u>V 災害時の登降園についての注意喚起</u> ・災害時の保育についてよい子ネットにてお知らせする旨保護者に周知		<u>I 保護者連絡</u> ・雨の日の過ごし方について	<u>I 保護者連絡</u> ・夏の生活で必要な安全（雨天時の歩行、登降園時に親子で注意、熱中症への配慮） <u>II 心配蘇生法（AED 含む）の研修</u> ・実際に起きた時のことを想定した場面で研修する <u>III 夏の交通安全運動</u> ・警察署から警察官を招いて横断歩道の渡り方等の指導	<u>I 不審者との具体的な対応について警察署からの実際指導</u> ・指導後、不審者対応マニュアルの見直しと職員への周知	<u>I 冬期休暇中の安全な過ごし方について</u> ・冬季休暇中での過ごし方、旅行先での怪我防止についての検討、注意喚起	<u>I 保護者連絡</u> ・年末年始の健康で安全な生活について ・降雪時も登降園時の歩行、身支度などへの配慮について ・就学にむけての心構え（危険な道路、場所の確認） <u>II 冬の交通安全運動</u> ・路面の凍結等の注意喚起

危機管理マニュアル

○緊急時の指揮権順位と役割分担

●指揮権順位

- ・ 園長
- ・ 主幹保育教諭

●役割分担

役割	担当者	備考
防災(火)責任者	園長	
通報係	主幹保育教諭	110 番/119 番等への通報
放送係	保育教諭	原則として事務所にいる者
非常持ち出し係	看護師	
避難誘導係	総責任者...園長教諭 見回り...フリー保育 子どもの避難誘導...各クラス担任	火災発生時には窓やドアを閉めて避難する。
消火係	栄養士	原則として付近にいる者

※朝の保育時

通報、避難誘導、人数の把握...早番保育教諭

※延長保育時

通報、避難誘導、人数の把握...遅番保育教諭

※土曜保育時

(午前) 通報、避難誘導、人数の把握...早番保育教諭

(午後) 通報、避難誘導、人数の把握...遅番保育教諭

○園長・リーダー不在時に子どもがケガをした時の対応

1.看護師に報告し、指示を仰ぐ（看護師不在の場合は救急病院等に連絡し、指示を仰ぐ）

→職員が複数いれば役割分担

① 園長(リーダー)に連絡する人(看護師もしくはケガの対応をした職員)

②マニュアルを参照に受診先を探す(看護師もしくはケガの対応をした職員)

2.保護者へ連絡(看護師もしくはケガの対応をした職員)

- ・ 状況説明

- ・ 病院受診の旨を伝える

→病院先を伝え保護者の方にも来院していただく(可能な方のみ)

3.受診結果を保護者及び園長(リーダー)に連絡する

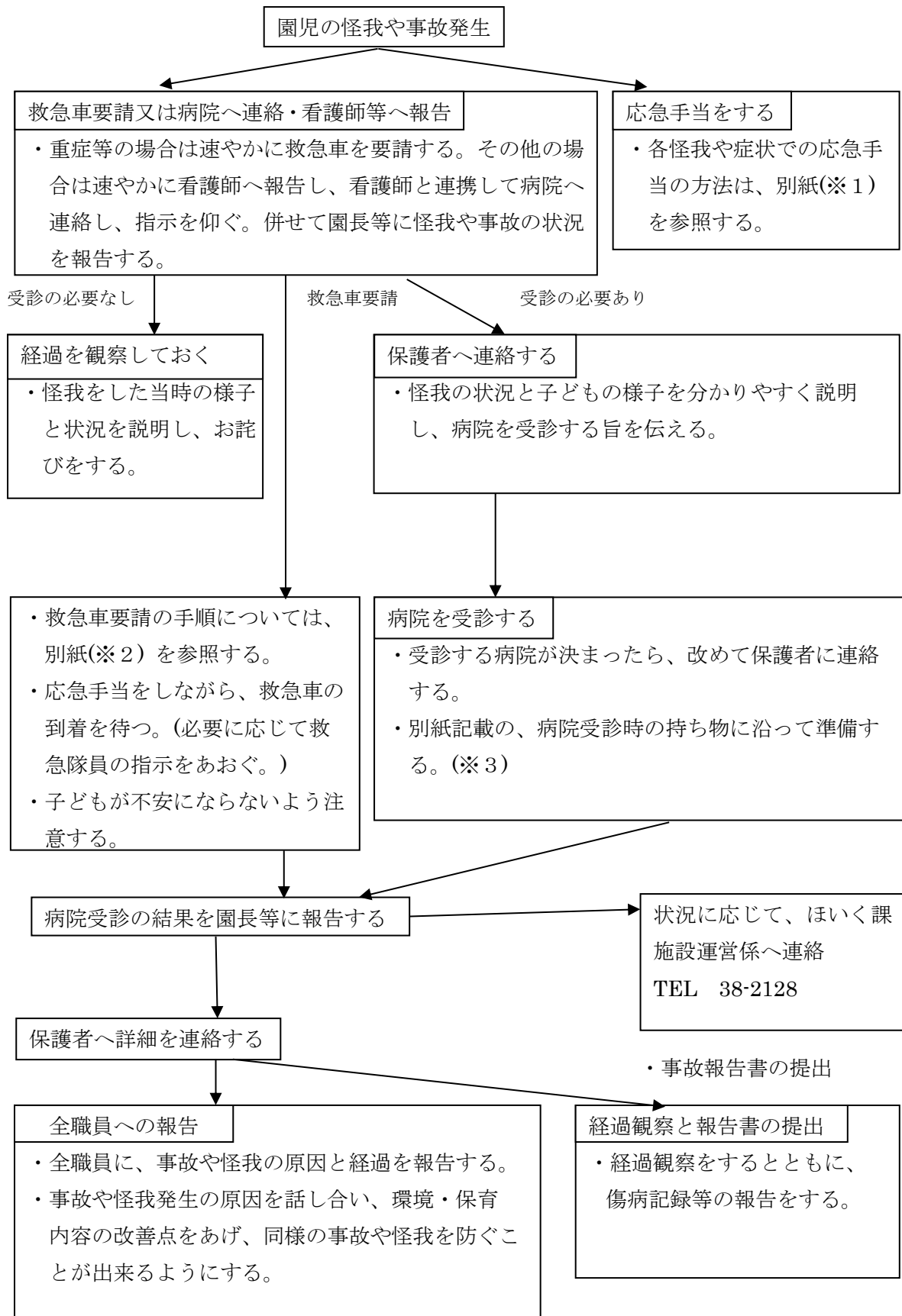
4.経過観察

→何か異常があれば受診先に連絡し指示をあおぐ

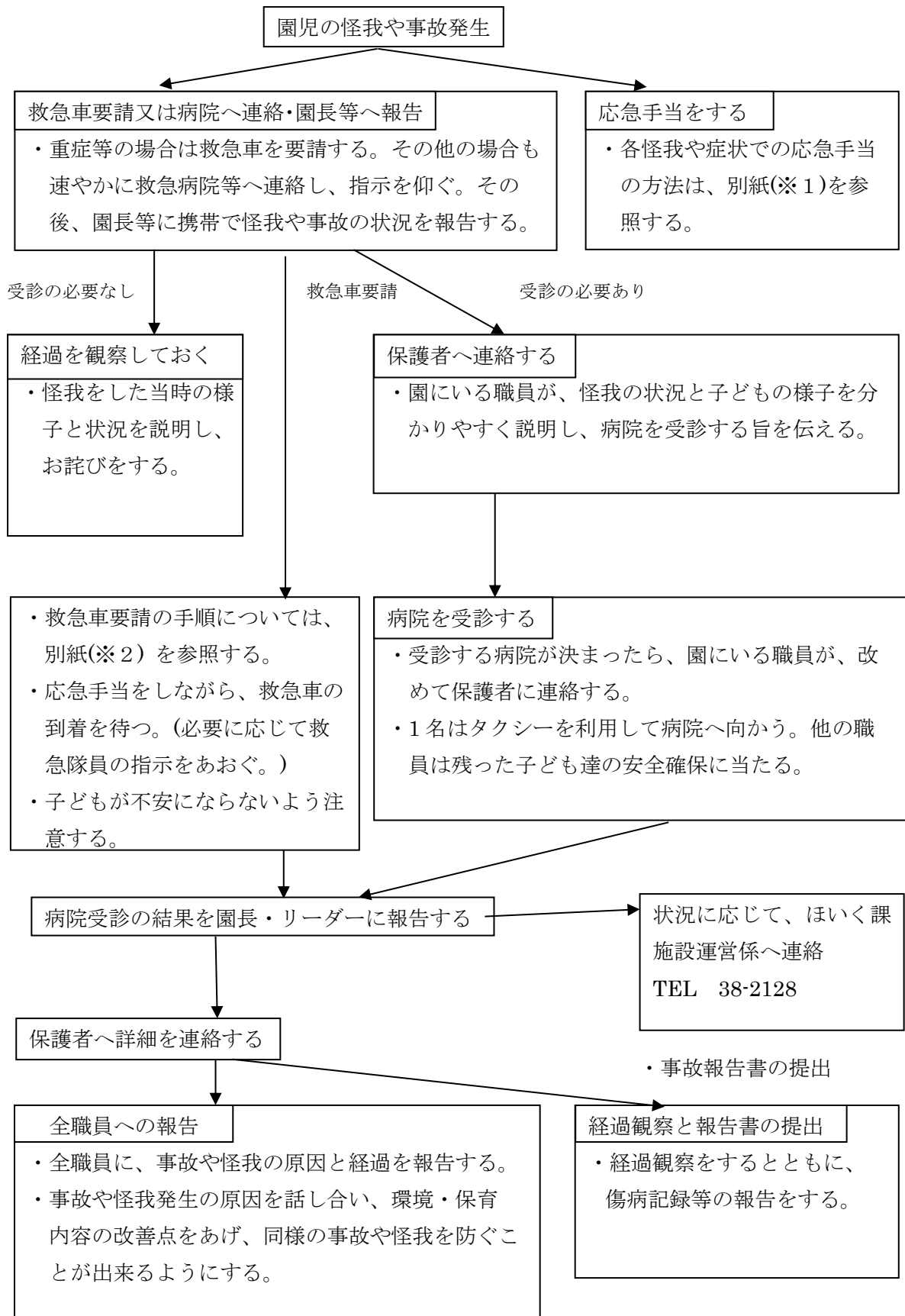
園長(リーダー)に報告

保護者にも連絡をいれる

事故対応マニュアル（園内での事故・怪我の場合）



事故対応マニュアル（園外での事故・怪我の場合）



応急手当

	応急手当	注意点	その後の処理	医療機関受診の判断
創傷 (擦過創、裂創、切創、刺創)	・水道水(流水)でしっかりと洗浄し汚れや異物をできるだけ取り除く。 ・きれいな布やガーゼで圧迫止血し、上からテープや包帯で止める。	・手や足の出血の場合、出血部位の近位(体に近いところ)は強く縛ると、血流が悪くなって組織や神経を傷めることがあるので進められない。	・傷は乾燥させないことが大切。 ・消毒薬は皮膚組織を傷つけ、傷の治りをかえって妨げるので、よほどの汚い傷でない限り使用しないほうがいい。 ・表面のみの浅い擦り傷の場合、異物がきれいに洗い流されて、止血できれば、抗生剤入りの軟膏など塗り傷を乾かさないようにする。	・釘や刃物、動物の歯などが深く刺さった傷 ・大きく開いてしまった傷 ・洗っても異物や汚れが取れない傷 ・出血が止まらない傷の場合は洗って圧迫止血をしながら救急医療機関、外科系の医療機関を受診する ・大きな傷、深い傷、汚れた傷の場合破傷風予防が必要なことがあるため、三種混合ワクチン(破傷風ワクチン)の接種歴が分かると役に立つ。
捻挫、脱臼、骨折	・できるだけそのままの形で動かさないようにする。 ・段ボールや軽い板などを利用して添え木にし、包帯で巻く。 ・タオルで巻いた氷袋などで当て冷やすと痛みが和らぐ。	・足の外傷ならその足に体重をかけないようにする。 ・手の外傷ならその手で物を持たないようにする。 ・出血している傷があれば圧迫止血し、骨が皮膚から飛び出しているような部分があればきれいな布やガーゼでおおっておく。		・捻挫、脱臼、骨折の区別は現場では難しいので、変形、腫れ、痛みがある場合は整形外科、緊急医療機関を受診する。 ・幼児に多い「肘内障(肘の部分の骨が覆っている靱帯から出てしまう状態)」
頭部外傷	・まず、安静にして意識を確認する。 ・頭皮に傷があればきれいな布やガーゼで圧迫止血をする。	・高所からの転落、車対歩行者側、飛ばされて頭を打ったなどの場合は、頸椎(首の骨、中に神経が通っている)のけがを合併していることもあるので首や頭を動かさないようにする。	①状況がはっきりしている。 ②それほど強い力が加わった状況ではない。 ③受傷直後から意識がはっきりしていて反応が良い。 ④手足がいつもどおり動かせる ⑤嘔吐がない ⑥頭皮に大きな傷がない。 ・以上すべて満たすなら、打撲部位を冷やして様子を見てよい。	・①から⑥のいずれか一つでも問題があれば、医療機関を受診する必要がある。 ・高所からの転落、車対歩行者の歩行者側、飛ばされて頭を打ったなど強い力が加わっている場合や、意識が悪い、痙攣しているときは救急車で直ちに受診する。 ・受傷後は元気でも、時間がたってから嘔吐を繰り返すときは受診する。
熱中症	・高温環境、熱いところで運動したりすることで手足が痙攣したり、ぐったりしたり、意識の状態が悪くなったときは熱中症を疑う。 ・風通しがよく涼しい環境に移動させ、薄着にし、安静にする。	・熱中症の高体温に解熱剤を使用してはいけない。 ・腋の下で測った体温が低いからといって熱中症は否定できない。	・意識がしっかりとっていて飲めるようであれば水分と塩分をとらせる。	・乳児が高温環境におかれていたとき、意識が悪いとき、水も飲めないくらいぐったりしているときは救急車で医療機関を受診する。 ・意識がはっきりしていて、水分や塩分がとれるなら涼しい場所で安静にし様子を見てもよいが、症状が改善しないときは医療機関を受診する。

	応急手当	注意点	その後の処理	医療機関受診の判断
虫刺され	刺された場所だけの腫れ、痛み、かゆみがあれば洗って市販薬を塗り、様子を見る。	- どのような生物にいつ刺されたか(かまれた)のか確認する。 - 蜂刺傷の場合、初めて刺されたときは局所症状だけでも2回目以降この反応が起こることがあるので何度も刺されている場合は注意が必要。		- ぜいぜいする呼吸や全身の発疹が急に出てきたとき、意識がぼんやりとしてくる場合は「アナフィラキシーショック」という全身の反応により呼吸困難に陥る危険があるので救急車を呼び直ちに受診する。 - 蜂の場合、局所の症状のみであっても針と毒の入った袋が皮膚に残って毒を出し続けていることがあり、針を除去する必要があるので緊急医療機関を受診したほうがよい。
目の外傷	- 目が開けられるかどうか見え方かどうか可能な範囲で確認する。 - 打撲によるまぶたの腫れ、皮下出血、まぶたの切り傷の場合、まず冷やし、出血があればきれいなガーゼか布を当てる。 - 目に直接物が当たった、突き刺さった場合は頭を動かさないようにし、すぐに眼科、救急医療機関を受診する。	- ガーゼや布を当てる時に圧迫しすぎないように注意する。 - 目に物が刺さっている時は刺さっている物を抜かないようにする。		- 視力や目の動きに問題があるとき、まぶたに傷があるときは眼科を受診する。 - 目が開けられなくて視力や目の動きがわからないとき、見え方を評価しづらい乳幼児の目の外傷の場合は、眼科を受診した方がよい。
鼻出血	- まずは鼻の付け根を親指と人差し指でしっかりとはさんで圧迫止血する。 - 鼻を冷やす。	- 血は飲み込まず、口から出させる。 - ティッシュをつめてもいいが、必ず鼻の付け根の圧迫止血を一緒に行う。	- 強い打撲がなく、応急手当を行い、出血が止まれば受診の必要はない。 - 血が止まった後は鼻を触らないように注意する。	- 応急手当をしても血が止まらない時は耳鼻科あるいは救急医療機関を受診する。 - 頭や顔の強い打撲に伴う鼻出血の場合は頭の中の出血や骨折を伴っていることがあるので、救急車で受診したほうがよい。
歯の外傷	出血している歯茎は圧迫止血する。	- 乳歯の損傷は歩き始めの1歳前後で、永久歯の損傷は生え始めの7～8歳で多く、いずれも抜けやすい。 - 抜けてしまった歯の根元には歯が再び接着するために重要な歯根膜がついているので、根元を持たないようにし、歯冠部(歯茎から顔を出している部分)を持つ。	- 飲み込んでしまう危険がなければ、歯を抜けた歯茎に戻したり、口の中(頬の粘と歯茎の間)に歯を含ませて受診する。 - 歯がぐらついているだけの場合は受診まで歯を触らないようにする。 - 口の外に放置しているとすぐに歯根膜が傷んでしまうため、牛乳あるいは歯牙保存液に漬け、受診できるまで冷蔵庫に保存する。 - 歯牙保存液は常備しておくとうい。	抜けてしまった場合、折れてしまった場合はいずれも処置が早いほどつきやすいので、できるだけ早く歯科口腔外科を受診する。

	応急手当	注意点	その後の処理	医療機関受診の判断
--	------	-----	--------	-----------

口腔内外傷	- 舌や唇の外傷が多い。 - どこにどんな傷があるか、歯の損傷はないか確認し、出血している傷はガーゼや綿で圧迫止血する。		歯の損傷がなく、浅い傷で止血できていれば、市販の口腔用軟膏で様子を見てもよい。	歯の損傷があるとき、傷が大きいとき、出血が止まらないときは歯科口腔外科、緊急医療機関を受診する。
熱傷	まずは流水で熱傷部位を冷やす。	- 冷やす時間は10分以内にとどめる。 - 血行が悪くなるので氷は直接当てない。 - 水疱ができている場合はつぶさないようにする。	赤くなっているだけなら冷やして、後は様子を見るだけでよい。	- 火災で熱い煙を吸った可能性のあるとき（鼻の穴や口の中にすすがついているとき、声がかれているとき）は、気道が腫れて息がなくなる場合があるので、救急車で直ちに救急医療機関を受診する。 - 顔全体、胸全体、陰部の熱傷や広い範囲の熱傷、また水疱ができていたり、表皮がはがれていたり、皮膚が白くなっているような深い熱傷の場合も皮膚科、形成外科、あるいは救急医療機関を受診する必要がある。
誤飲	何をいつ、どれくらい飲んだのか、可能な限り調べる。	意識がぼんやりしているときや酸、アルカリ（漂白剤、トイレ用洗剤、カビ取り剤）、灯油、シンナーを飲んだときは粘膜の損傷を広げたり誤って気道に入り肺炎を起こす危険があるので、絶対に吐かせてはいけない。		- 首や胸の痛みを訴えるときは食道に固形物がとどまっている可能性があり、食道粘膜は薄いので、異物がとどまると穿孔しやすいため、すぐに受診する。 - ボタン電池、特にリチウム電池誤飲時。 電力の大きいリチウム電池は、胃の中まで落ちても長く同じ位置にとどまると穿孔や出血の可能性があるため、できるだけ早く受診する。 - 強酸、強アルカリ（漂白剤、トイレ用洗剤、カビ取り剤）、灯油、シンナーを飲んだとき、そのほか誤飲の原因として多い家庭用品と受診の判断を表1にまとめている。

※タバコ、家庭用品、医薬品などの誤飲ではまず日本中毒情報センター(072-727-2499、029-852-9999)に問い合わせて対応を聞くのも有用である。飲んだものと同じもの、成分の書いてあるものを病院に持っていくと、診断や治療に役に立つ。子どもの手の届くところに置かないなど再発予防にも気を配る。

表 1

少量でもすぐに受診したほうが良いもの	場合により受診したほうが良いもの
強酸、強アルカリ(漂白剤、トイレ用洗剤、カビ取り剤)、灯油、シンナー 樟脳(防虫剤がすべて樟脳というわけではない。成分を確認) 香水 大人の内服薬(特に心臓病、高血圧、糖尿病の薬、睡眠薬) ボタン電池(とくにリチウム電池の場合) タバコ(フィルター部分をのぞいて 2cm以上飲んだ可能性のある場合、タバコの葉が漬かった液を飲んだ場合)	ベビーオイル、ベビーパウダー(咳や呼吸が苦しそうな症状があるとき)

<別紙>※ 2

救急車要請の手順 <1 1 9 番>

消防署の問いかけ	通報者の要領
消防署「火事ですか、救急ですか」	通報者「救急です」
消防署「どうしましたか」	通報者「○歳の男児(女児)が○○です」
消防署「住所を教えてください」	(園内)通報者「芦屋市浜芦屋町 3 番 26 号です」 (園外)通報者住所がわかる場合は住所、わからない場合は、場所を伝える。
消防署「電話番号を教えてください」	(園内)通報者「0797-35-8400 です」 (園外通報者)自分の携帯番号を伝える。携帯電話で通報している場合は、携帯から通報していることを伝える。
	通報者 近くにある建物など、分かりやすいものを伝える。

※救急隊員の指示にしたがって受け答えを行う。

<別紙>※ 3

病院受診時の持ち物

- ・ 緊急連絡票のコピー
- ・ 現金
- ・ 携帯電話
- ・ 着替え、オムツ、ティッシュ、ビニール袋、タオル、靴
- ・ 筆記用具
- ・ 病院受診の連絡を受けられた保護者の方に持参頂くもの(保険証、乳児医療証、診察券)

火災発生時対応マニュアル

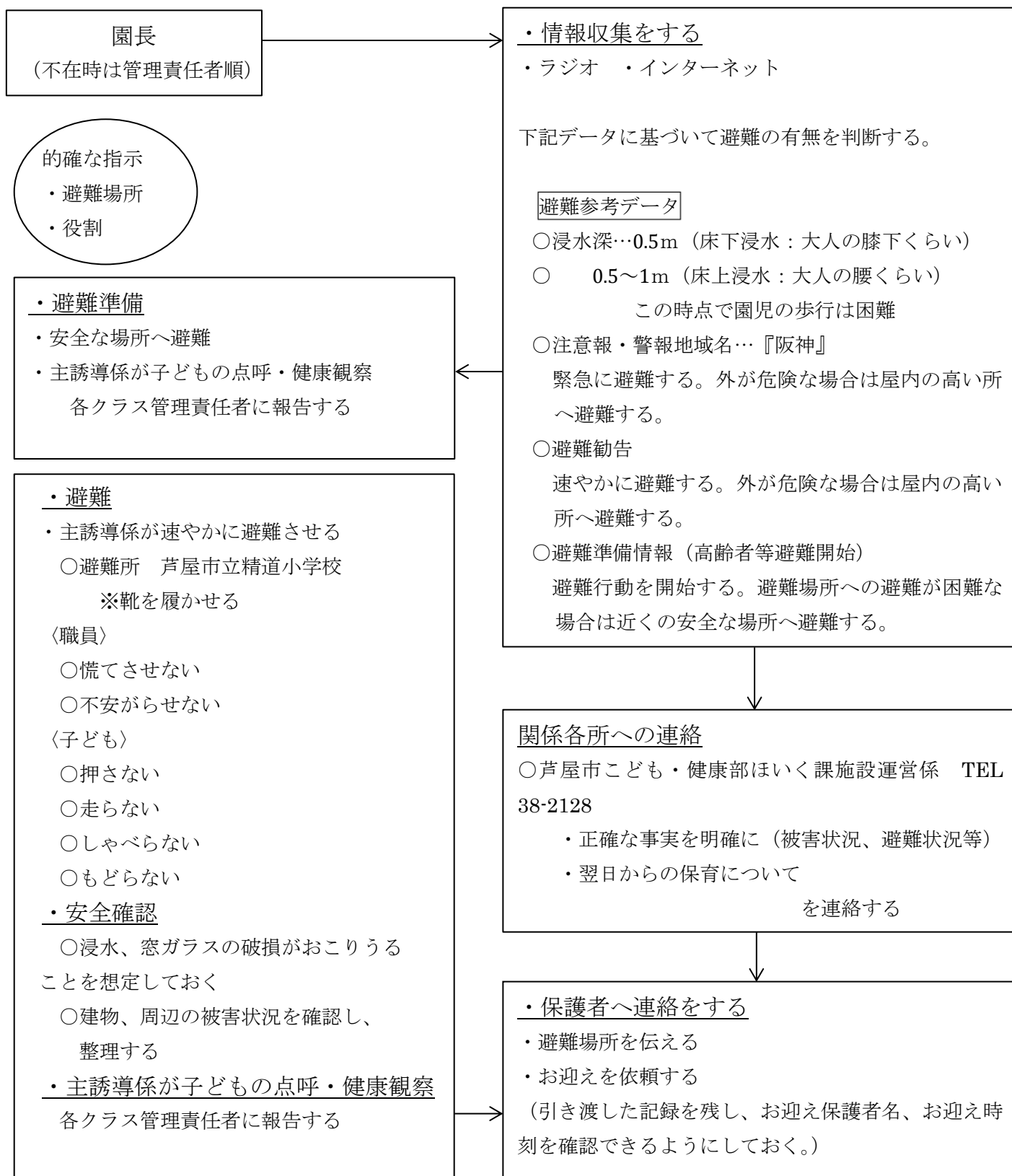


保護者への事前周知

以下の内容は、保護者に重要事項説明会等の機会を活用して周知を図っておく。

避難場所	住所	電話番号	所要時間
芦屋市立精道小学校	精道町8番25号	TEL 32-1111	徒歩5分(大人)

風水害・台風・土砂災害発生時対応マニュアル

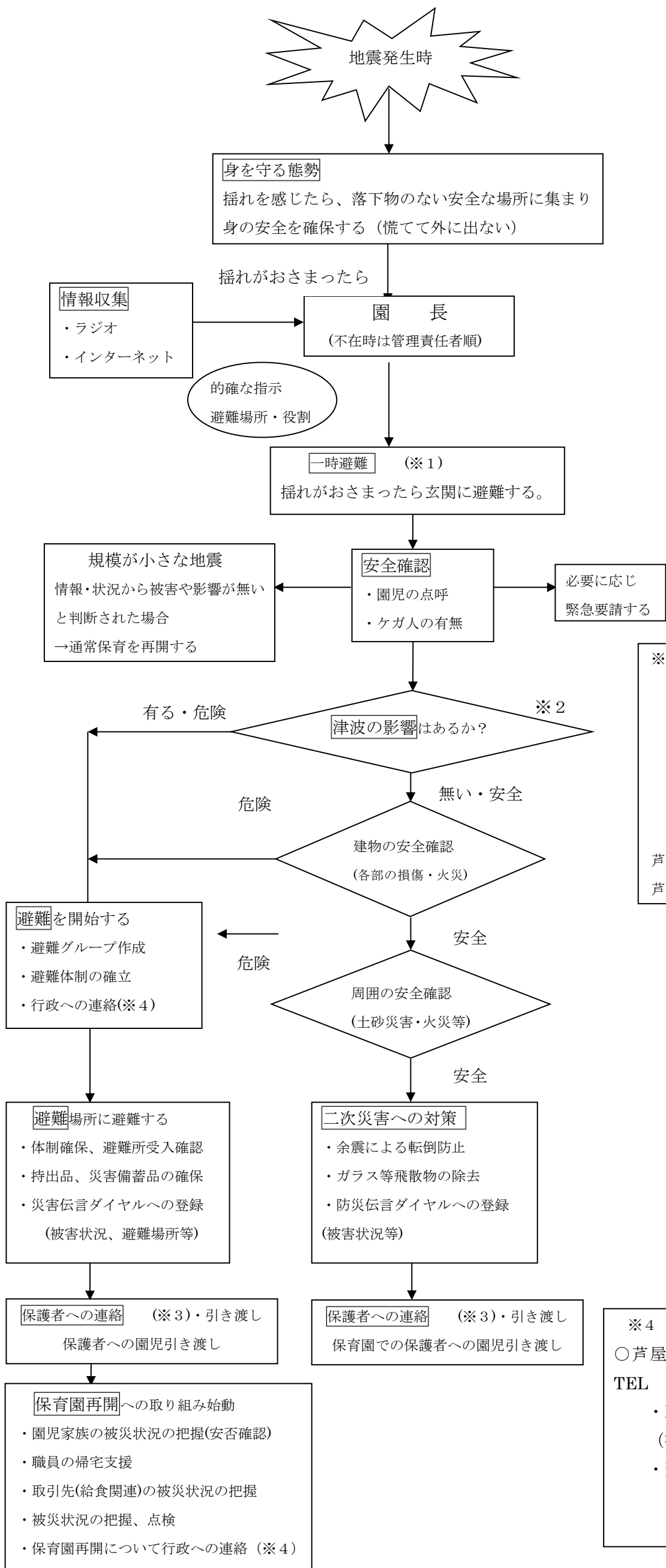


保護者への事前周知

以下の内容は、保護者に重要事項説明会等の機会を活用して周知を図っておく。

避難場所	住所	電話番号	所要時間
芦屋市立精道小学校	精道町 8 番 25 号	TEL 32-1111	徒歩 5 分 (大人)

地震発生時対応マニュアル



※1【避難における注意事項】

①避難経路の安全確認をする

窓ガラスの破損が起こりうることを想定しておく。必要に応じて、毛布やシートなどを避難経路に敷く。

②主誘導係が速やかに避難させる

・一次避難所：はなえみ保育園遊戯室

・二次避難所：芦屋市立精道小学校

※靴を履かせる

<職員> 1. 慌てさせない

2. 不安がらせない

<子ども> 1. 押さない

2. 走らない

3. しゃべらない

4. 戻らない

③主誘導係が子どもの点呼・健康観察

各クラス管理責任者に報告する

④建物や周辺の被害状況を確認し、整理する。

※2【南海トラフ大地震津波の影響】

最高津波水位	3.7メートル
最短到達時間	111分（津波高1メートル）
浸水面積	10ヘクタール（0.1平方キロメートル） 以下の範囲 ※詳細な浸水地域は示されていない。

芦屋市 HP 参照

芦屋市防災情報マップ国道2号以南

※3 保護者への連絡

①避難場所を伝える

②お迎えを依頼する

（お迎え保護者名・迎え時刻を確認）

よいこネットを利用する

引き渡した記録を残す

（お迎え保護者名・お迎え時刻を記録）

※不安を煽らない

※4 関係各所への連絡

○芦屋市こども・健康部ほいく課ほいく係
TEL 38-2128

・正確な事実を明確に

（被害状況、避難状況等）

・翌日からの保育について

を連絡する

保護者への事前周知

以下の内容は、保護者に重要事項説明会等の機会を活用して周知を図っておく。

避難場所	住所	電話番号	所要時間
芦屋市立精道小学校	精道町8番25号	TEL 32-1111	徒歩5分（大人）

園外保育（遠足・散歩）で地震に遭遇した場合

◎事前に調べておくこと

- ・大地震の際に想定される被害を把握しておく
(土砂災害、津波、河川氾濫)
- ・目的地周辺の安全な避難場所を確認しておく
- ・災害発生時の指揮系統、体制を決めておく

◎園外で地震に遭遇した場合

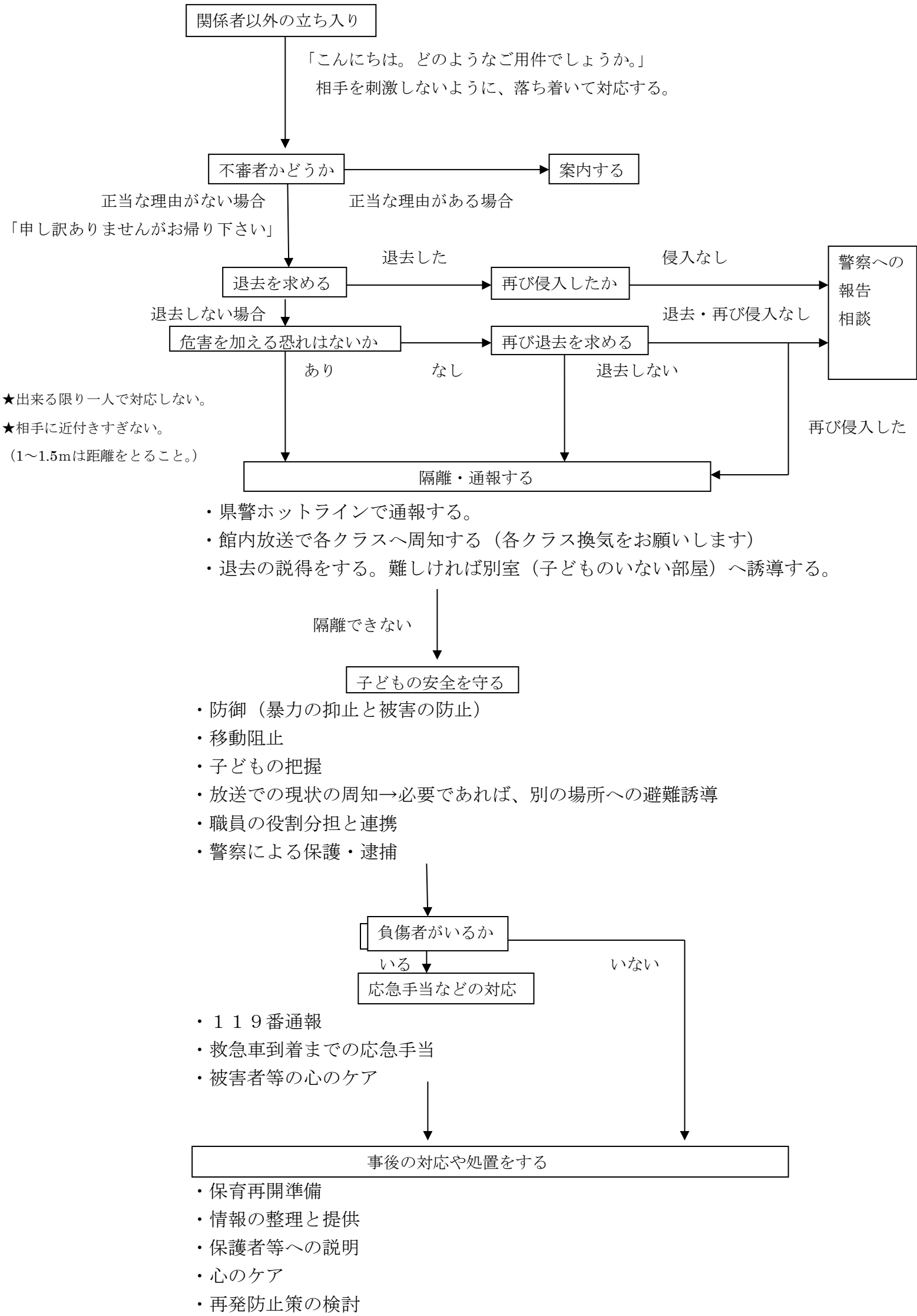
- ・直ちに園児を集め、塀や建物から遠ざけ、安全な姿勢で揺れが収まるのを待つ
- ・その後速やかに人数の確認を行う
- ・切れた電線には絶対に近づかない
- ・ブロック塀、自動販売機、屋根瓦、ガラスその他落下物や転倒物に注意する
- ・携帯電話等、連絡がつく場合は園と連絡を取り、必要に応じて園に応援を要請する
- ・連絡がつかない場合は近隣に応援を要請する
- ・公共交通機関や貸切バス等乗り物に乗っている場合は運転手・車掌の指示に従う

不審者への対応マニュアル

◎見知らぬ人が来園した場合

必ずモニターで対応し、どなたなのかと用件を確認する。
誰か確認出来るまでは、絶対に開錠しない。

◎不審者への緊急対応の例
(園内へ入ってしまった場合)



館内放送（各クラス換気をお願いします）で不審者の侵入を知ったら…

◎室内遊びをしていた場合

0 歳児及び 2 歳児は 1 歳児保育室へ移動する。

3 歳児及び 4 歳児は 5 歳児保育室へ移動する。

全園児合同になり、人数確認ができ次第、1 名が不審者対応へまわる。

フリー1 名がさすまた対応にまわる。

★不審者が保育室に入って来られないよう戸締りをし、保育室はカーテンを閉める。

ドアは外からも鍵が開けられるため、棚や机、棒などを使い、ドアが開かないようにする。

園外活動中の場合

- ・保育教諭のもとに子どもを集め、人数確認をし、安全を確保する。
- ・状況を判断し、子どもを避難させることを 1 番に優先する。
- ・必要に応じて、周囲に応援を求める。
- ・110 番通報をする。

★園外へ出る際は、必ず携帯電話を携帯すること。

子どもの発達と保育をとらえる視点			
発達過程	ねらい	内容	配慮事項
①おおむね 6か月未満	○お腹がすき、乳(母乳・ミルク)を飲みたい時、飲みたいだけ ゆったりと飲む ○安定した人間関係の中で、乳を吸い、心地よい生活を送る	○よく遊び、よく眠る ○お腹がすいたら、泣く ○保育教諭にゆったり抱かれて、乳(母乳・ミルク)を飲む ○授乳してくれる人に関心を持つ	○一人一人の子どもの安定した生活のリズムを大切にしながら、心と体の発達を促すよう配慮する ○食欲と人間関係が密接な関係であることを踏まえ、愛情豊かな特定の大人との継続的で応答的な授乳中の関わりが子どもの人間への信頼、愛情の基盤となるよう配慮する ○お腹がすき、泣くことが生きていくことの欲求の表出につながることを踏まえ、食欲を育むよう配慮すること ○一人一人の子どもの発育・発達状態を適切に把握し、家庭との連携を取りながら、個人差に配慮すること
	○お腹がすき、乳を吸い、離乳食を喜んで食べ、心地よい生活を味わう ○いろいろな食べ物を見る、触る、味わう経験を通して自分で進んで食べようとする	○よく遊び、よく眠り、満足するまで乳を吸う ○お腹がすいたら、泣く、または、喃語によって、乳や食べ物を催促する ○いろいろな食べ物に関心を持ち、自分で進んで食べ物を持って食べようとする ○ゆったりとした雰囲気の中で、食べさせてくれる人に関心を持つ	○お腹がすき、乳や食べものを催促することが生きていくことの欲求の表出につながることを踏まえ、いろいろな食べ物に接する機会を持ち、食欲を育むようにする ○子どもの咀嚼や嚥下機能の発達に応じて、食品の種類、量、大きさ、固さなどの調理形態に配慮する ○一人ひとりの子どもの発達・発達状態を適切に把握し、家庭と連携をとりながら、個人差に配慮する ○食欲と人間関係が密接にあることを踏まえ、愛情豊かな特定の大人との継続的で応答的な授乳及び食事での関わりが子どもの人間への信頼、愛情の基盤となるよう配慮する
②おおむね 6か月～ 1歳3か月未満	○お腹がすき、食事を喜んで食べ、心地よい生活を味わう ○いろいろな食べものを見る、触る、噛んで味わう経験を通して自分で進んで食べようとする	○よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ ○いろいろな食べものに関心を持ち、手づかみ、または、スプーン、フォークなどを使って自分から意欲的にたべようとする ○食事の前後や汚れたときは、顔や手を拭き、きれいになった快さを感じる ○楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人に関心を持つ	○子どもが食べものに興味を持って自ら意欲的に食べようとする姿を受け止め、自立心の芽生えを尊重する ○食事のときには、一緒に噛まねをして見せたりして、噛むことの大切さが身につくように配慮する。また、少しずつ色々なものに接することができるよう配慮すること ○子どもと一緒に食べたい人を見つけ、選ぶようする姿を受け止め、人への関心の広がりに配慮する ○清潔の習慣については、子どもの食べる意欲を損なわぬよう、一人一人の状態に応じて関わること
	○いろいろな種類の食べ物や料理を味わう ○食生活に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ ○保育教諭を仲立ちとして、友達とともに食事を進め、一緒に食べる楽しさを味わう	○よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ ○食べものに関心を持ち、自分で進んでスプーン、フォーク、箸などを使って食べようとする ○保育教諭の手助けによって、うがい、手洗いなど、身の回りを清潔にし、食生活に必要な活動を自分でする ○楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人、調理をする人に関心を持つ ○色々な食べものを進んで食べる ○身近な動植物を始め、自然現象をよく見たり、触れたりする ○保育教諭を仲立ちとして、友だちと共に食事を進めることの喜びを味わう	○食べものに興味を持ち自主的に食べようとする姿を尊重する。また、いろいろな食べ物に接することができるようにする ○自然や身近な事物などへの触れ合いにおいては、安全や衛生面に留意する。また、保育教諭がまず親しみや愛情を持って関わるようにして、子どもが自らしてみようと思う気持ちを大切にする ○子どもと一緒に食べたい人を見つけ、選ぶようする姿を受け止め、人への関心の広がりに配慮すること。また、子ども同士のいざこざも多くなるので、保育教諭はお互いの気持ちを受容し、他の子どもとのかかわり方を知らせていく。 ○友達や大人とテーブルを囲んで、食事をすすめる雰囲気作りに配慮すること。また、楽しい食事のすすめ方を気づかせていく
③おおむね 1歳3か月～ 2歳未満	○いろいろな種類の食べ物や料理を味わう ○自分で食事ができること、身近な人と一緒に食べる楽しさを味わう ○食事に必要な基本的な週間や態度を身につける ○調理に関心を持ち、簡単な調理を楽しむ ○身近な食材を使って、食べものの味の違いを知る ○大人と一緒に食事をし、会話を通して色々なことを学ぶ ○食べ物は口から食べて消化され、便となって体外へ排泄されることに気づく	○好きな食べ物をおいしく食べる ○様々な食べ物を進んで食べる ○健康な生活リズムを身につける ○身近な大人や友達とともに、食事をする喜びを味わう ○同じ料理を食べたり、分け合って食事することを喜ぶ ○身近な動植物に関心を持つ ○食習慣の基本を身につける ○良く噛んでしっかり飲み込むようにする ○食べ物と便との関係に興味と関心をもつ	○子どもが、遊びや睡眠、排泄などの諸活動をバランスよく展開し、食欲を育むよう配慮する ○身近な動植物、また飼育・栽培物の中から保健・安全面に留意しつつ、食材につながるものを選び、積極的に食する他見を通して、自然と食事のつながりに気づくように配慮する ○食前、食後のあいさつをし、食前には手洗いをする ○食具が上手に使える、よく噛んで食べるなどの基礎的な食習慣を身につけるように働きかける
	○健康、安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける ○様々な人々との会食を通して愛情や信頼感を持つ ○栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみを持ち、全てのいのちを大切にすることを ○調理に積極的に関わりをもつ ○様々な伝統的な日本特有の食事を体験する ○様々な人々との会食を通して、愛情や信頼感を持つ	○慣れない食べ物や嫌いな食べ物にも挑戦する ○うがい、手洗いなど身の回りを清潔にし、食生活に必要な活動を自分でする ○食生活に必要なことを、友達とともに協力して進めて関わりを深め、思いやりの気持ちをもつ ○自分たちで野菜を育て、食材にも旬があることを知り季節感を感じる ○食事の際には、安全に気をつけて行動する ○食べものを通して日本の伝統と食文化に関心を持つ	○食習慣の形成に当たっては、子どもの自立心を育て、子どもが他の子どもと関わりながら、主体的な活動を展開する中で身につくよう配慮する ○身近な動植物に関わって共感し合い、いのちを育む自然に感謝の気持ちもてるよう、自ら関わろうとする意欲を大切にする ○調理する中で、様々な料理を通して素材に目をむけ、関心が養われるようにする ○年間行事や季節と関連させて、日本の伝統と食文化を伝えるように配慮する ○大人との信頼関係に支えられて、自分自身の生活を確立していくことが基盤となることを考慮する
④おおむね2歳	○いろいろな料理に出会い、発見を楽しんだり、考えたりし、様々な文化に気づく ○健康と食べものの関係に気づく ○食習慣、マナーを身につける ○自然の恵みと働くことの大切さを知り、感謝の気持ちを持って食事を味わう ○食事の準備から後片付けまでの食事作りに自らかかわり、味や盛り付けなどをかかんがえたり、それを生活に取り入れようとする ○加工食品の原材料に興味と関心を持つ ○食べものはそれぞれの食品によって、味や香りに特徴があることを知る	○健康と食べ物の関係について関心を持つ ○肉、魚、卵、牛乳、豆、小麦粉など身近な動植物から色々な加工食品ができることを知り、自然の恵みに感謝の気持ちを持つ ○調理をしている人や地域の方々などに関心を持ち、感謝の気持ちを持つ ○挨拶や姿勢など、気持ちよく食事をするためのマナーを身につける ○伝統的な食品加工に出会い、味わう ○野菜の収穫時期に気づき、自分たちで育てた野菜を食べる ○食材の色、形、香りなどに興味をもつ ○調理器具の使い方を学び、安全で衛生的な使用法を身につける	○健康と食べ物の関係について関心を促すに当たっては、子どもの興味・関心を踏まえ、全職員が連携のもと、子どもの発達に応じた内容に配慮する ○様々な文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮する ○安全・衛生面に配慮しながら、扱いやすい食材、調理器具などを日常的に用意する ○食品や料理を通して五感が発達するよう創意工夫をする
	○自分の体に必要な食品の種類や働きに気づき、栄養バランスを考慮した食事をとろうとする ○地域で培われた食文化を体験し、郷土への関心を持つ ○身近な自然に関わり、世話をする中で、料理との関係を考え、食材に対する感覚を豊かにする ○食事にふさわしい環境を考えて、ゆとりある落ち着いた雰囲気でする ○色々な加工食品を見たり触れたりし、調理の方法や料理を知る ○生産地から自分が食べるまでの過程を知り働く人に感謝する	○自分の健康に関心を持ち、必要な食品を進んでとろうとする ○食品は種類によって体の中での働きに違いがあることを知り、健康に気をつけて食品を選ぶ ○色々な料理に出会い、発見を楽しんだり、考えたりし、様々な文化に気づく ○栽培を通し、食材の成長を喜び、調理をすることで生かされることを学ぶ ○調理をしている人や地域のお世話になっている人などに感謝の気持ちを持つ ○外国の人々など、自分と異なる食文化に興味と関心を持つ ○身近な大人や友達と協力し合って、調理することを楽しむ ○おいしそうな盛り付けを考える	○食べものは過剰に食べたり、欠乏することにより、心身の健康を害することに気づくように配慮する ○子どもの食生活と関係の深い人々と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に食を楽しむ ○高齢者をはじめ、地域、外国の人々などと親しみを持ち、人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにする ○買い物を通して食生活の関心を高めるよう家庭への協力を図る
⑤おおむね3歳	⑥おおむね4歳	⑦おおむね5歳	⑧おおむね6歳
備考			

子どもの姿		○お腹がすくりズムのもてる子ども ○食べたいもの、好きなものが増える子ども ○一緒に食べたい人がいる子ども		
年齢	6か月未満児	6か月～1歳3か月未満児	1歳3か月～2歳未満児	2歳児
ねらい	○お腹がすき、乳を飲みたいだけゆったりと飲む ○安定した人間関係の中で、乳を吸い、心地よい生活を送る	○お腹がすき、乳を吸い、離乳食を喜んで食べ、心地よい生活を味わう ○いろいろな食べものを見る、触る、味わう経験を通して自分から進んで食べようとする	○お腹がすき、食事を喜んで食べ、心地よい生活を味わう ○いろいろな食べ物を見る、触る、噛んで味わう経験を通して自分で進んで食べようとする	○いろいろな種類の食べものや料理を味わう ○食生活に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ ○保育教諭を仲立ちとして、友だちとともに食事を進め、一緒に食べる楽しさを味わう
内容	○よく遊び、よく眠る ○お腹がすいたら、泣く ○保育教諭にゆったり抱かれて、乳を飲む ○授乳してくれる人に関心を持つ	○よく遊び、よく眠り、満足するまで乳を吸う ○泣く、または、 喃語によって、乳や食べものを催促する ○いろいろな食べ物に関心を持ち、進んで食べようとする ○ゆったりとした雰囲気の中で、食べさせてくれる人に関心をもつ	○よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ ○いろいろな食べものに関心を持ち、手づかみ、または、スプーン、フォークなどを使って意欲的に食べようとする ○食事の前後や汚れたときは、顔や手を拭き、きれいになった心地よさを感じる ○楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人に関心を持つ	○よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ ○食べものに関心を持ち、進んでスプーン、フォーク、箸などを使って食べようとする ○いろいろな食べ物を進んで食べる ○保育教諭の手助けによって身の回りを清潔にし、食生活に必要な活動をする ○身近な動植物をはじめ、自然事象をよく見たり、触れたりする ○保育教諭を仲立ちとして、友だちともに食事を進め、一緒に食べる楽しさを味わう ○楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人、調理をする人に関心を持つ
配慮事項	○安定した生活のリズムを大切に、心と体の発達を促すよう配慮 ○お腹がすき、泣くことが生きていくことの欲求の表出につながることを踏まえ、食育を育むよう配慮する ○発育・発達状態を適切に把握し、家庭と連携をとりながら、個人差に配慮する ○母乳育児を希望する保護者のために冷凍母乳による栄養法などの配慮を行う。冷凍母乳による授乳を行うときには、十分に清潔で衛生的に処置をする ○愛豊かな特定の大人との授乳中の関わりが、信頼、愛情の基礎となるように配慮する	○安定した生活のリズムを大切に、心と体の発達を促すよう配慮 ○いろいろな食べものに接して楽しむ機会を持ち、食欲を育むよう配慮する ○機能の発達に応じて、食品の種類、量、大きさ、固さなどの調理状態に配慮する ○発育・発達状態を適切に把握し、家庭と連携をとりながら、個人差に配慮する ○愛情豊かな特定の大人との食事でのかかわりが、人間への信頼、愛情の基盤となるように配慮する	○安定した生活のリズムを大切に、心と体の発達を促すよう配慮 ○食べものに興味をもって意欲的に食べようとする姿を受け止め、自立心の芽生えを尊重する ○一緒に噛むまねをして見せたりし、噛むことの大切さが身につくように配慮する ○機能の発達に応じて、食品の種類、量、大きさ、固さなどの調理状態に配慮する。また、少しずついろいろな食べものに接することができるよう配慮する ○清潔の習慣については、一人一人の状態に応じてかかわる ○一緒に食べたい人を選ぼうとする姿を受け止め、人への関心の広がりに配慮する	○安定した生活のリズムを大切に、心と体の発達を促すよう配慮 ○食べ物に興味を持ち、自主的に食べようとする姿を尊重する。また、いろいろな食べ物に接することができるよう配慮する ○個人差に応じて、食品の種類、量、大きさ、固さなどの調理状態に配慮する ○清潔の習慣については、一人一人の状態に応じてかかわる、また、保育教諭がまず親しみや愛情を持ってかかわるようにして、子どもが自らしてみようと思う気持ちを大切にする ○自然や野菜づくりへの触れ合いにおいては、安全や衛生面に配慮する。 ○一緒に食べたい人を選ぼうとする姿を受け止め、人への関心の広がりに配慮する。また、子ども同士のいざこざも増えるので、お互いの気持ちを受容し、かかわり方を知らせていく ○友だちや大人とテーブルを囲んで、食事をすすめる雰囲気づくりに配慮する。また、楽しい食事のすすめ方を気づかせていく
離乳食の進め方	別紙添付資料参照			

子どもの姿	○お腹がすくりズムのもてる子ども ○食べたいもの、好きなものが増える子ども ○一緒に食べたい人がいる子ども ○食事づくり、準備にかかわる子ども ○食べものを話題にする子ども		
	Ⅰ期(4月～5月)	Ⅱ期(6月～12月)	Ⅲ期(1月～3月)
ねらい	○できるだけ多くの種類の食べものや料理を味わう ○健康、安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける。 ○自分で食事ができる。身近な人と一緒に食べる楽しさを味わう ○様々な人々との会食を通して、愛情や信頼感を持つ	○自然の恵みと働くことの大切さを知り、感謝の気持ちを持って食事を味わう ○栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみをもち、すべてのいのちを大切に作る心を持つ ○身近な自然にかかわり、世話をしたりする中で、料理との関係を考え、食材に対する感覚を豊かにする ○身近な食材を使って、調理を楽しむ ○食事の準備から後片付けまでの食事づくりに自らかかわり、味や盛り付けなどを考えたり、それを生活に取り入れようとする ○いろいろな料理に出会い、発見を楽しんだり、考えたりし、様々な文化に気づく ○地域で培われた食文化を体験し、郷土への関心を持つ	○自分の体に必要な食品の種類や働きに気づき、栄養バランスを考慮した食事をとろうとする。 ○食習慣、マナーを身につける ○食事にふさわしい環境を考えて、ゆとりある落ち着いた雰囲気で食事をする
内容	○好きな食べものをおいしく食べる ○様々な食べものを進んで食べる ○慣れない食べものや嫌いな食べ物にも挑戦する ○健康と食べ物の関係について関心を持つ ○健康な生活リズムを身につける ○うがい、手洗いなど、身の回りを清潔にし、食生活に必要な活動を自分でする ○保育所生活における食事の仕方を知り、自分たちで場を整える ○食事の際には、安全に気をつけて行動する ○子どもの自立心を育て、子どもが他の子どもとかかわりながら、主体的な活動を展開する中で、食生活に必要な習慣を身につける ○身近な大人や友だちとともに、食事をする喜びを味わう ○同じ料理を食べたり、分け合って食事することを喜ぶ ○食生活に必要なことを、友だちと共に協力して進める ○食の場を共有する中で、友だちとのかかわりを深め、思いやりを持つ	○調理をしている人に関心を持ち、感謝の気持ちを持つ ○食材にも旬があることを知り、季節感を感じる ○身近な動植物に関心を持つ ○動植物に触れ合うことで、いのちの美しさ、不思議さなどに気づく ○自分たちで野菜を育てる ○収穫の時期に気づく ○自分たちで育てた野菜を食べる ○小動物を飼い、世話をする ○卵や乳など、身近な動物からの恵みに、感謝の気持ちを持つ ○食べ物を皆で分け、食べる喜びを味わう ○身近な大人の調理を見る ○食事づくりの過程の中で、大人の援助を受けながら、自分でできることを増やす ○食べたいものを考える ○食材の色、形、香りなどに興味を持つ ○調理器具の使い方を学び、安全で衛生的な使用法を身につける ○身近な大人や友だちと協力し合って、調理することを楽しむ ○おいしそうな盛り付けを考える ○地域のお年寄りや外国の人など様々な人々と食事を共にする中で、親しみを持つ ○地域の産物を生かした料理を味わい、郷土への親しみを持つ	○自分の健康に関心を持ち、必要な食品を進んでとろうとする ○楽しく食事をするために、必要なきまりに気づき、守ろうとする ○挨拶や姿勢など、気持ちよく食事をするためのマナーを身につける ○食事が楽しくなるような雰囲気を考え、おいしく食べる
配慮事項	○子どもが保育教諭や他の子どもとの暖かな触れ合いの中で楽しい食事をすることが、しなやかな心と体の発達を促すよう配慮する ○食事はもちろんのこと、子どもが遊びや睡眠、排泄などの諸活動をバランスよく展開し、食育を育むよう配慮する ○子どもの興味・関心を踏まえ、全職員が連携し、発達に応じた内容に配慮する ○子どもの自立心を育て、子どもが他の子どもとかかわりながら、主体的な活動を展開する中で、食生活に必要な習慣を身につけるように配慮する ○子どもと共に食事をする機会を大切にする。また、他者との食事から多様な感情を体験し、自分の力で行うことの充実感をあじわうことができるよう、適切な援助を行う ○食を通して、一人一人を生かした集団を形成しながら、人とかかわる力を育てていくように配慮する。また、子どもたちと話し合いながら、自分たちのきまりを考え、それを守ろうとすることが、楽しい食事につながっていくことを大切にする こと ○子どもが他の子どもとかかわりの中で他者の存在に気付き、相手を尊重する気持ちを持って行動できるようにする。特に、葛藤やつまずきの体験を重視し、それらを乗り越えることにより、次第に芽生える姿を大切にする 興味や自発性を大切にし、調理への意欲を育てると共に様々な料理を通して素材への関心が養われるようにする	○高齢者をはじめ、地域、外国の人々などと親しみをもち、人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにする。また、生活を通して親の愛情に気づき、親を大切にしようとする気持ちが育つようにする ○子どもが、生活の中で様々な食文化とかかわり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その文化に関心を持ち、自分なりに受け止めることができるようになる過程を大切にする ○子ども自身が季節の恵み、旬を実感することを通して、文化の伝え手となれるよう配慮する ○子どもの人権に十分配慮するとともに、その文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮する。また、必要に応じて一人一人に応じた食事内容を工夫する ○子どもが自然とのかかわりを深めることができるよう工夫する ○身近な動植物に対する感動を伝えあい、共感し合うことなどを通して自ら関わろうとする意欲を育てるとともに、様々なかかわり方を通して、それらに対する親しみ、いのちを育む自然の摂理の偉大さに畏敬の念を持ち、いのちを大切に作る気持ちが養われるようにする ○飼育・栽培が日常生活の中で子ども自身が生活の一部として捉え、体験できるように環境を整える。また、大人の仕事の意味が分かり、手伝いなどを通して、子どもが積極的に取り組めるように配慮する ○身近な動植物、また飼育、栽培物の中から保健・安全面に留意しつつ、食材につながるものを選び、積極的に食する体験を通して、自然と食事、いのちと食事のつながりに気づくように配慮する ○小動物の飼育に当たってはアレルギー症状などを悪化させないように十分に配慮する ○子どもが食事づくりに取り組むことができるように工夫する ○一人一人の子どもの興味や自発性を大切にし、調理しようとする意欲を育てると共に、様々な料理を通して素材に目を向け、素材への関心が養われるようにする ○安全・衛生面に配慮し、扱いやすい食材、調理器具などを日常的に用意し、興味・関心に応じて自分で調理できるよう配慮する 職員が連携し、栄養士や調理師が食事をつくる場面を見たり、手伝う機会を大切にする	○文化に見合った習慣やマナーの形成に当たっては、子どもの自立心を育て、子どもが積極的にその文化にかかわろうとする中で身につけるように配慮する ○食品加工の体験から、変化に気づいたり、関心を持つ 様々な人のおかげで食事ができることに感謝の気持ちをもてるよう関わる 地域の人や、日本文化・異国文化に 触れ、楽しみながら交流できるようにする。昔ながらの知恵にふれる
主な活動	・食育のお話を楽しむ ・苗植え ・野菜を育てる	・野菜収穫 ・季節のクッキング ・もちつき	・クッキーづくり ・ピザづくり

保育目標		○心も身体も健やかな子ども ○自分らしさを発揮する子ども ○相手を思いやる子ども ○認め合い、協力し合う子ども ○豊かな感性と好奇心、探求心を持つ子ども		食育目標	3歳未満児○お腹がすくりズムのもてる子ども ○食べたいもの、好きなものが増える子ども ○一緒に食べたい人がいる子ども 3歳以上児○お腹がすくりズムのもてる子ども ○食べたいもの、好きなものが増える子ども ○一緒に食べたい人がいる子ども ○食事づくり、準備にかかわる子ども ○食べものを話題にする子ども	
月	生活の場	体験	ねらい	内容	配慮事項	
4月	保育し園い		○自分の体に必要な食品の種類や働きに気づき意欲的に食べる ○基礎的な食習慣を園生活の中で身につける ○交通安全指導を行事食に取り入れ、交通ルールを守って登降園することに気づく ○新しい環境で友達や保育教諭等と一緒に楽しく食べる	○自分の健康に関心を持ち、体に必要な食品を進んで食べる ○あいさつ、手洗い、咀嚼等の方法を身につける ○健康は安全な生活とも関係があることに気づく ○進級の喜びを感じ新しい環境で楽しく食べる	○食べものは過剰に食べたり、欠乏することにより、心身の健康を左右することをきづかせるよう、体と食べものに保育教諭等が関心を持って給食に臨む ○食前食後のあいさつをし食事の前に手洗いをする、食具を上手に使い、よく噛んで食べるなどの基礎的な食習慣が身に付けられるよう配慮する ○車から自分の身を安全に守る事を気づかせる行事食を創意工夫する ○年長組として食事にふさわしいゆとりのある雰囲気環境を配慮する	
5月	遊仲ぽうく	夏野菜を植える(トウモロコシ・枝豆・オクラ・なすび・トマト・ゴーヤ)	○正しい食事マナーを身につけ楽しく食事をする ○夏野菜を栽培し、収穫の喜びを知るために苗を大切に育てる	○行儀の悪い態度をしないで食事マナーを守ると友だちと仲良くおいしく食事ができることを知る ○夏野菜を栽培し、収穫を期待しながら身近な食材に親しむ	○こどもの日を話題にして友だちと会話をしながら、食事にふさわしい落ち着いた雰囲気の中で正しいマナーで楽しく食事をするよう配慮する ○夏野菜の苗を植え、収穫できるよう苗の育ちを見守り食材に親しむ	
6月	優しい心	クッキーづくり	○歯磨きと、歯を丈夫にする食品を選ぶことを知り、進んで行う。 ○クッキー作りを通して自分で作ることの楽しさを味わう	○歯磨きの習慣を身につけ、歯を丈夫にする食品を自分で進んで選べるようにする	○虫歯になると食品を噛むことができなくなることに気づき、歯を磨き、歯を丈夫にする食品を選ぶよう配慮する。歯科衛生指導の教材は発達を考慮した解りやすいものを創意工夫する	
7月	夏の遊び	バーベキュー おにぎりづくり 夏野菜収穫	○七夕の由来を笹飾り、劇等や行事食を通して星座に興味と関心を持つ ○野菜の苗を植え、育てながら収穫を期待する ○お米の作り方を知り自分で握ったおにぎりを味わう ○夏野菜を味わう	○七夕由来の劇等や行事食により「星」に関心を示し家族と一緒に夜空に出る星座に期待する	○七夕の由来を知り織姫、彦星に興味と関心を示すような遊びや教材を配慮しし家族と共に夜空を眺めて一年に一度の出会いに期待を持たせる ○七夕にふさわしい子どもが喜ぶ創意工夫した行事食を心掛ける	
8月	暑さにな	夏野菜収穫(夏野菜サンドイッチづくり) すいかわり	○基本的な生活習慣を崩さずに暑さに負けず元気に過ごす ○夏の暑さや汗に気づき体と水分の関係を知る ○感染症を予防するためにきちんと手洗いをし、安全な食品を食べる ○スイカ割りを通して夏らしい行事を楽しむ ○夏野菜を収穫し素材の味を楽しんだり、ジュースにして味わったりする	○早寝、早起きをして朝ごはんを食べると暑さに負けずに元気に過ごせることを知る ○水分は口から入るものと体の外に出るものがあり暑くなると汗が出て、体温を調節しているのが水が不足しないように心掛ける ○手洗いにより食中毒を防ぎ安全に食事をする ○スイカとゴーヤの違いを絵本を通して知る	○暑い夏でも早寝、早起きをし朝ごはんをきちんと食べると暑さに負けず元気に乗り切れることを伝え、家庭と保育所が連携して健康に配慮する ○夏はほかの季節と異なり、自分の体から汗が出ることに気づき、体と水分の関係に関心を持ち、自分で進んで水をのむように配慮する ○夏の感染症防止のためきちんとした手洗いと腐敗した食品を食べないよう家庭に協力を求める	
9月	元気な子	お月見だんご作り	○災害に出会ったときは、いつものような食事が食べられないことを知る ○非常用食品を使った料理を食体験する ○十五夜は月にお供えをし、美しい月を見ながら豊作を祈る風習を知り月見団子を食べる	○災害時は命を守るために与えられた食べものを嫌がらずに食べる ○非常食の慣れない食べものや嫌いな食べものにも挑戦する ○十五夜は月見団子や里芋、栗をお供えし観月をして豊作を祈り月見団子を食べる風習を知る ○保護者や地域の方々との会食により愛情や信頼を持つ	○防災教育により災害の恐ろしさを知らせ非常時の食事の仕方や調理の難しさ、非常食を用いた食体験を通して命と食べ物の関係を知らせ、命を守るためには好き嫌いを言わないで食べられる ○十五夜にすすきが飾られ月見団子が供えてあり、月の満ち欠けと風習の関係を教える。家族と一緒にお月見を楽しみ月の満ち欠けに気づくことが情操豊かな感性を育むことを保護者に伝えるよう配慮する ○大勢の人々と一緒に食事をするとは、とても楽しくおいしいことを体験させ、正しい食事マナーにより知らない人とも食べられることに気づかせる	
10月	丈夫な子	芋ほり スイートポテトづくり	○さつまいも堀りに行き秋の味覚を知る ○食事と運動の関係を知り運動会に参加する	○よく食べてよく運動をすることが丈夫で強い体をつくることを知り、運動会に意欲的に参加する ○食事の過不足が健康を左右することに気づき、内科検診を受ける ○食べものの種類によって色や形、柔らかさが異なることに気づき、興味を持って検便を受ける	○様々な食品を食べて、よく運動することが食欲を増し肥満を防ぎおいしく食べられることを教え、運動会に意欲的に参加できるように配慮する ○食べものは過剰に食べたり、欠乏することにより、心身の健康を害することに気づくよう配慮し、内科検診を受け子どもと共に健康を喜びあう ○年齢に合う絵本や手作り教材により便の種類を知り、便は健康のバロメーターであることを知らせ、便に興味を持って検便を受けるように配慮する	
11月	実りの秋	ポップコーンづくり	○秋の味覚に興味、関心をもつ ○収穫した食材の変化を知る	○秋の季節は、魚、野菜や果物がおいしいことに気づく ○七五三の由来を知り成長を喜び千歳飴を味わう ○栄養士、調理員の食育指導に興味を持って聞く ○乳しぼり、バター作り、アイスクリーム作りの体験をする	○食材は四季の変化によりいろいろな食べ物収穫されることを知らせ、自然と食事のつながりに気づくように配慮する ○栄養士が作った教材や実物の小麦粉製品、料理を親しみを持って回覧し、加工食品を身近に感じさせる。栄養士等は肉、卵、魚などの食材もどのように変化するか気づかせ今後の食育指導を心待ちするように園児と触れ合う ○食材、生産者、産地に実際に触れる体験によって、自然の恵みへの感謝の気持ちを持ったり、食に対しての興味、関心を広げる	
12月	発表し会い	クリスマスケーキづくり 柿ジャムづくり	○クリスマス料理に出会い自分と異なる食文化に興味と関心を持ち、外国の人々や文化を知る ○調理をした人や、食事の支度をした人に感謝の気持ちを持つ ○収穫した食材の変化を知る	○クリスマス会のパーティで由来や外国の文化や食文化に気づき外国に興味や関心を抱く ○調理人や栄養士と親しみ感謝を表す	○外国の異なった文化や食文化の教材を用いて知らせ、クリスマスツリーを飾り、クリスマスの歌や音楽が流れる雰囲気の中で期待を持たせる ○異年齢、地域交流を行い、年下の友だちの食事を見守り、思いやりの気持ちを育むよう、座る位置や配膳、与え方や食べ方に注意をはらう	
1月	お正月遊び	おせち料理の由来を知り きりたんぼづくり	○日本の年の始めの伝統的な食文化を知る ○おせち料理に使われている料理に興味を持つ ○店には食べ物や品物の種類によっていろいろなお店があり、新鮮で安くておいしいものを買う ○地域には人々のために様々な店で働く人がある	○家族と一緒におせち料理を食べて日本の年の始めの伝統的な食文化を知る ○おせち料理は食事バランスがよいことを知る ○地域にはたべものや品物によりいろいろな店があるので、新鮮で安くておいしいものを買う	○家庭で日本の伝統的なおせち料理を食体験させてもらえるよう配慮する ○おせち料理は五穀豊稔を願い、家族の安全と健康、子孫繁栄の祈りを込めて作られ、縁起のよい食材にちなんで海の幸、山の幸が盛り込まれているので、栄養バランスがとられていることを気づかせる ○地域には様々な店があるが、季節によって商品や食品が異なり、食品は旬のものが安くて新鮮で栄養価が高いので店の人に聞いていて買うよう伝える	
2月	冬の遊び	豆乳クレープづくり	○節分の由来を知り、豆まきに喜んで参加する ○豆の種類を知り、大豆を味わう ○大豆を使ったいろいろな加工食品の種類を知る ○冬に出回る旬の野菜を知り、調理の方法や料理に興味と関心を持つ	○節分は季節の変わり目であり、福豆と鬼との関係に興味を持ち友だちと一緒に豆まきをする ○大豆を味わい、興味を持ち、豆の種類や、加工食品に関心をしめす ○旬の野菜を料理に取り入れると栄養があって、おいしいことを知る	○節分は季節のはじまりの前日(立春)で季節を分けることを意味し、季節の変わり目に福豆(豆まき用に炒って供えた大豆)をぶつけて、邪鬼(鬼)を追いついて一年の無病息災を願うことや福豆は一年の厄除けを願い数え年として実年齢より一つ多く食べる風習があることを教える ○鬼を怖がらず福豆をまき、味わいながら豆の種類や、豆腐、油揚げなど身近な食品が大豆からつくられていることに気づくように配慮する	
3月	も進う級すぐ	春野菜ビザづくり	○雛人形に興味を持ち、ひな祭りの由来を知り雛あられなどの行事食を友だちと一緒に楽しく食べる ○給食を食べて元気よく通園できたことを喜び、小学校での給食に期待を持つ	○ひな祭りの由来を知り、色合いの美しい雛人形や雛あられに興味を持ち、桜餅の桜の葉の香に気づき、友だちに伝えながら楽しく食べる ○お別れ会でお互いの成長に気づき、給食のおかげで元気よく通園できたことを皆で一緒に喜び、小学校での新しい友達との給食を心待ちする	○ひな祭りに興味と関心を示すよう数日前に雛人形を飾り、ひな祭りの由来や人形の配置や飾り物などを説明する。桃の花が咲く季節のため桃の節句おいしい、この行事に食べられる食品を知らせ、行事食に取り入れる ○保育園で友達と一緒にいろいろな食体験をして、楽しくおいしい給食であったことを保護者と会話しながらお別れを惜しみ思い出になるような雰囲気を作り行事食を味わえるよう配慮する	

令和 8 年度 認定こども園 はなえみ保育園 子育て支援事業計画(未就園児保護者対象)

支援事業		内容	担当	実施日程 実施時間	対象	受付人数	料金
一時預かり事業		家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児を一時的に預かる	一時預かり 担当保育士	毎週月曜～金曜日 9:00～17:00	1歳児～就学前児童	1日5名程度	1回2,500円
園見学		入園希望者及び園に関心がある保護者を案内し、園児の活動の様子を見てもらうとともに園の概要等を説明し、質問に答える	園長	随時受付	出産前～就学前児童の保護者	1回1組	無料
子育て相談		子どもの発達・発育など、子育て全般に関する相談を受け付ける。	主幹保育教諭 看護師 栄養士	毎週月～金曜日 9:00～13:00	就学前児童の保護者		無料
子育て情報の掲示及び配布		地域の子育てに関するイベント情報などを掲示板に掲示したり、配布したりする。	主幹保育教諭	随時	出産前～就学前児童保護者		無料
はなえみひろば	保育室開放	親子が安心して遊べる場所、子育てについて語り合える場所として保育室及び園庭(夏期はプール)を開放し、専任の保育教諭を配置する。	はなえみひろば 担当保育教諭	毎週月曜日～木曜日 9:00～11:00	0歳児～就園前児童 保護者	1日5組	無料
	園庭開放						
	プール開放 (7月～8月)						

令和 8 年度 認定こども園 はなえみ保育園 子育て支援事業計画(在園児保護者対象)

支援事業		内容	担当	実施日程 実施時間	対象	料金
子育て相談		子どもの発達・発育など、子育て全般に関する相談を受け付ける。	保育教諭 看護師 栄養士	毎週月～金曜日 9:00～13:00	在園児保護者	無料
連絡帳による情報共有		食事・睡眠・排泄の状況など、子どもたちの生活の様子を相互で情報共有するため、連絡帳のやり取りを行う。	保育教諭	3 歳未満児 毎日実施 3 歳以上児 必要に応じて実施		
おたよりの配布		子どもたちの園生活の様子や食育推進、健康支援などについてのおたよりを保護者に配布する。	園長 主幹保育教諭 看護師 栄養士	園だより毎月 25 日配布 給食だより隔月 25 日配布 保健だより隔月 25 日配布	在園児保護者	無料
子育て情報の掲示及び配布		地域の子育てに関するイベント情報などを掲示板に掲示したり、配布したりする。	主幹保育教諭	随時	在園児保護者	無料
行事	個別面談	子どもの園生活の様子や伝えとともに、子どもの家庭での様子を伺い、子どもの育ちについて共通認識を図る。	保育教諭 必要に応じて 園長 看護師	6 月 12 月 ※12 月は希望者のみ	在園児保護者	無料
	保育参加 給食試食会	子育てを实践する力の向上につなげられるよう、保護者が園児の遊びや活動に参加してもらう。	担当保育教諭 栄養士	11 月	3 歳以上児クラス保護者 ※給食試食会は希望者のみ	保育参加:無料 給食試食会:1 人 250 円
	ビデオ鑑賞	食事・睡眠や遊びの様子など、子どもたちの生活の様子を映像に残したものを鑑賞してもらい、子どもの育ちについて共通認識を図る。	保育教諭	12 月	3 歳未満児クラス保護者	無料

令和 8 年度 認定こども園 はなえみ保育園 子育て支援事業計画(在園児保護者対象)

支援事業		内容	担当	実施日程 実施時間	対象	料金
延長保育	標準時間内 延長保育	保護者の仕事と子育ての両立等を支援し、保護者の状況に配慮するとともに、園児の福祉を尊重されるように努めながら、延長保育事業を実施する。	担当保育教諭	毎週月曜～金曜日 17:00～18:00	2・3号認定児童保護者 (短時間時間認定)	利用料金(月額) 階層区分ごとの保育標準時間と保育短時間の利用者負担額の差額 ※料金は芦屋市に納付
	標準時間外 延長保育			毎週月曜～金曜日 18:00～19:00	2・3号認定児童保護者	基本料金・・・月額 2,000 円 (1日も利用がなくても必要) 利用料金・・・1回 200 円 ※被生活保護世帯及び前年度分所得税非課税かつ前年度分市民税非課税世帯は無料 ※料金は芦屋市に納付

認定こども園 はなえみ保育園 令和8年度 研修計画

保育教諭は、子どもの教育及び保育や家庭での子育ての支援に関する専門職として、園での教育及び保育の中核的な役割を担う保育教諭に求められる主要な知識及び技術としては、以下が求められる。

- (1) これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術
- (2) 子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術
- (3) 園内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、教育及び保育の環境を構成していく知識及び技術
- (4) 子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術
- (5) 子ども同士の関わりや子どもと保護者の関わりなどを見守り、その気持ちに寄り添いながら適宜必要な援助をしていく関係構築の知識及び技術
- (6) 保護者等への相談、助言に関する知識及び技術

保育教諭等は、これらの専門的な知識及び技術を、状況に応じた判断の下、適切かつ柔軟に用いながら、子どもの教育及び保育と保護者への支援を行うことが求められる。その際、これらの知識や技術及び判断は、子どもの最善の利益を尊重することをはじめとした児童福祉の理念に基づく倫理観に裏付けられたものでなくてはならない。以上の事から令和7年度は下記の研修を実施（参加）する。

①具体的研修

- ・兵庫県もしくは全国認定こども園園長等研修（対象：園長等）
- ・兵庫県もしくは認定こども園主幹保育教諭等研修（対象：主幹・副主幹保育教諭等）
- ・兵庫県保育教諭等キャリアアップ研修
 - マネジメント研修（対象：副主幹保育教諭等）
 - 専門分野別研修（対象：副主幹保育教諭・専門リーダー・職務分野リーダー等）
 - ◇ 乳児保育
 - ◇ 幼児教育
 - ◇ 障害児保育
 - ◇ 食育・アレルギー対応
 - ◇ 保健衛生・安全対策
 - ◇ 保護者支援・子育て支援
 - 保育実践研修（新任保育教諭等）
- ・虐待・不適切保育防止研修（対象：全職員）
- ・その他（随時）

一年間の保育に対する自己評価		園児（発達の理解）				保育教諭等（指導の改善）													
1年のねらい	・生命の保持 ・情緒の安定	■保健的で安全な環境をつくり、体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。 ■一人一人の子どもの生理的欲求や甘えなどの依存欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ■様々な食品や調理形態に慣れ、楽しい雰囲気のもとで食べることができるようにする。 ■一人一人の子どもの状態に応じて、睡眠など適切な休息をとるようにし、快適に過ごせるようにする。		・身体的発達 ・社会的発達 ・精神的発達	◎安全で活動しやすい環境のもとで、姿勢を変えたり、移動したり様々な身体活動を十分に行う。 ◎優しく語りかけられたり、発声や喃語に応答されたりして、発語の意欲が育つ。 ◎絵本や玩具、身近な生活用具が用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心が芽生える。 ◎聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手や指の機能を働かそうとする。		・健康 ・人間関係 ・環境 ・言葉 ・表現	◎安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ。 ◎安心できる保育教諭等との関係の下で、食事、排泄などの活動を通して、自分であろうとする気持ちが芽生える。 ◎安心できる保育教諭等の見守りの中で、身の回りの大人や子どもに関心を持ち関わろうとする。 ◎身の回りの様々なものを自由にいじって遊び、外界に対する好奇心や関心を持つ。 ◎保育教諭等の話しかけや、発語が促されたりすることにより、言葉を使うことを楽しむ。 ◎身近な音楽に親しみ、それに合わせた体の動きを楽しむ。											
		月齢・年齢	57日～3か月未満		3か月～6か月未満		6か月～9か月未満		9か月～12か月未満		1歳～1歳3か月未満		1歳3か月～2歳未満						
園児の姿		●目の前のものを追視したり、音のする方を見たりする。 ●睡眠と目覚めを繰り返すが、次第に目覚める時間が長くなる。 ●快と不快を感じ分ける力が芽生え、空腹になったり、おむつが濡れると泣くが、対応してもらおうと気持ちよさそうに泣き止む。 ●手足を生き生きと動かして遊び、顔の向きを自分で変えるようになる。		●昼夜の区別がつくようになり、昼に起きている時間が長くなる。 ●首がすわり、手助けをすると寝返りができるようになり、やがて自分で寝返りをし始める。 ●腹ばいにすると背筋を伸ばして頭を上げ、少しの間、手で体を支えるようになる。 ●機嫌がよい時は声を出して遊んだり、あやされる声に応じて声を出す。		●離乳食を食べ始める（初期食）。 ●いろいろな味や舌触りに慣れ、もぐもぐして飲み込む（中期食）。 ●人見知りが始まり、後追いが激しくなる。 ●お座りが安定し、座った状態で玩具を持って遊ぶ。 ●自由に寝返りをし、腹這いで前後に進むようになる。 ●声出しが盛んになり、声を出して大人を呼ぶようになる。		●食べることに意欲的になり、こぼしながらも手づかみや指つまみで自分で食べようとする。舌や歯茎を使ってすりつぶして食べる（後期食）。 ●ずり這い・四つ這い等で移動する。 ●つかまり立ちや伝い歩きなど歩行への意欲と活動が活発になる。 ●指差しや喃語で意思を伝えようとする意欲が表れる。		●歯茎や乳歯を使って噛んで食べる（幼児食）。 ●伝い歩きから一人歩きができるようになり、行動範囲が広がり、興味の幅も広がる。 ●つまむ・叩く・引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。 ●「ママ」「ブーブー」など意味のある言葉を言うようになる。		●一人歩きが安定し、小走りで歩いたり、段差のあるところを歩いたり、跳び下りるなど、上下の運動に挑戦する。 ●手の細かいコントロールが進み、積み木を積んだり、なぐり描きが点から曲線になる。 ●感情表現が豊かになり、自分の欲求を通そうとする。 ●他の園児へ関心を示し、持っているものを欲しがったり触ろうとする。							
		●知識・技能の基礎 ●思考力・判断力・表現力等の基礎	期のねらい	1期(4月～5月)		2期(6月～8月)		3期(9月～12月)				4期(1月～3月)							
◎保護者との連携により、生活リズムを大切にされながら、無理なく新しい環境に慣れ、安心して過ごす。 ◎保育教諭等にあやされたり、守られながら安心感を得ることで、保育教諭との信頼関係を築く。 ◎好きなおもちゃを見つけてかかわろうとする。				◎保健衛生面に配慮された環境の中、沐浴・水遊びを行い、快適に過ごす。 ◎◎◎信頼する保育教諭等に欲求を受け止められ、満たしてもらいながら、ゆったりとした気持ちで過ごす。 ◎気に入ったおもちゃを見つけ、くり返し遊ぶ。 ◎様々な感触のものにふれて楽しむ。		◎◎◎気候に応じた戸外遊びや散歩を多く取り入れ、自然に触れて遊び、体を動かす楽しさを感じる。 ◎◎◎保育教諭等や他の園児との関わりを喜び、安心できる環境の中で自分の欲求を喃語（ルビなんご）などで表そうとする。 ◎◎◎身近な自然を感じる。 ◎◎◎興味のあるものを見つけたり、身近なものにふれたりして、好奇心を満たしながら遊ぶ。				◎◎1日の生活の流れがわかり、見通しをもって主体的に過ごす。 ◎◎保育教諭等や他の園児と関わる喜びを感じながら、気持ちの表現の仕方を知る。 ◎◎様々なものとかかわり、見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。 ◎◎◎絵本と経験を結び付け、イメージを広げて楽しむ。									
	内容	◎◎◎落ち着いた雰囲気の中で、ミルクを飲んだり、眠ったりする。 ◎◎◎おむつ交換をしてもらい、さっぱりした気持ちよさを知る。 ◎◎◎◎安心できる環境の中で、大人に抱かれ、心地よさを感じる。 ◎◎◎◎◎語り掛ける大人を注視する。		◎◎泣き声や語らいに対応してもらい、愛着関係を深めていく。 ◎◎を動かしたり、動かしてもらうことを喜ぶ。 ◎◎音の出る玩具や柔らかな素材の物に興味を持ち、手を伸ばそうとする。		◎◎発達状態に合った内容の離乳食を食べる。 ◎◎睡眠リズムの変化とともに、活動時間や内容も変化する ◎◎安心できる環境の中で体を動かして遊ぶ。 ◎◎◎こまめに汗をふいてもらったり着替えをしてもらったりしながら、清潔を保ち、さっぱりした心地よさを感じる。 ◎◎身近な保育教諭等に親しみを強くもち、同時に他の大人にも関心をもつ。		◎◎発達状態に応じてスプーンや手づかみで食べる。 ◎◎◎特定の大人と愛着関係を築いたうえで好奇心を満たしていく。 ◎◎◎興味をもったものに視線を向けたり、指差をし言葉と一致させようとする。 ◎◎歌や音楽に興味を持ち、リズムに合わせて体を動かして遊ぶ。				◎◎食事を自分の意志で食べようとし、着脱場面では保育教諭等に手伝ってもらいながら意欲的に着替えようとする。 ◎◎特定の保育教諭等と喃語や言葉のやり取りを楽しむ。 ◎◎◎ハイハイやトンネルくぐり、伝い歩き、段差などを楽しみながら、探索活動を行う。 ◎◎◎◎保育教諭等と1対1の係わりで、絵本やふれ合い遊びを楽しむ。 ◎◎指先を使った細かい動きができる玩具で遊ぶ。				◎◎衣服の着脱に意識が向き、自分であろうとする意欲がでる。 ◎◎自ら食事に向かい、楽しんで食べる。 ◎◎ふれ合い遊びを通して、保育教諭等や友だちと気持ちをやりとりしながら楽しい時間を共有する。 ◎◎◎◎◎絵本を読んでもらい、「わんわん、いたね」「赤いリンゴ、美味しいね」などと保育教諭等と確認しながら、そのイメージを広げる。			
		★援助・配慮環境構成	◆一人一人の生活リズムに応じて、ゆったりとした温かい雰囲気の中で過ごせるようにする。 ◆保育室の天井からもビールなどを吊るし、寝た姿勢でも風などで揺れる様子を見られるようにする。 ◆室温や湿度に配慮して必要な寝具を用意し、落ち着いた環境の中で眠れるようにする。 ★授乳やおむつ交換は優しく声をかけ触れ合うことで、心地よさを感じられるようにする。 ★睡眠中も顔色や呼吸をチェックし、変化を見逃さないようにする。		◆寝返りやうつぶせの姿勢の時には顔がふさがれないよう、柔らか過ぎない床面であることを確認する。 ◆好きなおもちゃにいつでも手を伸ばせるように、安全性の高いものを子どもの視野に入る場所に置いておく。 ★常に安全な環境が整っているか確認・改善を行う。 ★ゆったりした雰囲気ですわらべうたなどを歌い、リズムに合わせて優しく揺らしたりしながら心地よい時間を過ごせるようにする。 ★手足の動きや体の動き等、必要な補助を行いながら運動機能の発達を促す。		◆活動範囲の広がりに伴い、安全面や衛生面に留意し、活動しやすい環境を整える。 ◆活動意欲を引き出すような玩具を準備し、配置を工夫したり、楽しく遊べるようにする。 ★甘えや不安・欲求をその都度受け止め、安定した気持ちで過ごせるようにする。 ★安心し、落ち着いた雰囲気の中で授乳を行う。		◆手の届くところに様々な素材（木製、プラスチック、タオル地、ゴム製など）のおもちゃを置いて、好奇心を満たしながら遊ぶことをいつでも楽しめるようにする。 ★愛着関係を育むために、受け入れや援助にできるだけ同じ保育者がかかわるようにする。 ★手遊びや絵本などゆったり遊べる環境の中で保育教諭等と楽しさを共有し、喜びを感じられるようにする。 ★心地よさや楽しさが感じられるように、保育教諭等は声の出し方や動き方を考慮する。				◆伝い歩きや一人歩き等歩くことが楽しくなり、行動範囲が広がるので、保育室だけでなく他の場所でも伸び伸びと遊べるようにする。 ◆保育教諭等がスキンシップを取りながら揺らしたり、姿勢を変化させる。 ★食事用のエプロンは自分で取り外しができるものにする。 ★運動遊びは子どもの機嫌や体調のよい時に行う。 ★援助の際には「ご飯にしようね」「着替えるから足を入れてね」などと行為を言葉にして伝え、見通しがもてるようにする。 ★子どもの指差しには一つ一つ言葉をかけて受け止め、関心が深められるようにする。				◆自分でやりたい気持ち十分に満たされるような環境を整えることで、満足感が得られるようにする。 ◆食事、睡眠、遊びのスペースを分け、子どもが見通しをもって、主体的に過ごせるようにする。 ◆一人遊びでも他の園児が視界に入るよう、同じ空間で行う。 ★他の園児との関わりに、より関心が持てるよう必要な仲立ちをしていく。 ★子どもが、うれしい、悲しいなどの気持ちを表現した時には、丁寧に対応し、言葉にして代弁していく。 ★絵本などに描かれている絵は、正しい名称で伝え、「赤いリンゴ」などと表現をくふうして伝えるようにする。		
子育ての支援	●子どもの様子を丁寧に伝えながら、保護者との信頼関係を築き、共通の思いで子育てを楽しめるようにする。		●健康状態とともに感染症の流行など周囲の状況を伝え、感染症の早期発見や拡大防止について理解・対応ができるようにする。		●離乳食の進み具合を聞き取り、園での食事状態を伝えながら、同じ援助ができるようにする。		●園の安全対策を伝え、家庭での環境の見直しの材料となるようにする。		●自分でできた満足感が意欲につながることを伝え、身の回りのことなど自ら取り組む意欲をさりげなく援助するなど関わり方を伝える。										
健康及び安全 （食育・災害対応等）	1期(4月～5月)		2期(6月～8月)		3期(9月～12月)				4期(1月～3月)										
	●午睡中は5分おきにSIDS（乳幼児突然死症候群）チェックを行い、必ず記録する。 ●おもちゃは、口に入る大きさのものがなく、破損したものがなく常にチェックし、清潔を保つ。		●あせもやおむつかぶれ、とびひ、虫刺されなどの皮膚トラブルが起きやすいので、着替えなどの機会によく観察し、快適に過ごせるようにする。 ●食中毒の知識を確認し、哺乳瓶などの扱いを徹底する。		●気候がよくなるので、戸外遊びを積極的に行う。 ●朝夕の気温差が激しくなり、体調を崩しやすい季節なので、一人一人の体調を細かく把握していく。 ●自分で食べたいという気持ちを尊重する。				●風邪やインフルエンザが流行する時期なので、おもちゃの消毒などを丁寧にを行う。 ●活動が活発になるので、室内外で転んでも危険がないように環境を整える。										
職員の資質向上	園内研修		園内研修/個別配慮児訪問指導/救急救命講習・緊急通報訓練/虐待防止・対応研修		園内研修/個別配慮児訪問指導				園内研修/個別配慮児訪問指導										
園行事及び園事業	入園式/身体測定/内科健診/避難訓練		身体測定/避難訓練/歯科健診/個別懇談		身体測定/避難訓練/内科健診/歯科健診/保育参観（ビデオ鑑賞）				身体測定/避難訓練										

1年のねらい		・生命の保持 ・情緒の安定	■保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ■一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ■楽しんで食事、間食をとることができるようにする。 ■午睡など適切に休息の機会をつくり、心身の疲れを癒して、集団生活による緊張を緩和する。	一年間の保育に対する自己評価	園児（発達の理解）		保育教諭等（指導の改善）					
		・健康 ・人間関係 ・環境 ・言葉 ・表現	他保育教諭等と一緒に全身や手や指を使う遊びを楽しむ。 他安心できる保育教諭等との関係の下で、食事、排泄などの身の回りの活動を自分でしようとする。 他身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう。 他身の回りのものや親しみの持てる小動物や動物を見たり、触れたり、保育教諭等から話を聞いたりして興味や関心を広げる。 他保育教諭等を仲立ちとして、生活や遊びの中で言葉のやり取りを楽しむ。 他保育教諭等と一緒に人や動物の模倣をしたり、経験したことを思い浮かべたりして、ごっこ遊びを楽しむ。 他興味のあることや経験したことなどを生活や遊びの中で、保育教諭等とともに好きなように表現する。									
園児の姿					1 期(4 月～5 月)		2 期(6 月～8 月)		3 期(9 月～12 月)		4 期(1 月～3 月)	
					●不安そうな子どもや登園時には保護者と離れがたい子どももいるが、落ち着いて過ごすことも多い。 ●保育教諭等と一緒に、好きな遊びをくり返し楽しむ姿が見られる。 ●園庭では探索活動を楽しむ姿が見られる。 ●自分の気持ちを簡単な言葉や動作で伝えようとする。		●戸外に出ることを喜び、滑り台、砂場、水遊びを楽しむ。 ●友だちとのかかわりが多くなり、うまく気持ちを表せず、ものの取り合い、噛みつき、ひっかきなどの手が出てしまうこともある。 ●食事中に眠くなってしまいうちもいるが、好きなものを喜んで食べている。		体を動かす遊びに興味をもち、固定遊具や、保育者との追いかっこやボール遊びをする。 気の合う同士で「一緒に過ごす」「思いを共有する」「模倣をする」など子ども同士のかかわりや見立て遊びを楽しむ姿が見られる。 簡単な身の回りのことを自分でしようとする姿が見られる。		砂遊びなど、好きな遊びにじっくり取り組む。 保育教諭等や友だちに簡単な言葉や仕草で思いを伝えようとし、気の合う友だちと一緒に遊ぶことも多い。 園庭へ出る時の身支度やトイレでの着脱、食後の口拭き、手洗いなど身の回りのことを「自分で」と挑戦する子どもが多い。	
●学びに向かう力・人間性等	●知識・技能の基礎 ●思考力・判断力・表現力等の基礎	期のねらい	他新しい環境や生活リズムに慣れ、特定の保育教諭等との関係ができ、安心して過ごす。 他保育教諭等に見守られながら、好きな遊びを十分に楽しむ。 他保育教諭等と一緒に遊ぶ中で、おもしろさを味わう。 他保育教諭等や友だちとのふれあひを通して、かかわりを楽しむ。		他保育教諭等に気持ちを受け入れられながら、信頼関係を築いていく。 他水遊びやプール遊びの魅力を味わい、夏を心地よく過ごす。 他保育教諭等や友だちと好きな遊びや探索活動を十分に楽しむ。 他砂や水の感触を自分なりに試すことを楽しむ。 他身近な人に関心を持ち、遊びをまね、見立て遊びを楽しむ。		他保育教諭等や友だちと一緒に、秋の自然にふれ、身体を動かして遊ぶ。 他保育教諭等と一緒に見立てやつもり遊びなどを楽しむ。 他保育教諭等に自分の思いを身振りや簡単な言葉で表現しようとする。 他「自分で」という気持ちをもち、身の回りのことをやろうとする。		他冬の自然にふれて、体を動かす楽しさを味わう。 他試したりイメージを膨らませたりして好きな遊びをくり返し楽しむ。 他保育教諭や友だちと簡単な言葉のやりとりを楽しむ。 他身の回りのことを自分なりに試しながらやってみようとする。			
			内容	他保育教諭等に気持ちを受け入れてもらい、信頼関係を築いていく。 他安心して過ごす中で思いや気持ちを伝えようとする。 他保育教諭等に親しみをもち、一緒に遊ぶことを楽しむ。 他好きな遊びを見つけ、一人でじっくり遊び、探索を楽しむ。 他アリやダンゴムシなど身近な生き物に気づく。 他絵本に親しんだり、手遊びや季節の歌を歌って楽しむ。		他スキンシップが十分に行われ、安心して過ごす。 他体を動かして遊ぶことを楽しむ。 他水の冷たさや心地よさ、砂、土の感触を味わう。 他様々な道具を使い、発見や試す気持ちをもつ。 他思いや要求を仕草や自分なりの言葉で伝えようとする。 他保育教諭等や友だちと、絵本のくり返しの言葉言ってみたり、好きな歌を歌ってみたりして楽しむ。		他秋の自然に興味をもち、落ち葉や木の実にふれ拾って楽しむ。 他多様な動きを経験することを通して、体を動かすことを楽しむ。 他友だちと同じものを持ったり、同じ言葉を使ったりして、ごっこ遊びを楽しむ。 他自分の思いや要求を簡単な言葉や身振りで伝えようとする。 他衣服の着脱に興味をもち、出来ることをやってみようとする。		他友だちと一緒に遊んだり、過ごしたりすることを楽しむ。 他氷や霜柱を見つけ、冬の自然にふれて遊ぶことを楽しむ。 他様々な素材や道具を遊びに取り入れ、使い方を試しながら、気の合う友だちと一緒に見立て遊びを楽しむ。 他絵本を読んだり、音楽に合わせて楽器を鳴らして楽しむ。 他身の回りのことをやろうとし、できた喜びや満足感を味わう。		
				★援助・配慮	◆一人一人の生活リズムを大切にして食事、睡眠の時間を調整して、無理なく過ごせるよう見通しをもって保育を進める。 ◆午睡時はカーテンを閉めたり、音楽を流したりして快適に睡眠がとれるようにする。 ◆子どもの気持ちに寄り添いながら、保育教諭等も一緒に行うことでおもしろさの遊び方、おもしろさを知らせる。 ◆使いたい道具を選べるよう、砂場のそばに砂場道具を用意する。 ★保育教諭等と共に遊んだり、生活したりすることを通して、安心して過ごし、様々なことに興味をもてるようにする。 ★草花を見たり、匂いをかいだり、生き物を見ることを通して、五感を働かせるようにする。 ★保育教諭等も一緒に遊び、砂や水の感触やおもしろさを共有する。 ★絵本や手遊び、季節の歌を歌い、言葉に親しめるようにする。		◆巧技台やトンネルなどを設置した、体を十分に動かせるスペースと、指先を使うおもちゃを置いた、落ち着いて遊べるスペースを設ける。 ★試行錯誤しながら水遊びができるよう、砂、土、絵の具などの素材や、ジョウロやバケツなどの道具を多めに用意する。 ★くり返し遊びを楽しむ中で、子どもの気づき、発見や驚きに寄り添い、言葉をかけながら共感する。 ★友だちのもっているものを使いたい時には、互いの思いを代弁し、身振りや言葉で伝えていけるようにする。 ★季節の歌や手遊びなどを通して、保育教諭等や友だちとかかわる楽しさを感じられるようにする。		◆色づいた葉や木の実にふれ、集めることを楽しめるようにする。 ◆歩く、走る、跳ぶ、ぶらさがる、くぐるなど、いろいろな動きを楽しめるように、トランポリンや巧技台、はしごなどを設置する。 ◆見立てに使える用具や素材、スカートやハンカチなどを用意し、おうちごっこや病院ごっこなどを楽しめるようにする。 ★「友だちと同じことをしたい」という思いを受け止めながら言葉で仲介し、友だちと一緒に楽しめるようにする。 ★子供が伝えようすることにじっくり耳を傾け、安心して自分の思いを伝えられるようにする。 ★靴や衣服の着脱の仕方や食具の持ち方などを伝え、必要に応じて援助しながら、自分でできた喜びを感じられるようにする。		◆友だちと一緒に遊べるように、同じものを複数用意し、同じ遊び方をする楽しさを感じられるようにする。 ◆保育室内にトランポリンや巧技台、鉄棒を設置し、体を動かすことを十分楽しめるようにする。 ◆音楽に合わせて楽器を楽しめるように、楽器を十分揃えておく。 ★ジャングルジムなどに登ることに怖さがある子どもには、保育者がしっかり支え、安心して挑戦できるようにする。 ★氷や霜柱、雪にふれ、冬の冷たさやおもしろさを一緒に楽しむ。 ★思いがぶつかり合う時は、互いの気持ちを伝えて仲立ちをする。 ★「自分で」という気持ちに寄り添い、一人一人のやり方やペースを尊重しながら、できたという満足感が味わえるようにする。	
子育ての支援		■子どもの様子や体調を伝え合い、保護者の思いを受け止める。 ■降園時にその日の具体的な子どもの様子を伝え、安心できるようにする。 ■生活リズムが安定するように、家庭での食事や睡眠の様子を連絡ノートに書いてもらい、情報を共有する。		■個人面談は園の様子を伝えたり、家での様子を聞いたりし、悩み事の相談にのる中で、信頼関係を築けるようにする。 水遊びやプール遊びの様子を丁寧に伝える・ ■暑さで疲れや生活リズムの乱れが出やすいので、健康状態や食欲の有無、睡眠などの情報を共有する。		■自分の思いを主張する姿を受け止め、共感することを大事にしながらかわっていることを伝え、理解してもらえるようにする。 ■行事に参加してもらい、親子で楽しいひとときを過ごしたり、保護者同士で交流したりする場となるようにする。 ■気温差があるので、調節や着脱のしやすい衣服を用意してもらう。		■感染症予防のため、生活リズムを整え、体調管理に気を付けるよう伝える。 ■身の回りのことを自分でやろうとする姿を伝えるとともに、甘えたい気持ちも受け止め、思いに寄り添う大切さも共有する。				
健康及び安全 （食育・災害対応等）		■こまめに着替え、清潔になる気持ちよさを感じられるようにする。 ■休息や睡眠を十分に取れるように配慮する。 ■ハイハイや伝い歩きの子が、安全に遊べるスペースを確保する。 ■保育教諭等と落ち着いた雰囲気の中で、食事を楽しめるようにする。		■休息や水分を十分にとりながら、健康に過ごせるようにする。 ■安定した保育者とかかわりの中で、着脱、排泄などを自分でやってみようとする気持ちを大切にすること。 ■自分で食べようとする姿や、食具を使おうとする姿を認め、食べる意欲がもてるようにする。		■室温の管理や、衣服、布団の調整をし、体調を崩さないよう配慮する。 ■戸外遊びや排泄の後は、手洗いやうがいを「自分で」やりたい気持ちを大切にしながら、一人一人に丁寧にしかかわる。 ■スプーンやフォークの持ち方や使われている食材を伝えながら、自分で食べようとする姿を見守る。		■室内の換気や消毒に十分務め、感染症が広がらないよう配慮する。 ■お湯や石鹸での手洗いを伝え、清潔にする気持ちよさを知らせる。 ■食材に親しみがもてるように、食材を触ったり、噛んだりすることを大切にして、食べようとする意欲がもてるようにする。 ■おむつが濡れていない時や便意を感じた時にトイレに誘ってみる。				
職員の資質向上		園内研修		園内研修/個別配慮児訪問指導/救急救命講習・緊急通報訓練/虐待防止・対応研修		園内研修/個別配慮児訪問指導		園内研修/個別配慮児訪問指導				
園行事及び園事業		入園式/身体測定/内科健診/避難訓練		身体測定/避難訓練/歯科健診/個別懇談		身体測定/避難訓練/内科健診/歯科健診/保育参観(ビデオ鑑賞)		身体測定/避難訓練				

1年のねらい		一年間の保育に対する自己評価	園児(発達の理解)	保育教諭等(指導の改善)		
園児の姿			1期(4月～5月)	2期(6月～8月)	3期(9月～12月)	4期(1月～3月)
●進級したことに喜びを感じている子もいれば、新しい環境への不安や戸惑いを見せている子どももいる。 ●抛り所になる保育教諭等に気持ちを受け止めてもらい、少しずつ新しい環境に慣れて、友だちとのかかわりも増えていく様子が見られる。			●新しい環境に慣れ、安心して無理のないリズムで過ごす。 ●1日の生活の流れがわかり、身の回りのことに興味をもって自らやろうとする。 ○保育教諭等に親しみをもち、安定した中で一人一人が伸び伸び楽しんで遊ぶ。 ○好きな遊びを見つけ、遊びを通して友だちに親しみを抱いていく。 ●●戸外で気持ちよく体を動かし、春の自然物にふれていく。	●生活の流れがわかり、身の回りのことを自分でしようとする。 ●水や泥遊びを積極的に楽しんでいる子が多いが、中には、汚れることを嫌う子もいる。 ●友だちとのかかわりが増えてきているが、ものの取り合いや順番などで思いがぶつかり合い、トラブルになることも出てくる。	●身の回りのことについて自分でできることが増えてくる。 ●気の合う友だちとの遊びが持続するようになり、イメージを共有しながら遊ぶことを楽しむ様子が見られる。 ●散歩を通して、身近な季節の自然にふれ、興味をもったり、季節の変化に気づいたりする。	●異年齢の子どものかかわりにも関心をもち、新たな遊びに出会い、まねをしながら楽しんでいる。 ごっこ遊びや簡単なルールのある遊びを楽しめるようになる。 自分の体験を保育教諭等や友だちに言葉で伝え、保育者の支えを得ながら、相手の話にも耳を傾け、共有を楽しむ姿がある。
●学びに向かう力・人間性等 ●知識・技能の基礎 ●思考力・判断力・表現力等の基礎	期のねらい		●新しい環境に慣れ、安心して無理のないリズムで過ごす。 ●1日の生活の流れがわかり、身の回りのことに興味をもって自らやろうとする。 ○保育教諭等に親しみをもち、安定した中で一人一人が伸び伸び楽しんで遊ぶ。 ○好きな遊びを見つけ、遊びを通して友だちに親しみを抱いていく。 ●●戸外で気持ちよく体を動かし、春の自然物にふれていく。	●様々な食材に興味をもち、食を楽しむ。 ○●友だちと遊ぶ中で、保育教諭等の支えを受けながら、自分の思いや感情を表現し、互いの気持ちに気づいていく。 ●水、泥、砂などの感触を楽しむなど、夏ならではの遊びを十分に楽しみ、開放感を味わう。	●全身を動かして遊ぶ楽しさを知る。 ○友だちとイメージや簡単なルールを共有して遊ぶ楽しさを味わう。 ●自分のイメージしたことを様々な素材を使って表現することを楽しむ。 ●季節の自然にふれ、自然現象のおもしろさ、不思議さに関心をもつ。	●生活の見通しをもって、身の回りのことを自らすることに喜びを感じる。 ○●様々な体験からイメージを膨らませ、友だちとごっこ遊びを楽しむ・ ○●自分の発見や思いを保育教諭等や友だちに言葉で伝え、共有する。
	内容		●●新しい環境の中で、不安な気持ちを受け止めてもらいながら、保育教諭等や友だちと楽しい雰囲気の中で食事をしたり、安心して眠ったりする。 ○●様々な遊びの中から好きな遊びを見つけ、友だちと一緒に楽しむ。 ●散歩や園庭での遊びを通して、虫や植物など春の自然にふれ、興味をもつ。	●●栽培や収穫、調理などの様子を見ることにより、食材に興味をもち、食を楽しめるようにする。 ○●ごっこ遊びなどの友だちとのかかわりの中で、相手の思いや意図を感じたり、気づいたりする。 ●全身を使って開放的に遊ぶ。 ●水、泥、砂などを使った遊びを通して、それぞれの感触をじっくり味わい、その変化を楽しむ。	●走る、跳ぶ、登るなど全身を使って伸び伸びと遊ぶ楽しさを知る。 ○●絵本や紙芝居、日常経験などの共通のイメージをもとに、ごっこ遊びを楽しむ。また簡単なルールを共有して遊ぶ楽しさを知る。 ●季節の自然にふれ、興味をもった事象について自分なりに試し、探求することの楽しさを味わう。	●着替えや排泄などの必要なタイミングに自分で気づき、自信と喜びを感じながら自分で行うとする。 ○●●様々な体験からイメージを膨らませ、必要なものを作り、新たな展開を考え、友だちとごっこ遊びを楽しんでいく。 ○●●発見や思いを周囲の他者に言葉で伝え、共有することを楽しむ。
	★援助・配慮	◆環境構成	◆子どもの様子を見ながら遊ぶものの種類や量を検討し、好きな遊びにじっくりかかわり、落ち着いて遊び込める環境をつくる。 ◆好きな遊びを通して友だちとの出会いが生まれるよう、それぞれの遊びのコーナーや場の配置を工夫していく。 ◆散歩などで春の自然に親しむ機会をつくと同時に、図鑑や絵本、掲示などを通して興味・関心が生まれる工夫をしていく。 ★一人の子どもが安心して生活できるよう、不安や緊張を受け止めながら、穏やかなかかわりを心がける。 ★絵本や歌を通して、友だちと体を動かし、一緒に歌う楽しさを味わえるような機会をつくっていく。	◆水遊びや泥遊びは、それぞれのペースで楽しみ、水や泥と親しんでいけるよう、様々な楽しみ方のできる場や環境を用意する。 ◆園庭のプランターで夏野菜を育て、子ども自身がその成長を楽しむと同時に、収穫したものを一緒に調理することで食や食材に興味がもてるような機会をつくる。 ★ものの取り合いや順番などでトラブルになった際には、丁寧に気持ちを受け止め、互いの気持ちに気づけるよう配慮していく。 ★身の回りのことを自分でしようとする意欲を尊重し、じっくり取り組めるよう時間を確保し、手伝いが必要なところはさりげなく援助しながら、自立を支えていく。	◆体を動かす楽しさやリズムが合う心地よさを味わえるよう、多様な動きができる環境を用意し、子どもの楽しんでいる動きやリズムに合わせて楽しさを共感していく。 ◆運動会などの行事は、子どもたちの日常の遊びをもとに、みんなが楽しめるよう展開を考えていく。 ◆秋の自然にふれて、興味・関心を広げ、様々な制作ができるよう環境を整える。 ★絵本や紙芝居などのお話の世界のイメージを共有して楽しんでいるごっこ遊びが広がるよう、子どもたちの発信を支え、共有しやすくするための環境を工夫していく。	★身の回りのことを自分で行う喜びと自信を感じられるよう、自分でやろうとすることについてはゆっくり取り組めるようにし、できた喜びに共感していく。 ◆ごっこ遊びのイメージを共有し、さらに新たな展開が広がるよう、イメージに即したものと空間を考え、環境を整えていく。 ◆自らのイメージや体験、新たな発見などを伝えようとする姿に寄り添い、互いに伝え合う機会をつくり、共有につながる環境を整え、遊びの展開や友だちとのかかわりの広がりを支えていく。 ◆進級に向けて3歳以上児の環境に親しむ機会をつくと同時に、年上の子もたちとの交流の機会を大切にしていく。
子育ての支援			■新しい環境に対する保護者自信の不安や期待を受け止め、日々の子どもの様子を、丁寧に、具体的に伝えることを通して信頼関係を築いていく。	■暑さで疲れやすい時期でもあるため、睡眠時間や食事内容などの情報共有を丁寧に言い、子どもの体調管理を心がけていく。 ■個別懇談では、園での子どもの様子や保育者のかかわりを伝えながらも、それぞれの保護者の話を丁寧に聞き、家庭での様子や悩みなどにも丁寧に対応していく。	■保育参加は、園生活の様子や子どもたちのかかわりを知る機会となるよう、見てほしいポイントなども事前に丁寧に発信していく。	■子どもたちの遊びの中での育ちや経験を具体的なエピソードを交えて丁寧に発信していく。 ■進級に向けて、子どもの姿を丁寧に伝え、その成長を共有すると同時に、不安や期待などを個別に聞きながら丁寧に対応していく。
健康及び安全 (食育・災害対応等)			■落ち着いた雰囲気の中で、それぞれのペースで着替えたり、食べたり、眠ったりできるよう、個々に合わせた生活の流れを心がける。	■栽培・収穫した野菜は、栄養士と連携して、子どもと一緒に調理して食べる機会をつくっていく。 ■暑さや疲れなどで心身の不調が出やすい時期になるため、換気や室温の調整に気を配ると同時に、休息や水分補給をしっかりとるよう留意する。	■戸外から戻った際や食前などの手洗いやうがいをごまめに行い、風邪などの感染症予防に努める。 ■旬の食材を子どもと一緒に調理し、様々な食べ方を楽しむ。	■室内の温度、湿度を確認して調整し、換気に気を配ったりする。 手洗いやうがいをこまめに行い、感染症予防に努める・ ■進級後、新しい環境でも安心して過ごせるよう、新しい保育室や園庭などにも少しずつ慣れて、そこでの生活や遊びに來たいをもてるようにしていく。
職員の資質向上			園内研修	園内研修/個別配慮児訪問指導/救急救命講習・緊急通報訓練/虐待防止・対応研修	園内研修/個別配慮児訪問指導	園内研修/個別配慮児訪問指導
園行事及び園事業			入園式/身体測定/内科健診/避難訓練	身体測定/避難訓練/歯科健診/個別懇談	身体測定/避難訓練/内科健診/歯科健診/保育参観(ビデオ鑑賞)	身体測定/避難訓練

1年のねらい		・生命の保持 ・情緒の安定	■保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ■一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ■友達と一緒に食事をしたり、様々な食べ物を食べる楽しさを味わうようにする。 ■午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	一年間の保育に対する自己評価	園児（発達の理解）		保育教諭等（指導の改善）	
		・健康 ・人間関係 ・環境 ・言葉 ・表現	①身近な遊具や用具を使い、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ②自分でできることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣を次第に身につける。③保育教諭や友達の言うことを理解しようとする。 ④友達とのつながりを広げ、集団で活動することを楽しむ。 ⑤異年齢の子どもに関心を持ち、関わりを広める。 ⑥身近な動植物に親しみ、それらに関心や愛情を持つ。 ⑦身の回りの人々の生活に親しみ、身近な社会の事象に関心を持つ。 ⑧身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、身の回りの物事や数、量、形などに関心を持つ。 ⑨身近な事物などに関心を持ち、それらの面白さ、不思議さ、美しさなどに気づく。 ⑩人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。 ⑪絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、イメージを広げ、言葉を豊かにする。 ⑫感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で自由に表現する。					
園児の姿		1期(4月～5月)		2期(6月～8月)	3期(9月～12月)		4期(1月～3月)	
		●新しい環境や生活に不安を抱き、戸惑ったり、泣いたりする子どもがいる。 ●新しい環境に期待感をもって生活し、遊具などに興味をもってかわかる子どもがいる。 ●母親と離れることで不安になり、泣く子が見られる。		●自分のやりたいことが明確にある子どもが増えてきた。 ●クラスの一員であることがわかり、友だちや保育教諭等と一緒に喜びを感じる姿が増える一方で、ものの取り合いや言い合いが増えてきた。 ●身近な虫に興味をもち、虫探しを楽しんでいる。	●いろいろな遊びや他児のしていることに興味をもち、進んでかかわろうとする姿が見られる。 ●自分の思いを保育教諭等や友だちに伝えようとする。 ●身近な自然を感じ、自然を取り入れた遊びを楽しんでいる。		●気の合った友だちと遊びが継続し、助け合ったり、交代して待ったりすることができるようになる。 ●遊びの中で、自分の思いや表現を相手に伝えている。 ●園生活の仕方に自信がつき、自分でできることは自分で行う姿が多く見られる。	
●学びに向かう力・人間性等	期のねらい	①②部屋や保育教諭等、友だちやグループに慣れ、安心して過ごす。 ③園生活に必要な生活習慣や生活の流れがわかる。 ④⑤好きな遊びを見つけ、園で遊ぶ楽しさを知る。 ⑥⑦戸外で体を動かす心地よさを感じる。 ⑧保育教諭等や友だちと一緒に過ごす楽しさやうれしさを知る。		①安心してできる場所や好きな遊びを見つけ、くり返し遊ぶ。 ②③気温の差や日差しに留意し、健康に過ごす。 ④⑤自然の中で伸び伸びと体を動かす心地よさを感じる。 ⑥園生活に必要な生活習慣を知りやってみる。 ⑦夏の季節ならではの遊びや行事を楽しむ。	①②体を動かして友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ③④友だちと簡単なルールのあるゲームなどをし、みんなと一緒に遊ぶことを喜ぶ。 ⑤⑥自分の思いを保育教諭等や友だちに伝えようとする。 ⑦⑧友だちとイメージを共有しながら、ゲームや表現を楽しむ。 ⑨身近な自然を感じ、自然を取り入れて遊びを楽しむ。		①身の回りのことを自分で行う。 ②③自分の考えを言ったり、友だちの思いを聞いたりして、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ④自然に興味をもって遊ぶおもしろさを感じる。 ⑤遊びの中で様々に表現していくことを楽しむ。	
	内容	①②③気持ちを受容され、見守られながら安心して過ごす中で、友だちや保育教諭等と楽しく遊び、仲間やクラスのことを理解する。 ④園内外の危険や安全についての約束事を守り、安全に生活する。 ⑤生活や遊びのきまりごとを意識しながら生活しようとする。 ⑥⑦⑧戸外で体を動かし、春の心地よさを感じる。 ⑨⑩野菜の種まきなどを経験して、食に興味をもつ。 ⑪⑫保育教諭等と話したり一緒に遊んだりして楽しむ。 ⑬新たな遊具やコーナーに興味を持って遊ぶ。 ⑭元気に挨拶を交わす心地よさを知る。		①②③自分の気持ちを素直に表し、言葉で伝えようとする。 ④水分補給や休息をとって快適に過ごす。 ⑤必要に応じて自分で汗を拭いたり、着替えたりしようとする。 ⑥体育遊びに意欲的に挑戦しようとする。 ⑦雨具を付けて雨の日の園庭などを散策する。 ⑧⑨のりやはさみを使って製作をする。 ⑩⑪七夕、夏祭りなどに興味をもち、製作や踊りなどを楽しむ。 ⑫砂、泥、水遊び、ボディペインティング、プールなど、夏の遊びを全身で楽しむ。 ⑬虫捕りなどを楽しむ。 ⑭簡単な文字や数字に興味を示す。	①②③伸び伸びと戸外遊びを楽しむ。 ④⑤遊びに必要なものを準備したり、片づけたりする。 ⑥⑦自分や友だちと一緒に頑張ったことを喜び満足する。 ⑧⑨遊びに必要なものを作って遊ぶ。 ⑩⑪秋や冬の自然に触れ、製作や描写などを楽しむ。 ⑫⑬自然物や身近な素材で好きなものを作り、それを使って遊ぶことを楽しむ。 ⑭リズムに合わせて体を動かしたり、表現遊びを楽しむ。		①②③手洗いやうがい、衣服など身の回りの始末を行う。 ④⑤全身を使った遊びを十分にするなど、寒くても元気で活動的に過ごそうとする。 ⑥園庭などでラグビーなどのボール遊びを楽しむ。 ⑦ルールを共有しながら遊ぶ楽しさを味わう。 ⑧⑨友だちと一緒に歌ったり音を合わせたりする楽しさを味わう。 ⑩⑪クラスみんなでする活動の楽しさを味わい、自分の思いをみんなに伝えようとする。 ⑫伝統的な行事に触れて遊ぶ。 ⑬自分なりの表現方法で、伸び伸びと表現遊びや歌などを楽しむ。 ⑭⑮描いたり作ったりしたものを、保育教諭等と一緒に飾ったり使って遊んだりする。	
	★環境構成	◆園庭や遊具などの設備の点検を行い、安全を確認する。 ◆時間に余裕をもち、ゆったりとした一日の流れになるよう配慮する。 ◆やりたい遊びが十分にできる遊具や教具などを設定する。 ◆子どもが好きな遊びに没頭できるように、子どもの興味・関心に寄り添いながら、新たな工夫や展開ができるような素材や道具を準備し、様々なコーナーを配置し保育教諭等も一緒に楽しんでいく。 ★子どもの身支度や排泄場面などの様子をよく見て、自分でできない時、やってほしい時などに、保育教諭等に態度や言葉で伝えられるように、子どもが安心感をもって表現できる援助を心がける。 ★身近な動植物に興味をもち、自然物とのかかわりを楽しめるように援助する。		◆子どもが環境を通して興味・関心をもって遊んでいる姿を捉え、試行錯誤できる場所・時間・情報などを用意する。 ◆イメージの世界でなりきれるような小道具を用意したりする。 ◆子どもが直接ふれることのできる小動物や、じっくり観察できる水槽などを用意することを通して、子どもが発見を楽しめるようにする。 ★熱中症や感染症など夏に起こりやすい病気に気をつけ、気温や室温、子どもの表情や体温などに気を配る。 ★水のおもしろさを楽しめる様々な素材を用意し、子どものイメージと一緒に楽しみつつかわかる。	◆季節の自然物を取り入れて遊べるように意識的に材料を用意したり、わかりやすく分類したりして置いたりしておく。 ★運動会など、自分たちの楽しんだことがくり返し楽しめるようにしていく。 ★一人一人がやりたいことに向かう中で、友だちとのかかわりから刺激を受けたり興味を広げたりする姿を捉える。 ★戸外で体を動かす気持ちよさや運動の大切さを伝えていく。		◆子どもの発見や気づきに共感したり、見つけたものを一緒に調べたりしながら、冬の自然に対する興味・関心が深まるようにする。 ◆広い場所を確保して、友だちと一緒に伸び伸びと表現できるようにする。 ★ごっこ遊びの延長として友だちと一緒に劇を楽しめるように好きな物語や主人公になることを大切に劇遊びを進めていく。	
子育ての支援		■保護者も進級や入園に緊張や不安を抱いていることに考慮して、家庭での様子を聞き、園での子どもの様子を伝えていく。		■個別懇談で個々の成長過程を伝え、今後の課題を家庭と共有し、協力を得る。 ■食欲が落ちるなど、体調の変化に留意して家庭との緊密な連携に努める。	行事は子どもたちの成長のためにあることを伝え、理解してもらえるようにする。		■感染症などでの欠席状況を随時掲示して、感染症予防への協力を呼びかける。 ■おたよりなどで、遊びや生活を通しての育ちを具体的な事例で伝え、1年間の育ちを保護者と共有できるようにする。	
健康及び安全 （食育・災害対応等）		■新しい園生活が展開されていることに留意し、子どもの心身の様子に気を配る。 ■給食を楽しく食べられるように配慮する。 ■新たな場所や素材と出会うため、安全に気を配る。		■収穫した夏野菜を味わったり、様々な夏の食材に触れたりして、興味をもつ。 ■夏の病気や過ごし方についての話をし、子どもが健康で安全な生活を送れるように配慮する。	■園庭やホールで会食し、みんなで一緒に食べるうれしさや楽しさを味わえるようにする。 ■改めて道具や遊具の使い方について、子どもとその都度確認し、楽しく安全に生活できるように援助する。		■風邪やインフルエンザなどが流行する時期なので、手洗いやうがいの意味を確認し、丁寧に行うよう伝えていく。 ■クッキングやパーティなどを通して、みんなで一緒に食べる楽しさを味わう。	
職員の資質向上		園内研修		園内研修/個別配慮児訪問指導/救急救命講習・緊急通報訓練/虐待防止・対応研修	園内研修/個別配慮児訪問指導		園内研修/個別配慮児訪問指導	
園行事及び園事業		入園式/身体測定/内科健診/避難訓練/春の遠足 4月のつどい(入園・進級おめでとう) 5月のつどい(こどもの日)		身体測定/避難訓練/歯科健診/個別懇談/交通安全教室/プール開き/スイカ割り 6月のつどい(歯磨き指導) 7月のつどい(七夕) 8月のつどい(夏まつり)	身体測定/避難訓練/運動会/いもほり/保育参観/秋の遠足/内科健診/歯科健診/交通安全教室 9月のつどい(敬老の日) 10月のつどい(うんどうかいごっこ) 11月のつどい(おみせやごっこ) 12月のつどい(クリスマス)		身体測定/避難訓練たのしいつどい(生活発表会)/お別れ遠足/お別れ会/卒園式 1月のつどい(おもちゃつき) 2月のつどい(節分) 3月のつどい(ひなまつり)	

1年のねらい		・生命の保持 ・情緒の安定	■保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ■一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ■食事をすることの意味が分かり、楽しんで食事や間食をとるようにする。 ■午睡など適切な休息をさせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	一年間の保育に対する自己評価	園児（発達の理解）		保育教諭等（指導の改善）
		・健康 ・人間関係 ・環境 ・言葉 ・表現	様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。 自分でできることの範囲を広げながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける。 安全や危険の意味やきまりが分かり、危険を避けて行動する。 周囲の人々に対する親しみを深め、集団の中で自己主張したり、また、人の立場を考えながら行動する。 異年齢の子どもたちと遊ぶ楽しさを味わう。 身近な社会や自然事象への関心が高まり、様々なものの面白さ、不思議さ、美しさなどに感動する。 身近な社会や自然の環境と触れ合う中で、自分たちの生活との関係に気づき、それらを取り入れて遊ぶ。 日常生活に必要な事物を見たり、扱ったりなどして、その性質や存在に興味を持ったり、数、量、形などへの関心を深める。 様々な機会や場で活発に話したり、聞いたりして、生活の中で適切に言葉を使う。 絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、その内容や面白さを楽しみ、イメージを豊かにげる。 感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して、表現する。				
園児の姿		1期(4月～5月)		2期(6月～8月)	3期(9月～12月)	4期(1月～3月)	
		●進級したことを喜び、様々なことに意欲的に取り組む姿が見られる一方で、新しい環境に戸惑う姿も見られる。 ●自分の好きな遊びを、気の合う友だちと楽しむ。 ●身近な春の自然に興味・関心をもち、遊びに取り入れる姿が見られる。		●1日の流れに見通しをもち、身の回りのことや自分のやりたい遊びに積極的に取り組む姿が見られる。 ●栽培する野菜や身近な生き物に興味・関心をもつ姿が見られる。 ●砂場やプールなどで、ダイナミックに水を使った遊びを楽しむ姿が見られる。	●友だちと共有した目標やイメージに向かって協力して取り組む姿が見られる。 ●個々の楽しい経験を遊びの中に生かそうとする姿が見られる。 ●季節の変化に応じて、それぞれの時期特有の気候の変化や行事を遊びの中に取り入れる姿が見られる。	●子ども同士で、思いや考えを出し合い、互いの表現やアイデアを認め合う姿が見られる。 ●この時期ならではの遊びや行事を楽しむ姿が見られる。 ●5歳児クラスになることに期待を用いて、様々なことに意欲的に取り組んでいる。	
●学びに向かう力・人間性等	期のねらい	様々な新しい生活に慣れ安心して過ごす。 自分の思いを発揮し、身の回りのことを意欲的に取り組む。 好きな遊びを見つけ、じっくり遊ぶことを楽しむ。 生活や遊びを通して保育教諭等や友だちに親しみをもつ。		友だちがしていることに興味・関心をもち、一緒に遊ぶ楽しさやおもしろさを感じる。 夏の遊びや自然、行事を楽しみ、友だちと共有し、喜びを味わう。 飼育や栽培を通して身近な生き物にふれ、興味・関心をもつ。	友だちと共有した目標やイメージに向かって協力して取り組む姿が見られる。 個々の楽しい経験を遊びの中に生かそうとする姿が見られる。 季節の変化に応じて、それぞれの時期特有の気候の変化や行事を遊びの中に取り入れる姿が見られる。 運動遊びなどを通して、友だちや周りの人とのつながりを深め、集団で協同して活動することを楽しむ。 自分の思いを伝えたり、友だちの思いを聞いたりしながら、目標やイメージを共有して遊び、達成感を得る。 園生活の決まりを守る中で、公共のルールにも気付いていく。 楽しかった経験を友だちや保育教諭等と再現し、共有しながら楽しむ。 季節の移り変わりやそれぞれの時期特有の自然や気候に親しむ。	進級することへの喜びと期待感をもつ。 1つのテーマを共有し、友だちと協力し、意見を出し合って遊ぶことを楽しむ。 イメージを共有して遊びを進めていく中で、体の動きや言葉などいろいろな方法で表現する。 日本の伝統文化に親しみをもち、楽しむ。 身近な自然に触れ、季節の移り変わりを感じる。	
	内容	進級した不安や期待を保育教諭等に受け止めてもらい、日々の生活に安心感を持ち、伸び伸びと友だちと関わっていく。 生活リズムを整え、健康的な生活を送るために必要な習慣を身に付けられるようにする。 戸外遊びを楽しみ、自然物に触れる。 友だちや保育教諭等と一緒に遊ぶことを楽しみ、その喜びを共有する。 遊びの内容に応じて、道具や素材を自由に選び、活用する。		友だちや保育教諭等の話を興味をもって聞こうとする。 夏祭りなどを通して、友だちとのやり取りを楽しむ。 自分で作ったものを遊びに取り入れれたり、室内で作ったものを、戸外に持ち出して遊びに活かしたりする。 水や砂、草花などに親しみ、泡遊びや染遊びなどをいろいろな素材や用具を使い、工夫して遊ぶ。 夏の自然(生き物、植物、天気など)に興味・関心をもち、自分たちなりに調べることを楽しむ。	友だちと協力して遊ぶことの楽しさを実感し、遊び込むことで達成感を得る。 友だちと共通のイメージをもって、必要なものを考え、準備する。 生活や集団活動の中で、よい悪いを判断し、考えながら行動する。 友だちと楽しく過ごす中で、きまりの大切さに気付きまもうとする。 「ごめんなさい」「ありがとう」が素直に言えるようになる。 楽しかったことを自分の言葉で説明し、友だちや保育教諭等と共有して、再現する。 季節の変化やそれに伴う自然の変化に気づき、遊びに取り入れる。	5歳児の姿に刺激を受け、一緒に遊んだり、自分たちの遊びに取り入れれたりする。 友だちの良さに気付いたり、相手を受け入れたりしながら友だちと一緒に活動する。 季節ごとの遊びや季節ならではの事象を堪能する。 1年間を振り返り、今の自分に自信をもち、進級に期待をもつ。 様々な遊びを通して、文字や数への興味・関心が高まる。	
	★環境構成	遊びに必要な素材や道具を準備し、どこに、どんなものが置いてあるのかわかるように掲示を工夫する。 ★一人一人の長所や好きなことを関わりながら捉えていく。 ★他者との関りがうまくもてるように、人の話はよく聞き、また自分で話して伝えることも大切であることを知らせていく。 ★初めて使う道具や素材などは、集まりなどの場で随時伝えていく。 ★保育教諭等も子どもと共に一緒に遊ぶことを楽しむ。		保育室内の環境構成を、子どもの興味・関心に応じて見直し、再構成する。 栽培している植物や飼育している生き物の世話を、子どもたち自身がやりたい時にできるように、道具や図鑑などを用意し、コーナーを子どもと共に作る。 プール遊びでは、いろいろな遊び方、参加の仕方が可能になるようにする。 育てている植物の生長や飼育している生き物の成長を保育教諭等も楽しみながら一緒に行う。 ★それぞれの子どもがどんなことに興味をもち、どんな発見や問いを生み出しているか温かい関心を寄せながら一緒に遊ぶ。	子どもたちが話し合いの場をつくれるように、道具や環境を整える。 発見した季節の変化などを自由に発表し合う場や調べることができるコーナーを作る。 ★個々の楽しい経験が、新たな遊びの創出につながることを予想し、それぞれの経験を丁寧に聞き、思いを受けとめていく。 ★子どもたちがやってみようとする姿を見守りながら、様子に応じて一緒に話し合いに参加したり、考えたりし、子どもたちのアイデアやイメージが形にできるようにしていく。 ★個々の子どもたちが「自分はこうしたい」という気持ちを安心して表現できるように配慮する。	遊びや生活の中で、友だちとアイデアを出し合う機会をつくる。 ★子どもたちの興味・関心に合わせて、新たな素材や道具も加えながら、各コーナーを充実させていく。 ★自分の考えや気持ちを表す姿に共感したり、認めていくことで、自信がもてるようにする。 ★5歳児への思いや憧れを丁寧に受け止めていく。 ★保育教諭等が季節ならではの身近な事象を敏感に察知し、子どもたちが興味をもてるように声をかける。 ★1年間を振り返り、楽しかったことやおもしろかったことを共有し、実際にやってみたりしながら、進級することに期待がもてるように援助する。	
子育ての支援		園児の緊張や不安などを受け止めながら、安心して登園できるよう保護者から家庭での様子を聞き取り、理解に努める。 保護者に登降園時の安全や駐車場の使い方など、大人が手本になれるよう伝えていく。 友達との関わりが深まるとともに、トラブル等が増えてくる時期であることや、その中で育つ人間関係や力についても伝え、愛着の重要性についても伝えていく。 園児の育ちの見通しや保育内容をドキュメンテーションで伝えていく。		個人懇談などを通して、園と家庭での様子を伝え合い連携を図るとともに、他職員とも共通理解し、園児の育ちにつなげていく。 保護者が懇談会に参加しやすいよう、日程や時間の配慮を行う。 盆休みなどで欠席が続いた後は、家庭での様子、園での様子を互いに伝え合い、それぞれの生活に活かせるようにする。 家庭生活でも、身近にある素材や用具を使用する機会を持ち、親子の触れ合いが深められるように発信をする。	運動会などの園行事では、園だよりやドキュメンテーションなどで、ねらいやそこへ向かっていく過程を伝え、主旨や子どもの姿を共有したうえで当日を迎えるようにする。 保育参加を通して、子どもたちの今の姿を見てもらい、子どもの育ちや園生活を知ってもらう。	基本的な生活習慣や態度、遊び方、友達関係など、園児の日常生活について発信し、成長への期待の支えとなるよう関わり、保護者と共に考えていく。 保護者の不安を受け入れながら、見通しを持った園児の発達を伝え、5歳児への進級に安心感がもてるようにする。 園児の日々の姿、成長をポートフォリオ等で発信し、結果ではなく過程を認めてもらう。	
健康及び安全 (食育・災害対応等)		楽しんで食事をするとともに、食事のマナーへの関心を高める。 手洗い・うがいを丁寧にを行う。		夏を心地よく、健康に過ごすために着替えや水分補給などを自らおこなえるようにする。 安全に楽しめるよう、水遊びやプール遊びのルールを守る。	遊びがダイナミックになってきている頃なので、遊具や道具の使い方に注意を払い、必要に応じてルールやきまりを再確認する。 公共の場に出る時はルールやマナーがあることを丁寧に知らせていく。	寒い時期は、急な運動は避け、準備運動への意識を高める。 伝統食・行事食を食べ、日本の伝統文化や食を楽しむ。 感染症や風邪などの予防のため、手洗い・うがいの意味を丁寧に伝え、主体的にできるようにする。	
職員の資質向上		園内研修		園内研修/個別配慮児訪問指導/救急救命講習・緊急通報訓練/虐待防止・対応研修	園内研修/個別配慮児訪問指導	園内研修/個別配慮児訪問指導	
園行事及び園事業		入園式/身体測定/内科健診/避難訓練/春の遠足 4月のつどい(入園・進級おめでとう) 5月のつどい(こどもの日)		身体測定/避難訓練/歯科健診/個別懇談/交通安全教室/プール開き/スイカ割り 6月のつどい(歯磨き指導) 7月のつどい(七夕) 8月のつどい(夏まつり)	身体測定/避難訓練/運動会/いもほり/保育参観/秋の遠足/内科健診/歯科健診/交通安全教室 9月のつどい(敬老の日) 10月のつどい(うんどうかいごっこ) 11月のつどい(おみせやごっこ) 12月のつどい(クリスマス)	身体測定/避難訓練/たのしいつどい(生活発表会)/お別れ遠足/お別れ会/卒園式 1月のつどい(おもちゃつき) 2月のつどい(節分) 3月のつどい(ひなまつり)	

1年のねらい		■保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ■一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ■できるだけ多くの種類の食べ物をとり、楽しんで食事や間食をとるようにする。 ■午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。	一年間の保育に対する自己評価	園児（発達の理解）	保育教諭等（指導の改善）
		●健康 ●人間関係 ●環境 ●言葉 ●表現			
園児の姿		1期(4月～5月)	2期(6月～8月)	3期(9月～12月)	4期(1月～3月)
		●新しい環境に慣れ、自分のクラスを居心地のよい場所と感じ、クラスの友だちと安心して過ごす。 ●5歳児になったことを自覚し、自ら生活を進めたり、進んで役割を果たし、主体的に遊んで楽しむ。 ●思いや考えを伝え合いながら遊びを楽しむ姿が見られる。	●自ら、考え、見通しをもって遊びを楽しむ。●自然現象などに深く興味を抱き、様々な事物について、不思議に感じ、疑問を抱き、探求しようとする。 ●事物や友だちとじっくりとかかわり、その特徴や個性などに気づき、さらにかかわりを深めて遊びを楽しむ。	●互いの体調に関心をもち、考えながら、健康に過ごす。 ●意見の相違を柔軟に受け止め、相談しつつ遊びを楽しむ。 ●様々な人と役割やつながりに気づき、尊重し、親しむ。 ●意見を交わしながらルールのある遊びを楽しんだり、アレンジしたり、ルールを作ったりして楽しむ。	●相手の受け止め方などを配慮し、分かり合えるように工夫しながら、協同的に遊びを楽しむ。 ●友だちと一緒に目標をもって遊び、やり遂げた自信と達成感を感じ、さらに意欲的な姿が見られる。 ●小学校的生活をイメージし、希望をもって過ごす。
●学びに向かう力・人間性等	期のねらい	●集団生活の中で自分の気持ちを伝え、安心して生活や遊びを楽しむ。 ●全身を思い切り動かし、五感を大いに活用して、遊びを楽しむ。 ●互いの言葉や表現を工夫し、思いや考えを伝え合おうとする。 ●身近な自然、動植物に関心をもち、主体的にかかわり、遊びに取り入れたり、飼育や栽培などの世話をしたりして、親しむ。	●状況に応じて自ら考え、健康的で安全に過ごせるように行動する。 ●友だちや他者との関係を深め、充実感を味わい、遊びを楽しむ。 ●自然や天気の変化に興味をもち、特徴や関係性に気づいて、健康に過ごせるように対応したり、疑問を抱いて研究したりする。 ●見通しをもって考え、創作し、表現して、遊びを楽しむ。	●自ら健康と安全に配慮し、季節などを遊びに取り入れて楽しむ。 ●互い友だちと意見を出し合い、相談し、合意を図ったりしながら、自分たちらしさを発揮して、協同的に遊びを楽しむ。 ●遊びや生活の中で積極的に役割を見つけ、それぞれが自己発揮し、認め合い、集団の関係性の中で充実感を味わう。 ●国歌や国旗に触れる中で国際理解への意識や思いをもつ。	●個性を認め合い、多方面に興味を広げ、遊びを楽しむ。 ●充実した園生活を過ごし、互いの成長に誇りを感じ、夢や自信をもって卒園を迎える。 ●協同し、創造力を発揮して、言葉、動き、音、道具を工夫して創作や表現を楽しみ、達成感を味わう。 ●冬の遊びや自然の変化に興味を持つ。
	内容	●保育教諭等とのかかわりの中で信頼関係を築き、自分の気持ちを伝え、安心して過ごせるようにする。 ●基本的な生活リズムを整え、健康な生活を送るために必要な習慣を身に付けていけるようにする。 ●安心して主体的に生活し、全身を使って友だちと遊びを楽しむ。 ●互い自分の気づきや、考えなどを共有し、遊びや生活に取り入れて楽しむ。 ●飼育や栽培に主体的にかかわる。	●自分の体に興味を持ち、必要性を考え、自ら健康的に過ごす。 ●生活に必要な決まりを理解し、行動する。 ●季節の変化に関心をもち、共にかかわり、探求する。 ●イメージを共有し、試行錯誤、創意工夫して、継続的に遊びを楽しむ。 ●互い気づきや発見、考えを数量や図形、文字を活用しながら共有する。 ●身近な生活に使う簡単な物や遊びに使う物を工夫して作る。	●様々な人と相談し、創意工夫し楽しむ。 ●特徴や機能を意識しながら、遊びを楽しむ。 ●行事や活動、遊びにおいて、意欲的に取り組み、満足感や達成感をもつ。 ●友だちと様々な体験を重ねる中で自分の気持ちを調整し、友だちと折り合いを付けながら協力する楽しさや充実感を味わう。	●健康や安全、社会・時事問題など多方面に興味を広げ、協同的に考え、主体的に遊びや生活を楽しむ。 ●様々な人との触れ合いを通し、自分が成長したことに気づき、感謝の気持ちをもつ。 ●充実した園生活を過ごし互いの成長に誇りを感じ、夢や自信をもって卒園を迎える。 ●遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字、時間などに親しむ体験を重ね、それらの役割に気づき、意識しながら活動する。 ●我が国の伝統的な遊びや、国歌、唱歌、わらべうたに親しんだり、異なる文化に触れる。 ●冬の遊びや自然などの身近な現象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
	★環境配慮	◆庭園や、地域の自然の中で十分に体を動かすことができるように、安全性を配慮し、十分な空間をつくる。 ◆草花、木の実など、多様な色、形、大きさ、固さ、匂いなど、五感を働かせることができる自然環境づくりを工夫する。 ◆好きな遊びの場面や、振り返りや話し合いの場面を設ける。 ★生活リズムや、体調に配慮し、個々の子どもの様子に応じて、安全や、休息などについて問いかける。 ★自分の思いや考えを互いに伝え合う姿を見取り、その様子を認め、さらに伝え合いが深まるように、問いかけたり、共感したりなど、語り合いの援助を行う。	◆時計を見ながら行動できるよう、時間の目安を決める。 ◆自然の変化に気づけるよう、絵本や図鑑をすぐに見やすい位置に用意する。 ◆子どもの姿を踏まえて、要望に応じつつ、多様な材料、イメージの具現化を図る道具、作業可能な環境や時間を十分に用意する。 ◆特徴や変化についての気づき、考え、探求を写真や図、掲示などで表し、共有できるような環境を子どもと一緒につくる。 ◆共に試行錯誤し、創意工夫して楽しかった経験を振り返って確認し、達成感や充実感が味わえるように、記録や掲示を工夫する。 ★自分の気づきや考えを描き、言葉にする姿や友だちと共有する姿を認め、説明などの言葉を添えたりして、援助する。 ★グループなどの話し合いの内容、創意工夫したこと、実際に楽しかったことを、クラスで共有し、自身につなげ、達成感を感じることができるとを設ける。	◆様々な運動器具、用具の安全点検を行う。 ◆いろいろな楽器を用意し、楽器の演奏の仕方、音色の違い、美しさに気付けるようにする。 ◆気づき、調べた内容、人に尋ねたこと、話し合ったことなどが共有できるように、資料、図、写真、ボードなどを用意する。 ◆自分たちで遊びや、ゲームをつくろうとする子どもの要望に応じて、材料を十分に用意し、自分たちで選び、準備し、活用し、片付けることができるように、分かりやすい場所に置く。 ★話し合いで、互いの考えが伝わりにくい様子が見られた場合は、内容を確認したり、まとめたりして、共通理解を促す。 ★ルールを作る楽しさを共感し、ルールがあるからこそ楽しめる点などについて確認したり、気づきを促したりする。 ★皆で一つのことに取り組む楽しさを伝え、頑張っている姿を認め、あきらめずに挑戦していくことの大切さを知らせていく。 ★友だち同士で励まし合い、認め合えるよう見守っていく。	◆一緒に考えた意見や工夫など、話し合いのプロセスをたどりながら共有できるように、ボードや記録の環境を用意する。 ◆数や文字、記号などを掲示し、関心をもった子どもが活用できるように、手軽に持ち運びのできる表などを用意する。 ◆小学校へ訪問できる機会を設ける。 ◆小学校のクラスだより、教科書、通学路の地図、給食の写真などを子どもと共に用意し、小学校生活への期待を共有する。 ★互いの発見、探求、創意工夫などを比較し、共有し、対話する機会を設け、伝え合ったり教え合ったりする姿を求め、促す。 ★個々の意見が反映され一体感に楽しめるように配慮する。 ★なりきったり、ユニークな表現を工夫したりする姿を認める。 ★見通し、計画、協力する姿を認め必要に応じて援助する。 ★クラスで一緒に食事、園外活動、卒園式の準備、大掃除など子どもたちの提案を受け、一体感を深める機会を考える。 ★4歳児へ来年度の年長児としての引継ぎを行えるような機会を設ける。 ★行事を通して自信を付け、誇りを持ち就学を迎えられるようにしていく。
子育ての支援		■園児の様子や保育内容がわかるよう、連絡帳、おたよりやドキュメンテーションを使って知らせていく。 ■園外保育のルートや実施時のルールを保護者に伝える。	■製作が豊かに展開するように廃材などの提供の協力を依頼する。 ■体調を崩しやすい時期なので、注意喚起をして、健康に過ごすための情報を発信し、健康状態についての連絡を密にする ■友達関係が深まり、楽しく、充実して遊ぶ様子を伝え、ともに喜ぶ。	■園行事について十分に説明を行い、協力しながら進めていけるようにし、子どもの楽しんでいる姿を喜んでもらう。 ■自然や季節、他者への気づきや、かわり、探求の様子を伝え、家庭でも一緒に話題にしたり、調べたりして、園の活動とのつながりを促す。 ■子どもの豊かな発想や、創意工夫の様子を伝え、共に喜び、褒めたり、認めたりする。	■グループでの活動や、クラス全体の様子と、関係性の中での個々の子どもの育ちを伝え、社会性の育つ様子を伝える。 ■小中学生への不安や心配を払しょくできるように、子どもの成長を感じ、子どもの力を信頼できるように保護者との連絡を密にし、連携を図る。
健康及び安全 （食育・災害対応等）		■楽しんで食事をするとともに、食事のマナーへの関心を高める。 ■手洗い・うがいを丁寧に行う。	■夏を心地よく、健康に過ごすために着替えや水分補給などを自らおこなえるようにする。 ■安全に楽しめるよう、水遊びやプール遊びのルールを守る。	■遊びがダイナミックになってきている頃なので、遊具や道具の使い方に注意を払い、必要に応じてルールやきまりを再確認する。 ■公共の場に出る時はルールやマナーがあることを丁寧に知らせていく。	■寒い時期は、急な運動は避け、準備運動への意識を高める。 ■伝統食・行事食を食べ、日本の伝統文化や食を楽しむ。 ■感染症や風邪などの予防のため、手洗い・うがいの意味を丁寧に伝え、主体的にできるようにする。
職員の資質向上		園内研修	園内研修/個別配慮児訪問指導/救急救命講習・緊急通報訓練/虐待防止・対応研修	園内研修/個別配慮児訪問指導	園内研修/個別配慮児訪問指導
園行事及び園事業		入園式/身体測定/内科健診/避難訓練/春の遠足 4月のつどい(入園・進級おめでとう) 5月のつどい(こどもの日)	身体測定/避難訓練/歯科健診/個別懇談/プラネタリウム鑑賞/ 交通安全教室/プール開き/スイカ割り 6月のつどい(歯磨き指導) 7月のつどい(七夕) 8月のつどい(夏まつり)	身体測定/避難訓練/運動会/いもほり/保育参観/秋の遠足/内科健診/ 歯科健診/交通安全教室 9月のつどい(敬老の日) 10月のつどい(うんどうかいごっこ) 11月のつどい(おみせやごっこ) 12月のつどい(クリスマス)	身体測定/避難訓練/たのしいつどい(生活発表会)/お別れ遠足/お別れ会/卒園式 1月のつどい(おもちゃつき) 2月のつどい(節分) 3月のつどい(ひなまつり)